

四街道市
多文化共生市民意識調査
報告書

令和7年3月
四街道市

目次

I 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 調査の実施状況	3
3 調査項目	3
4 地区の構成	4
5 国籍・地域の構成	4
6 本報告書を読む際の留意点	4
7 分析記述の基本的考え方	4
II 日本人向け調査	6
1 あなたのことについて	7
(1) 年齢	7
(2) 性別	7
(3) お住まいの地域	8
(3-1) お住まいの地域（地区別）	9
2 地域等で生活する外国人について	10
(4) お住まいの地域に外国人は住んでいますか.....	10
(5) 親しみを感じているか	12
(6) 外国人との交流	16
(7) どのようなときにやり取りしたか.....	20
(8) やり取りをした時の言語	21
(9) やり取りが全くない理由	22
(10) 外国人住民との付き合い	23
(11) 付き合いのある場所	27
(12) 外国人住民とのかかわりで困ったこと.....	28
(13) 外国人住民が困っていると思うこと.....	29
3 多文化共生について	30
(14) 「多文化共生」という言葉・考え方について.....	30
(15) 外国人住民が増えた場合の影響.....	34
(16) 外国人住民との交流をする際の課題.....	35
(17) 地域で外国人住民と共に暮らすために、外国人住民に望むこと.....	36

(18) 地域で外国人住民と共に暮らすために、自分ができること.....	37
(19) 地域で外国人住民と共に暮らすために、必要な取り組み.....	38
4 やさしい日本語について	39
(20) 「やさしい日本語」について.....	39
5 そのほか	43
(21) 多文化共生に関わるご意見等.....	43

Ⅲ 外国人向け調査 44

1 あなたのことについて	45
(1) 国籍・地域	45
(1-1) 国籍・地域	46
(2) 性別	46
(3) 年齢	47
(4) 在留資格	47
(5-1) 日本の居住年数	48
(5-2) 四街道市の居住年数	48
(6) お住まいの地区	49
(6-1) お住まいの地域（地区別）.....	50
(7) 住宅	50
2 四街道市での生活について	51
(8) 四街道市に住んでいる理由.....	51
(9) 生活で困っていることや不安なこと.....	52
(10) 生活で困ったときに相談する人.....	53
(11) 自治会への加入状況	54
(12) 日本人との会話	57
(13) 話さない理由	60
(14) 地域の活動やまちづくりの活動.....	61
(15) 不快な思いをしたことがあるか.....	64
(16) どのようなことで不快な思いをしたか.....	67
3 ことばについて	68
(17) いつもの生活でよく使うことば.....	68
(18) 日本語の理解度	69
(19) 日本語の会話能力	72
(20) 日本語をどれくらい読めるか.....	75
(21) 日本語をどれくらい書けるか.....	76
(22) 日本語を勉強しているか	77

(23) 日本語を勉強している理由.....	80
(24) 日本語を勉強したいか	81
4 あなたの仕事について	84
(25) 就労状況	84
(26) 雇用形態	87
(27) 仕事内容	90
5 情報、インフォメーションについて	93
(28) 四街道市の情報をどうやって知るか.....	93
(29) 市の公式 SNS などへの登録状況.....	94
(30) 四街道市の情報の発信について.....	95
6 健康診断や病院でのことばについて	98
(31) 定期健康診断の受診状況	98
(32) 病院に行く場合について	101
7 地震や台風について	102
(33) 地震や台風のときに逃げるところ.....	102
(34) 地震や台風のことを知る方法.....	105
8 子どものことについて	106
(35) 子どもの人数	106
(36) 子どもの勉強する場（1人目の子ども）	107
(37) 子どもの勉強する場（2人目の子ども）	110
(38) 子どもの日本語について（1人目の子ども）	113
(39) 子どもの日本語について（2人目の子ども）	116
(40) 家族の中での言葉の問題	119
(41) 家族の中での言葉の問題の具体的な内容.....	122
9 行政サービス、市のサービスについて	123
(42) 四街道市に望むサービス	123
(43) 四街道市国際交流協会（YOCCA）の認知度.....	124
10 そのほか	127
(44) これからの日本での予定	127
(45) 四街道市への定住意向	130

I 調査の概要

1 調査目的

四街道市の方向性を示すうえで地域の現況や多文化共生に対する認識を把握し、より市の現状に合ったプランの策定のための重要な基礎資料として活用する目的で調査を実施いたしました。

2 調査の実施状況

調査時期 令和6年12月1日～令和6年12月13日
調査対象者 日本人:1,200名
外国人:1,400名
合計:2,600名

3 調査項目

本調査の調査項目は、以下のとおりです。

日本人向け調査

調査項目	
1. あなたのことについて	2. 地域等で生活する外国人について
3. 多文化共生について	4. やさしい日本語について

外国人向け調査

調査項目	
1. あなたのことについて	2. 四街道市での生活について
3. ことばについて	4. あなたの仕事について
5. 情報、インフォメーションについて	6. 健康診断や病院でのことばについて
7. 地震や台風について	8. 子どものこと
9. 行政サービス、市のサービスについて	10. そのほか

4 地区の構成

地域特性を把握するため、町会(地域)区分を下記6地区に分類しています。

地区名	地域名
地区A	亀崎、物井、長岡、千代田、池花、もねの里
地区B	栗山、内黒田、萱橋、大日、つくし座、さちが丘
地区C	下志津新田、四街道、鹿放ヶ丘、さつきヶ丘、中央
地区D	鹿渡、和良比、みのり町、美しが丘、めいわ
地区E	山梨、小名木、成山、中台、中野、南波佐間、上野、和田、旭ヶ丘、みそら
地区F	吉岡、鷹の台

5 国籍・地域の構成

出身地ごとの特性を把握するため、選択肢の国名ごとに下記8地域に分類しています。

分類地域名	該当する国名(問1の選択肢)
南アジア	アフガニスタン、パキスタン、ネパール、スリランカ、インド
東アジア	中国、韓国、モンゴル、台湾
東南アジア	ベトナム、フィリピン、インドネシア、マレーシア、タイ
北アメリカ	カナダ、アメリカ
南アメリカ	ブラジル
ヨーロッパ	イギリス
アフリカ	ウガンダ
その他	その他

6 本報告書を読む際の留意点

- 図表中の「n」は、その設問への回答対象数を表しています。
- 図表中の数値は、特に断りのある場合を除き、いずれも回答率(%)を表示しています。
- 回答率(%)は小数点以下第一位までを表示しています。したがって、その合計値が100.0%にならない場合があります。
- 回答には、単数回答と複数回答があり、複数回答は、回答率が100.0%を超える場合があります。
- 本報告書での分析記述の考え方については、「7 分析記述の基本的考え方」のとおりとします。

7 分析記述の基本的考え方

- 本調査の全体の結果、全体と各属性を中心に分析記述を行っています。
- 統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとします。

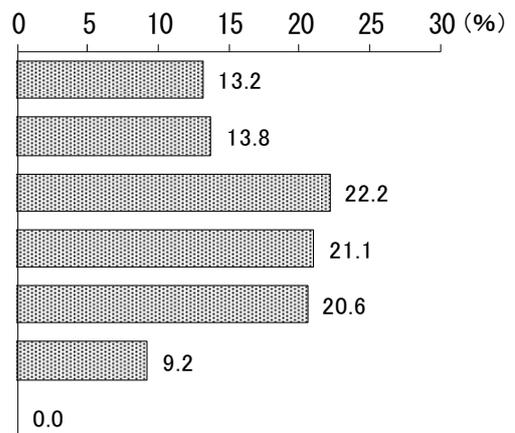
文章表現	20.1~20.9% : 約2割	26.5~27.9% : 2割半ばを超え
	21.0~23.9% : 2割を超え	28.0~28.9% : 3割近く
	24.0~26.4% : 2割半ば	29.0~29.9% : 約3割

Ⅱ 日本人向け調査

1 あなたのことについて

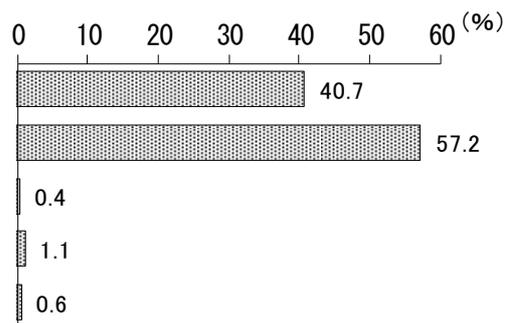
(1) 年齢

	基数	構成比
1 10代・20代	72	13.2%
2 30代	75	13.8
3 40代	121	22.2
4 50代	115	21.1
5 60代	112	20.6
6 70代以上	50	9.2
(無回答)	0	0.0
合計	545	100.0

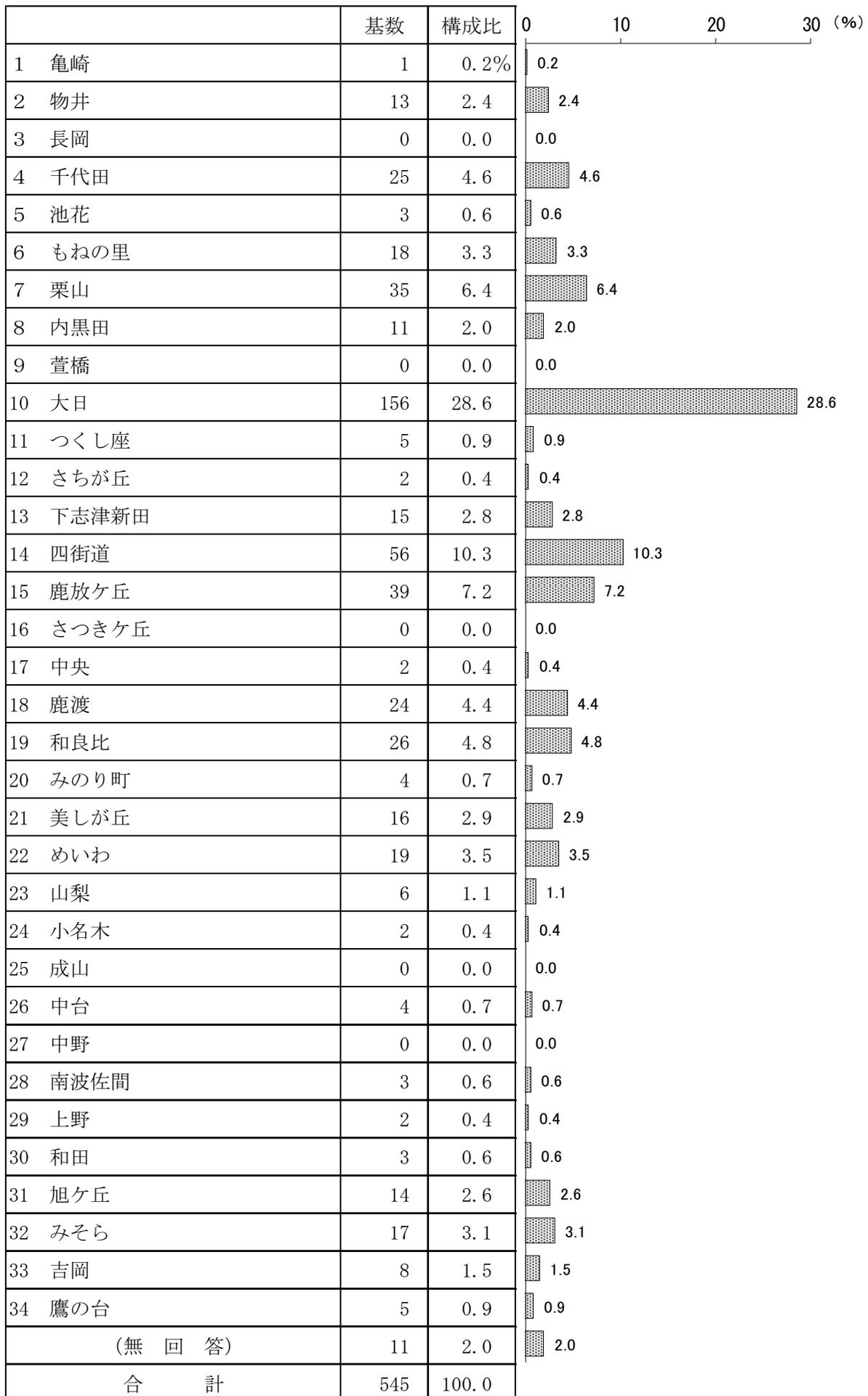


(2) 性別

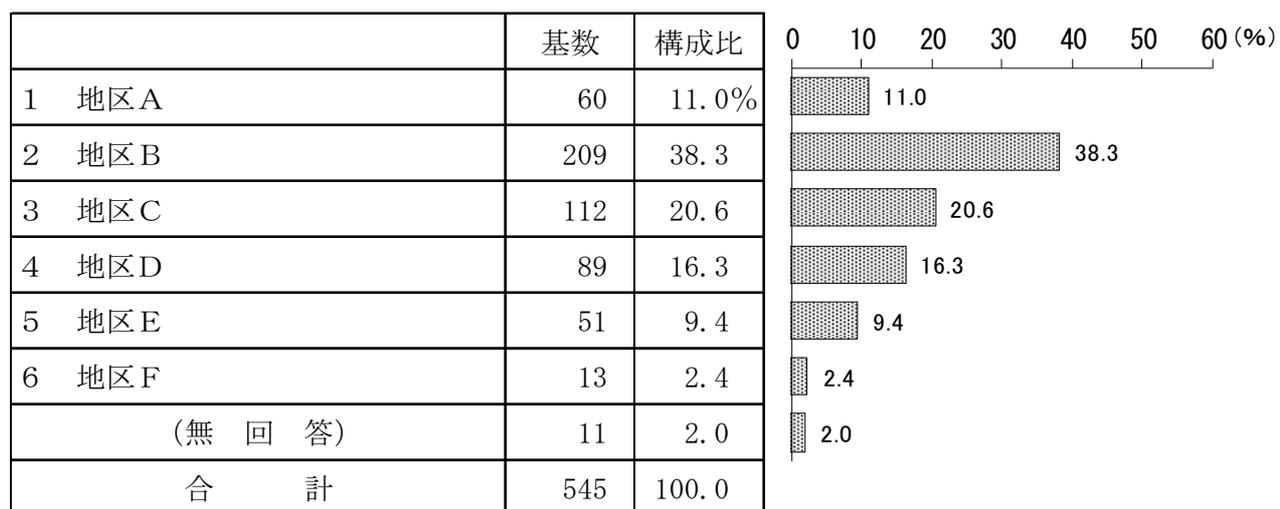
	基数	構成比
1 男性	222	40.7%
2 女性	312	57.2
3 そのほか	2	0.4
4 答えたくない	6	1.1
(無回答)	3	0.6
合計	545	100.0



(3) お住まいの地域



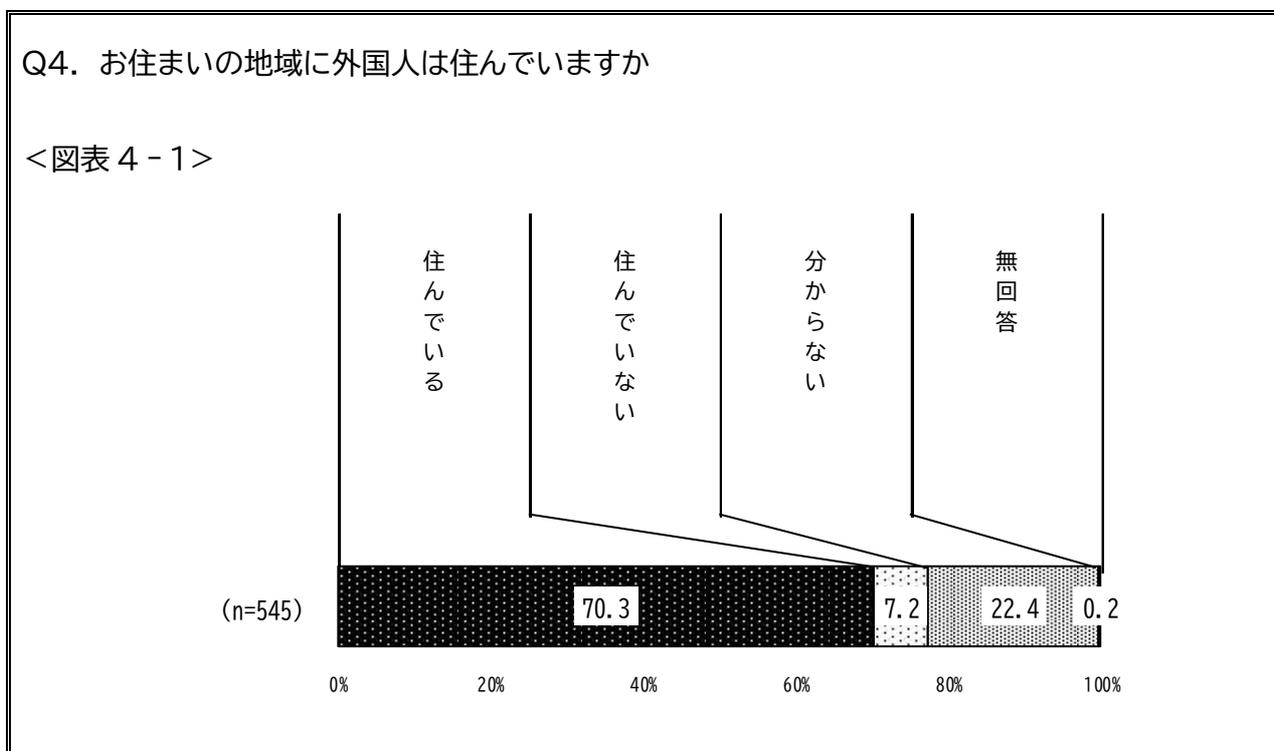
(3-1) お住まいの地域 (地区別)



地区名	地域名
地区A	亀崎、物井、長岡、千代田、池花、もねの里
地区B	栗山、内黒田、萱橋、大日、つくし座、さちが丘
地区C	下志津新田、四街道、鹿放ヶ丘、さつきヶ丘、中央
地区D	鹿渡、和良比、みのり町、美しが丘、めいわ
地区E	山梨、小名木、成山、中台、中野、南波佐間、上野、和田、旭ヶ丘、みそら
地区F	吉岡、鷹の台

2 地域等で生活する外国人について

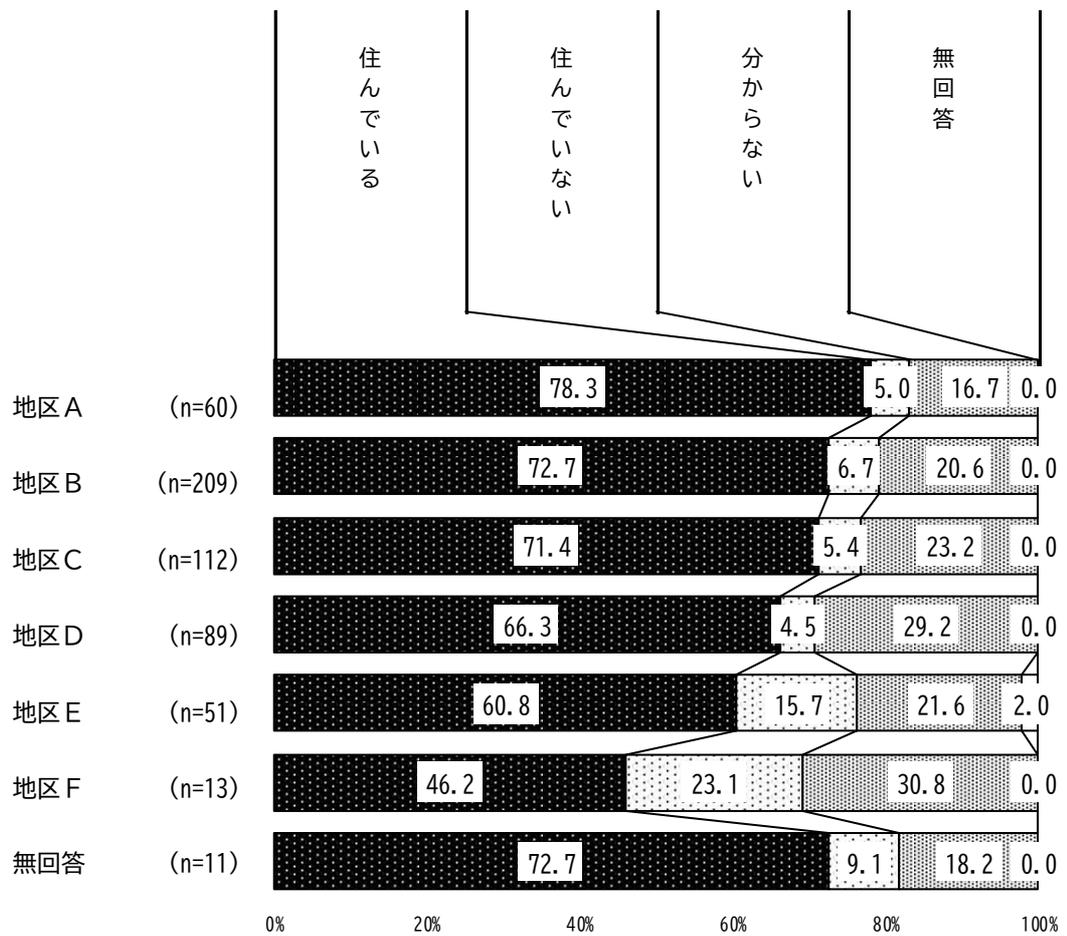
(4) お住まいの地域に外国人は住んでいますか



<調査結果>

お住まいの地域に外国人は住んでいるか聞いたところ、「住んでいる」(70.3%)が約7割と最も高く、次いで、「分からない」(22.4%)、「住んでいない」(7.2%)となっています。

<図表 4 - 2> 居住地区別



<調査結果>

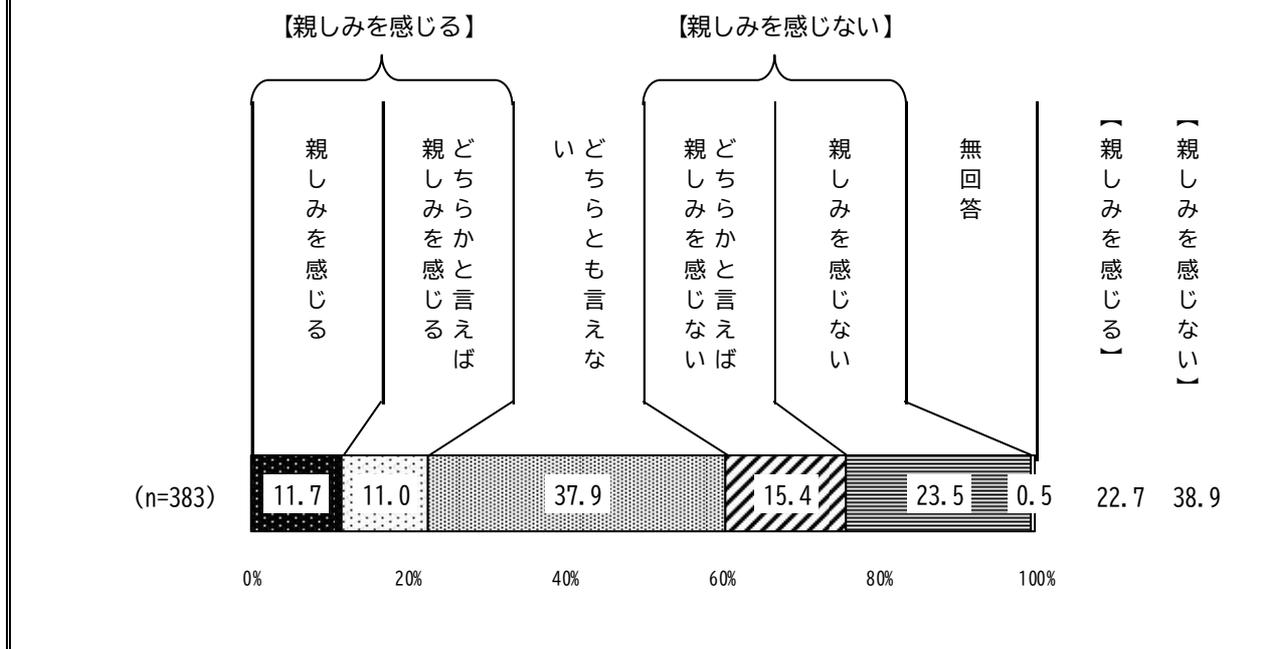
居住地区別に見ると、地区Fを除く地域では「住んでいる」が6割を超えており、地区Aでは「住んでいる」(78.3%)が8割近くとなっています。

(5) 親しみを感じているか

(Q4で「住んでいる」を選択した方にお聞きします。)

Q5. 近くに住む外国人に親しみを感じていますか

<図表 5-1>

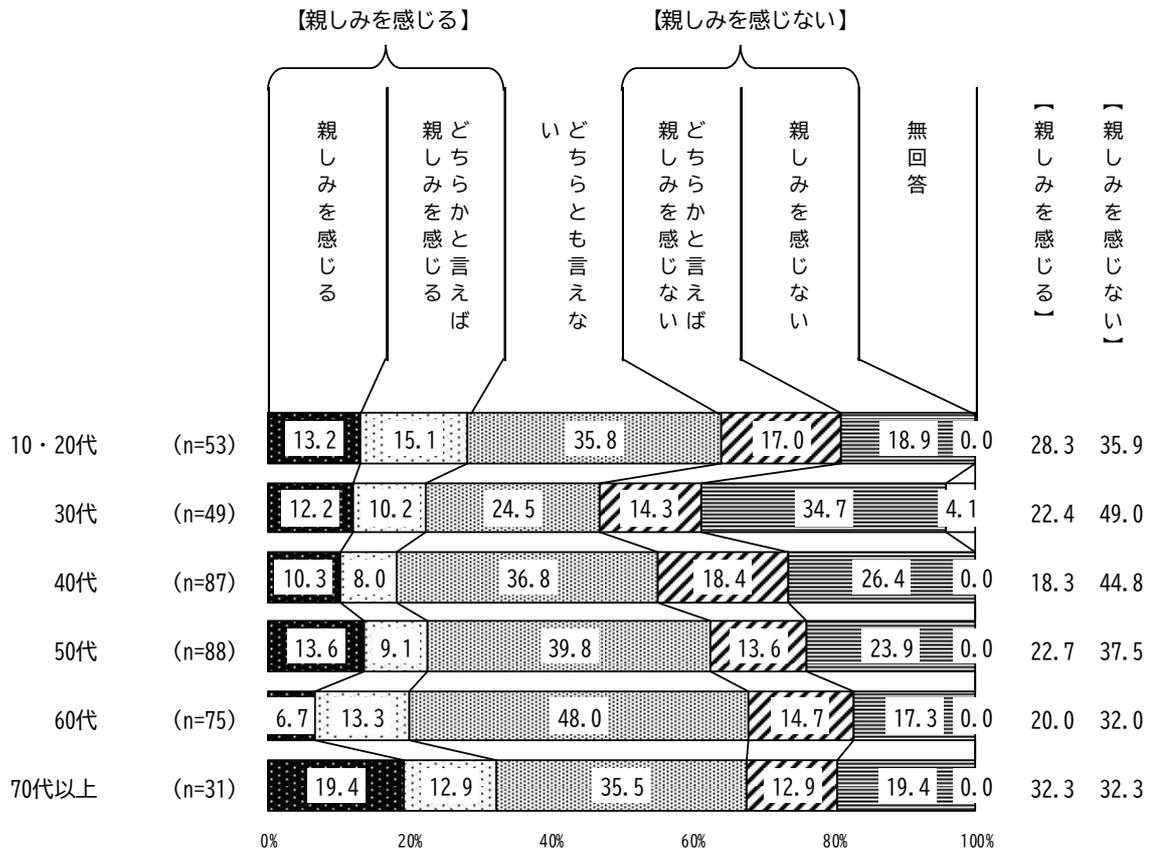


<調査結果>

近くに住む外国人に親しみを感じているか聞いたところ、「どちらとも言えない」(37.9%)が3割半ばを超えて最も高くなっています。次いで「親しみを感じない」(23.5%)、「どちらかと言えれば親しみを感じない」(15.4%)となっています。

また【親しみを感じる】の割合は、【親しみを感じない】と比較すると16.2%低くなっています。

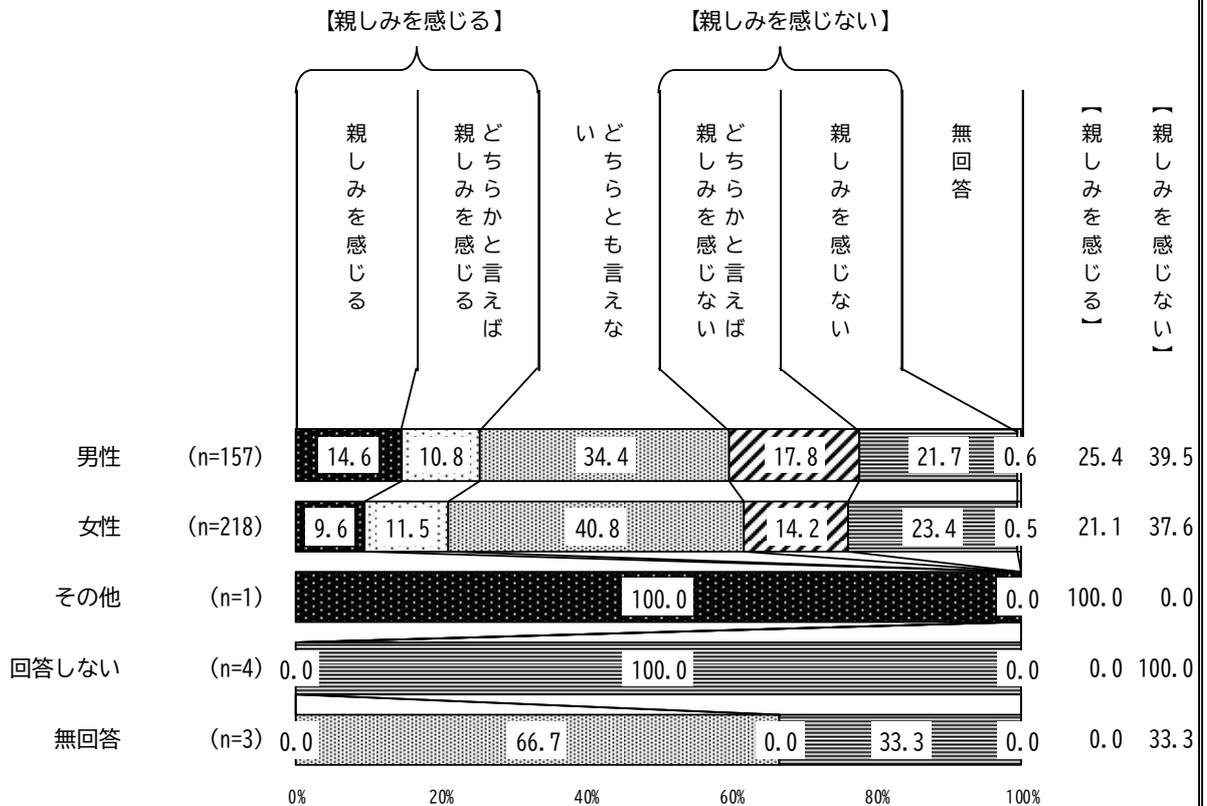
<図表 5 - 2>年齢別



<調査結果>

年齢別に見ると、70代以上を除く年齢で【親しみを感ずない】の割合が【親しみを感ずる】の割合を上回っています。

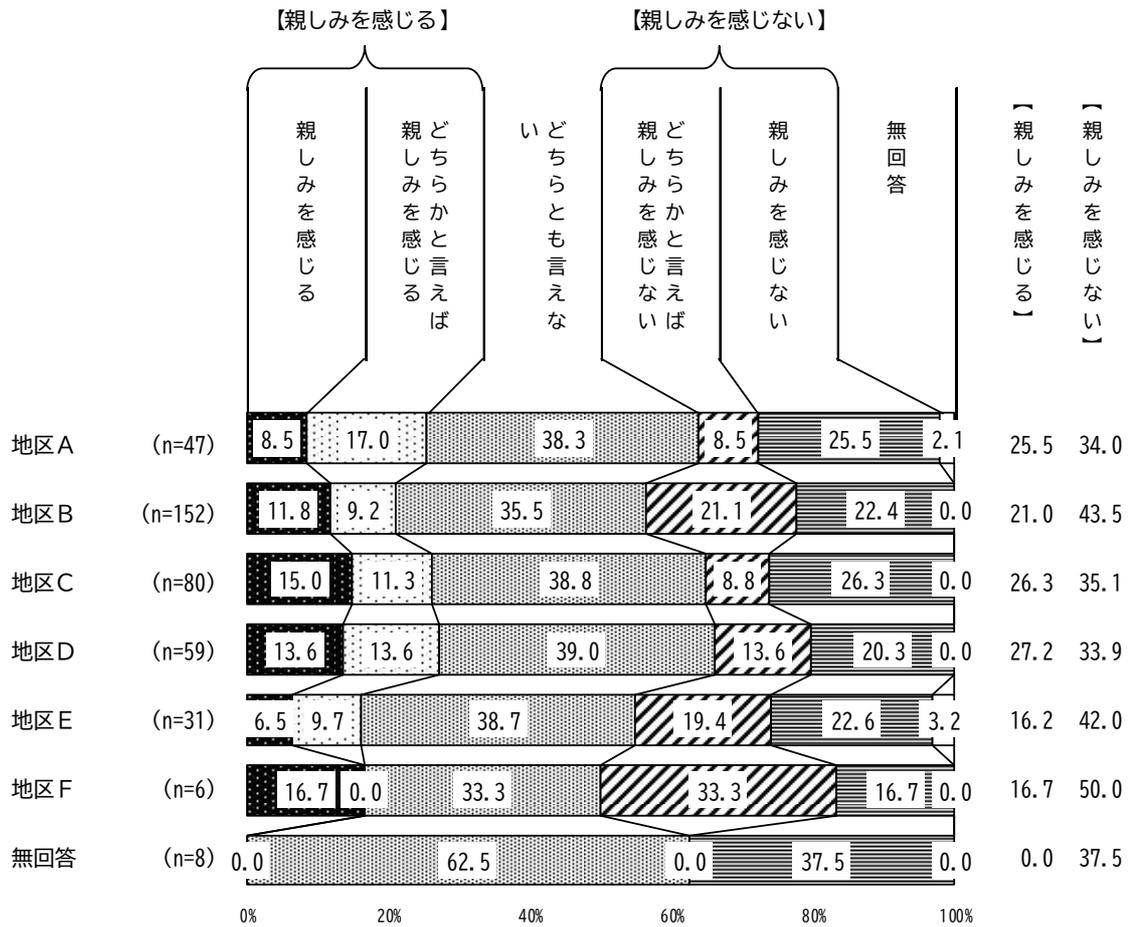
<図表 5 - 3> 性別



<調査結果>

性別に見ると、男女ともに【親しみを感ずない】の割合が【親しみを感ずる】の割合を上回っています。【親しみを感ずる】と答えた男性の割合は、女性と比較すると4.3%高くなっています。

<図表 5 - 4> 住居地区別



<調査結果>

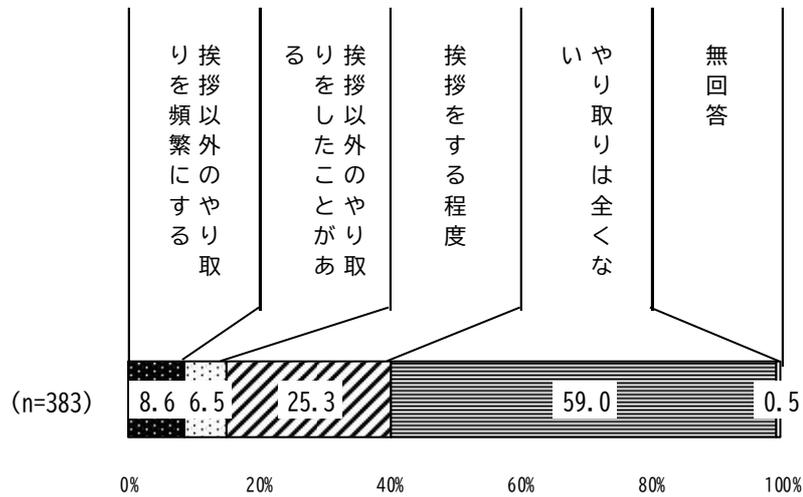
居住地区別に見ると、すべての居住地区で【親しみを感ずない】の割合が【親しみを感ずる】の割合を上回っています。

(6) 外国人との交流

(Q4で「住んでいる」を選択した方にお聞きします。)

Q6. 近くに住む外国人と交流はありますか

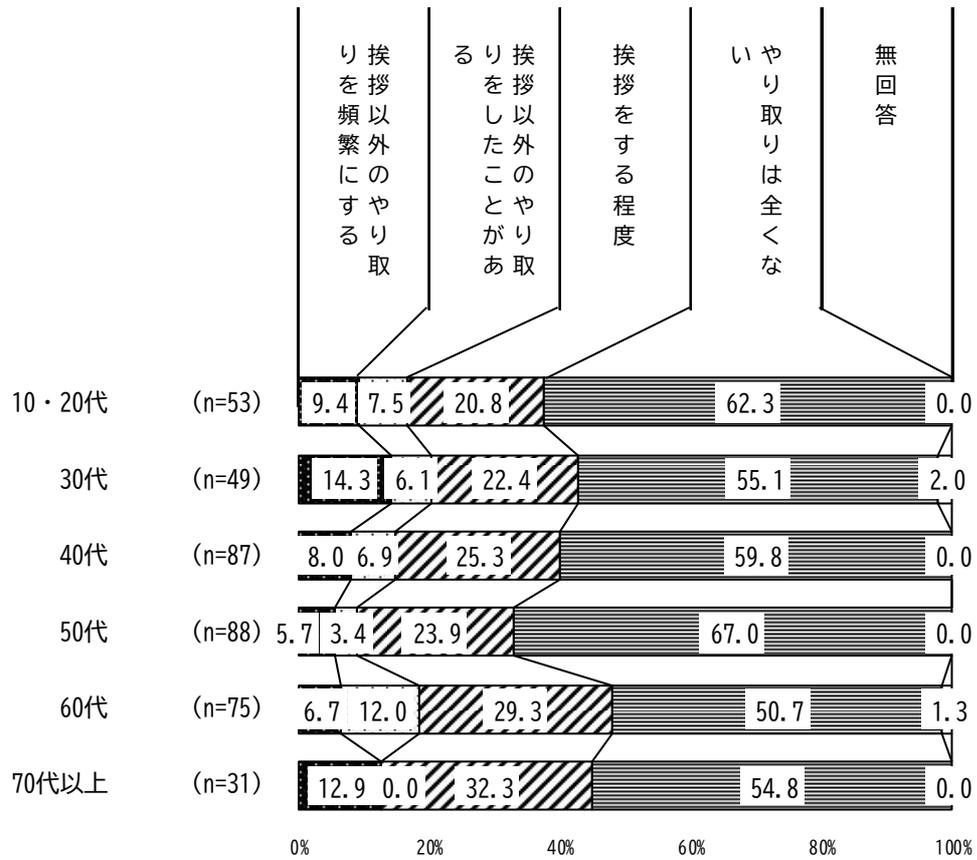
<図表 6-1>



<調査結果>

近くに住む外国人と交流があるか聞いたところ、「やり取りは全くない」(59.0%)が約6割で最も高くなっています。次いで「挨拶をする程度」(25.3%)、「挨拶以外のやり取りを頻繁にする」(8.6%)となっています。

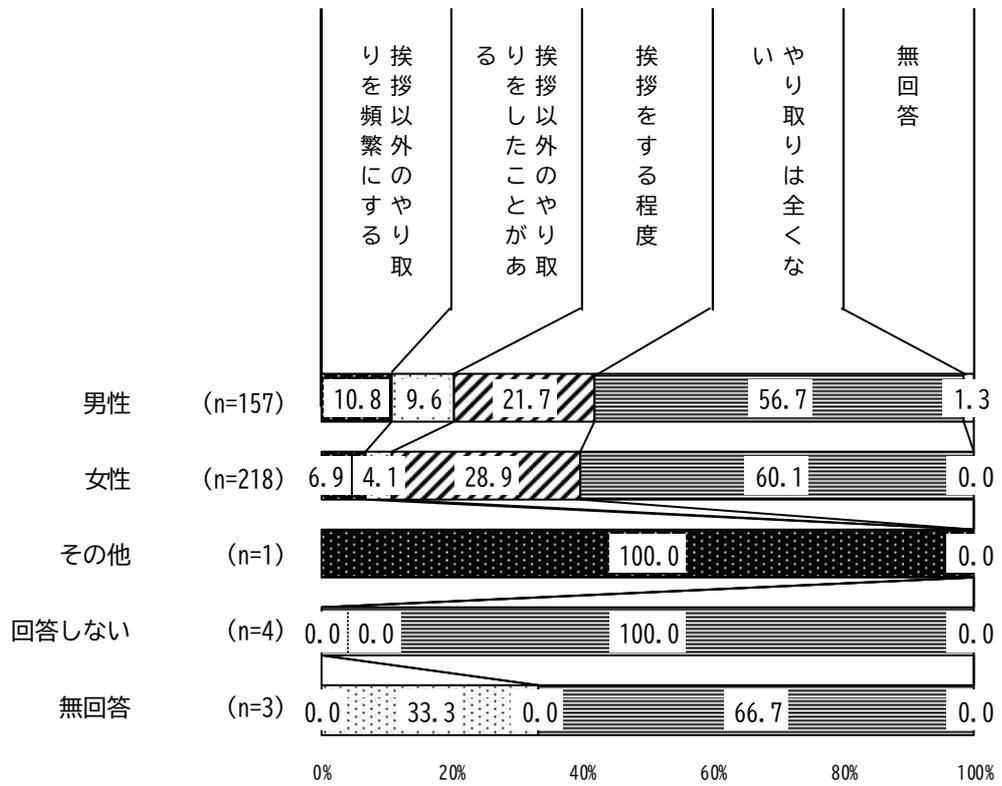
<図表 6 - 2>年齢別



<調査結果>

年齢別に見ると、すべての年齢で「やり取りは全くない」が最も高くなっています。

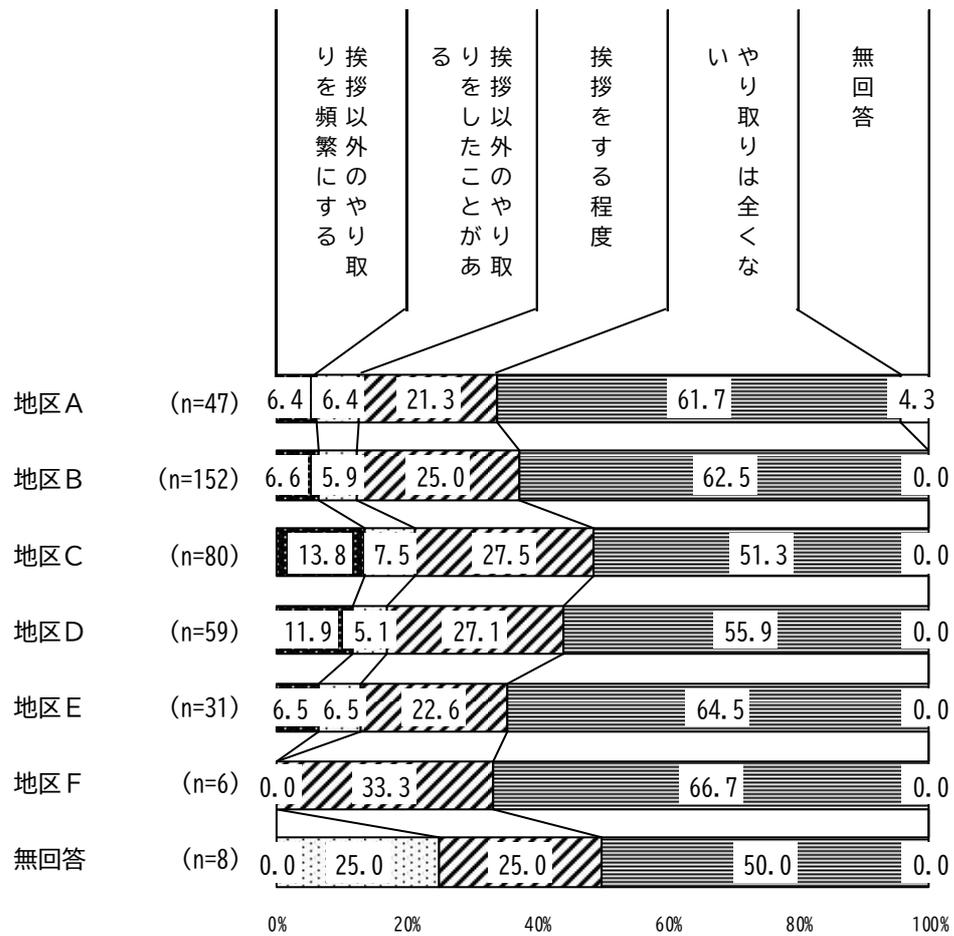
<図表 6 - 3> 性別



<調査結果>

性別に見ると、男女ともに「やり取りは全くない」の割合が最も高くなっています。

<図表 6 - 4> 住居地区別



<調査結果>

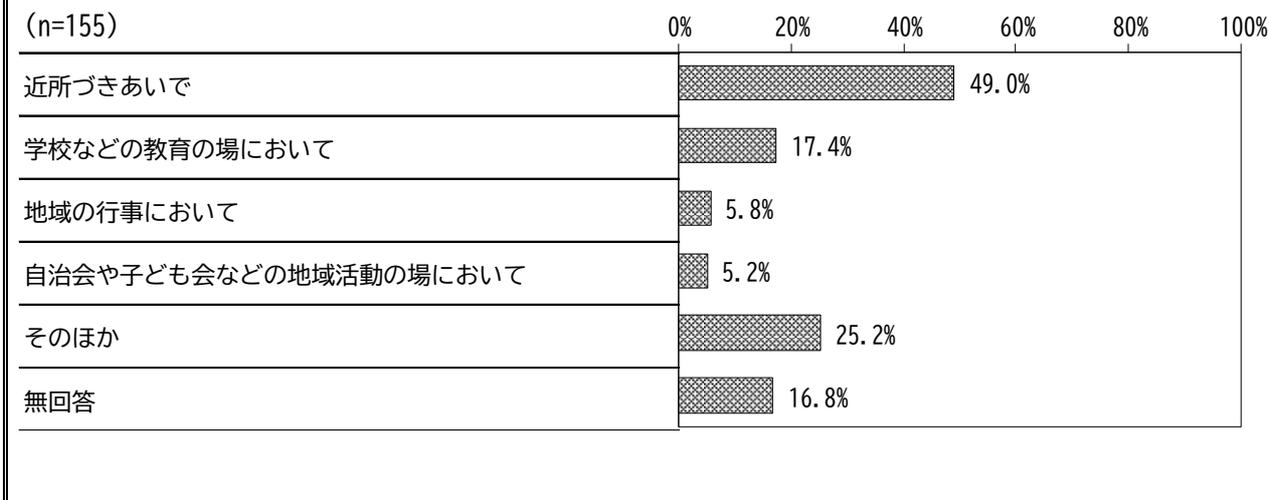
居住地区別に見ると、すべての居住地区で「やり取りは全くない」の割合が最も高くなっています。

(7) どのようなときにやり取りしたか

(Q6で「やり取りは全くない」以外を選択した方にお聞きします。)

Q7. どのようなときにやり取りをしましたか *複数選択可

<図表 7>



<調査結果>

どのようなときにやり取りをしたか聞いたところ、「近所づきあい」(49.0%)が約5割で最も高くなっています。次いで「そのほか」(25.2%)、「学校などの教育の場において」(17.4%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ごみ出しの際
- ・公園・飲食店
- ・主人が外国人のため
- ・犬の散歩ですれ違う時

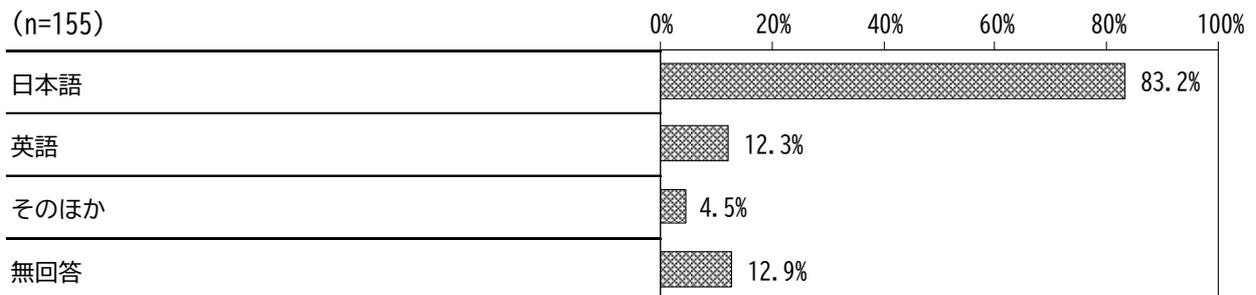
など

(8) やり取りをした時の言語

(Q6で「やり取りは全くない」以外を選択した方にお聞きします。)

Q8. 何語でやり取りをしましたか／していますか *複数選択可

<図表 8>



<調査結果>

何語でやり取りをしたか聞いたところ、「日本語」(83.2%)が8割を超え最も高くなっています。次いで、「英語」(12.3%)、「そのほか」(4.5%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

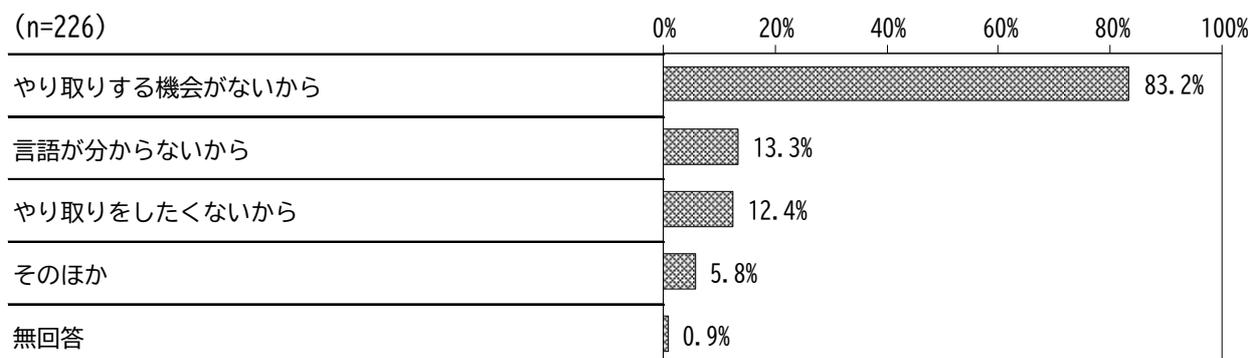
- ・会釈のみ
- ・中国語
- ・アイコンタクト、手をあげる程度

(9) やり取りが全くない理由

(Q6で「やり取りは全くない」を選択した方にお聞きします。)

Q9. 理由をお聞かせください *複数選択可

<図表 9>



<調査結果>

やり取りが全くない理由を聞いたところ、「やり取りする機会がないから」(83.2%)が8割を超え最も高くなっています。次いで、「言語が分からないから」(13.3%)、「やり取りをしたくないから」(12.4%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

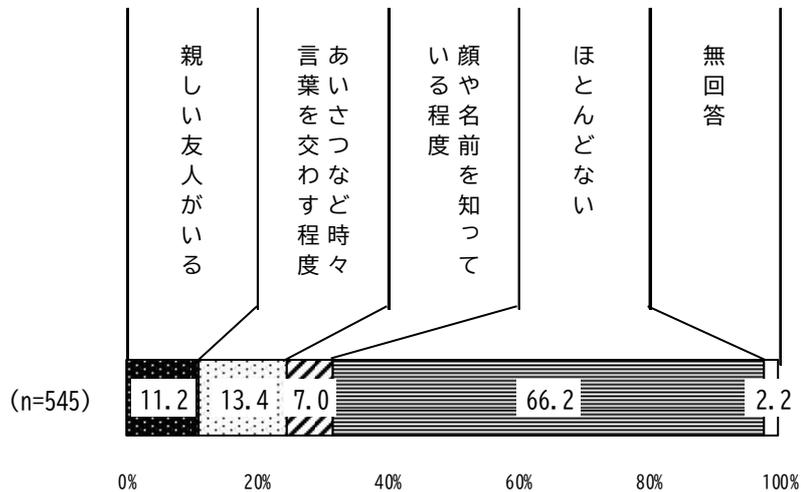
- ・挨拶をしても無視する。ゴミ出しなどで声をかけても二言目には日本語分からないといって逃げるようにその場を立ち去ってしまう。やり取り以前の問題だと思う。
- ・日ごろ接する機会がない。
- ・うるさかったり迷惑だから。
- ・挨拶をしても返ってこない。

など

(10) 外国人住民との付き合い

Q10. お住まいの地域以外で外国人住民との付き合いはありますか

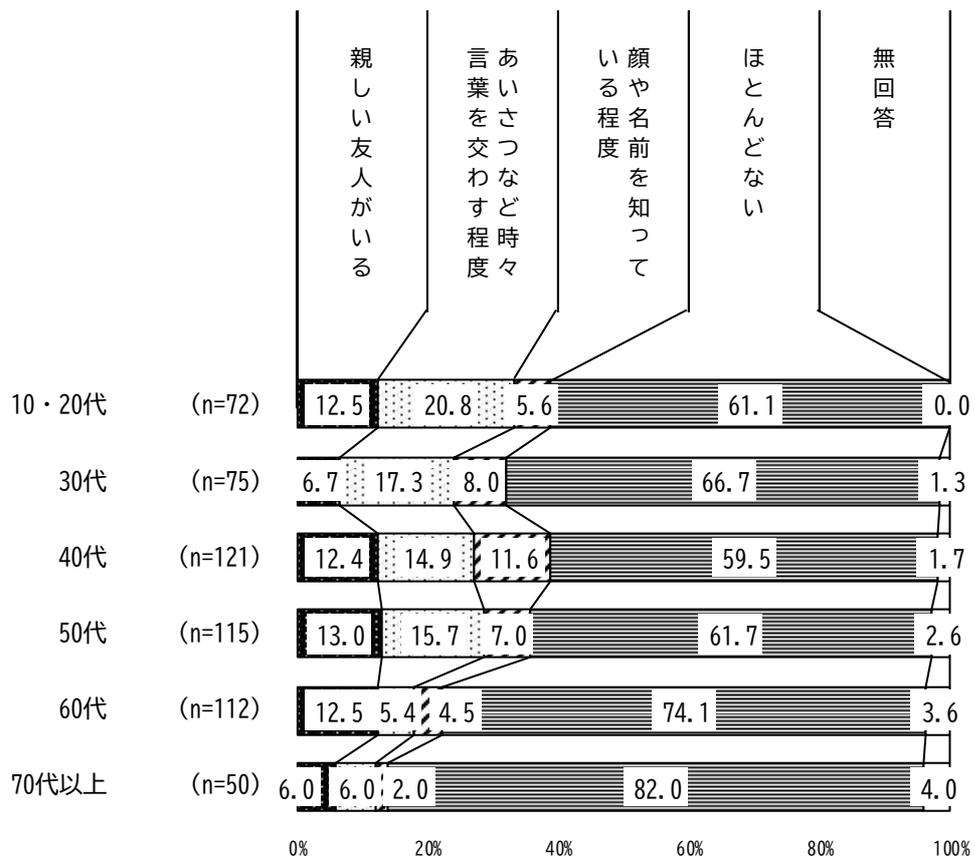
<図表 10-1>



<調査結果>

お住まいの地域以外で外国人住民との付き合いがあるか聞いたところ、「ほとんどない」(66.2%)が6割半ばを超え最も高くなっています。次いで「あいさつなど時々言葉を交わす程度」(13.4%)、「親しい友人がいる」(11.2%)となっています。

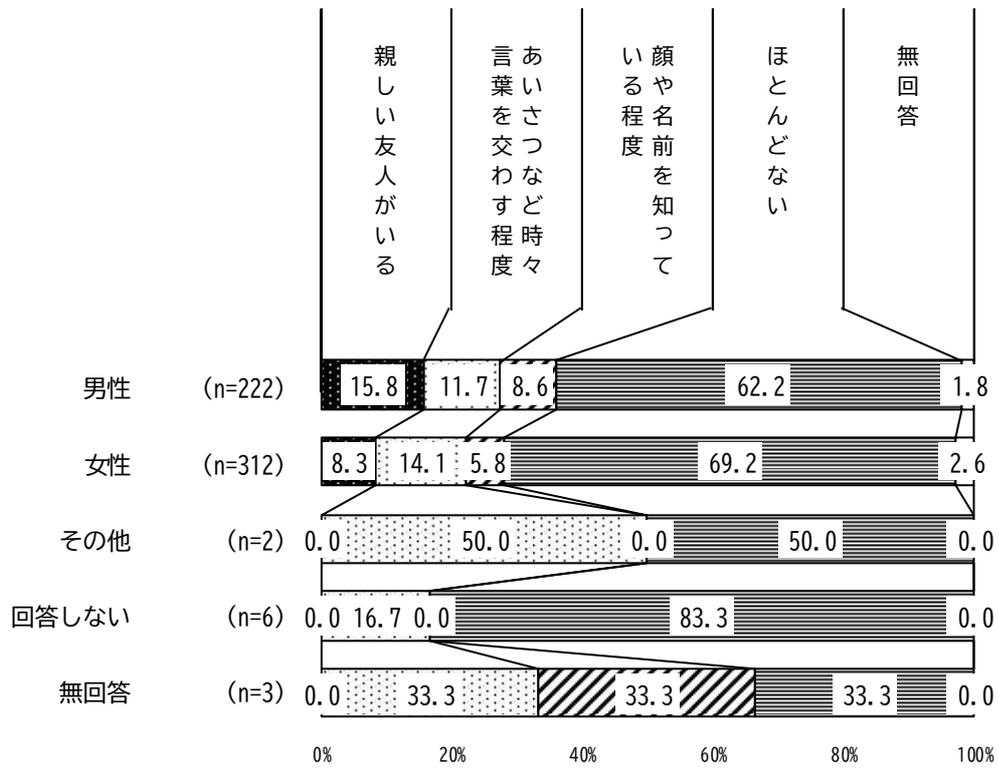
<図表 10 - 2>年齢別



<調査結果>

年齢別に見ると、すべての年齢で「ほとんどない」が最も高くなっています。

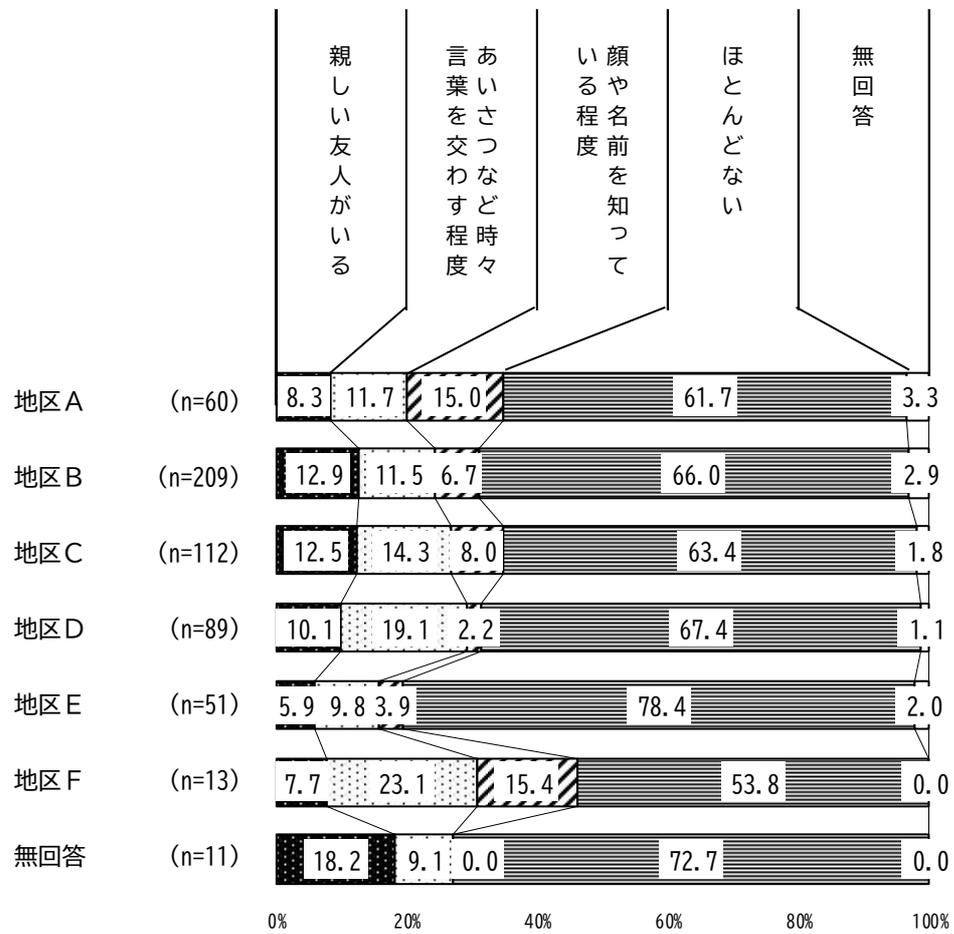
<図表 10 - 3> 性別



<調査結果>

性別に見ると、男女ともに「ほとんどない」の割合が最も高くなっています。

<図表 10 - 4> 住居地区別



<調査結果>

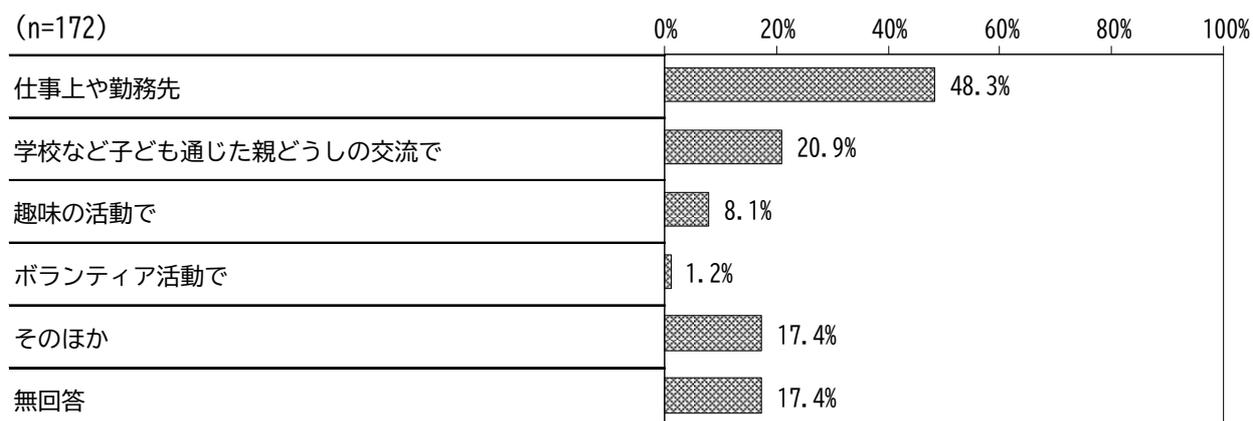
居住地区別に見ると、すべての居住地区で「ほとんどない」の割合が最も高くなっています。

(11) 付き合いのある場所

(Q10で「ほとんどない」以外を選択した方にお聞きします。)

Q11. どのようなところで付き合いがありますか *複数選択可

<図表 11>



<調査結果>

どのようなところで付き合いがあるか聞いたところ、「仕事上や勤務先」(48.3%)が5割近くで最も高くなっています。次いで、「学校など子どもを通じた親どうしの交流で」(20.9%)、「そのほか」(17.4%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

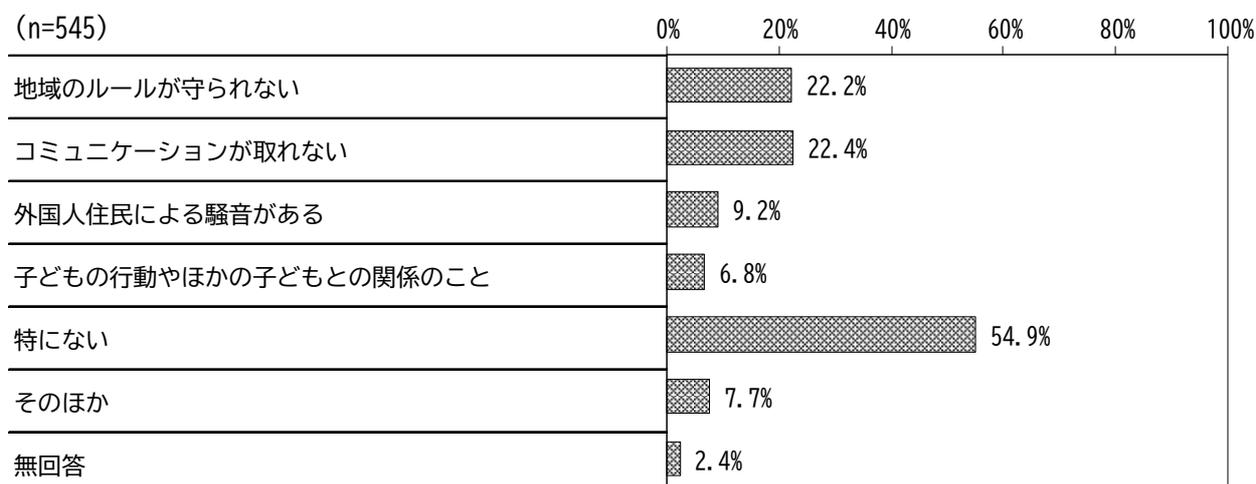
- ・ 同級生
- ・ 夫婦
- ・ 母の友達
- ・ 学校の友達
- ・ 妻の知り合い。
- ・ 留学していた時期に知り会った友達

など

(12) 外国人住民とのかかわりで困ったこと

Q12. 外国人住民とのかかわりで困ったことはありますか *複数選択可

<図表 12>



<調査結果>

外国人住民とのかかわりで困ったことがあるか聞いたところ、「特にない」(54.9%)が5割半ばで最も高くなっています。次いで、「コミュニケーションが取れない」(22.4%)、「地域のルールが守られない」(22.2%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

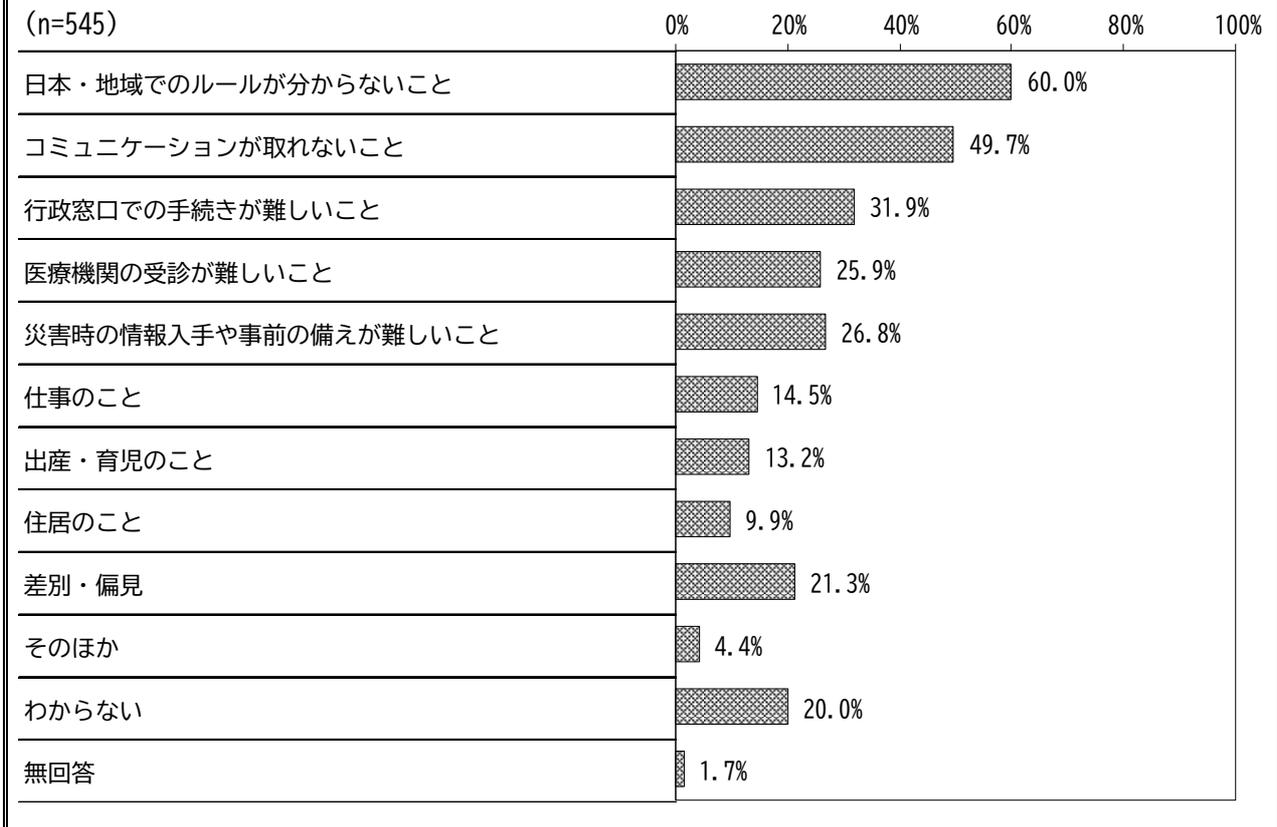
- ・たばこの吸い殻ポイ捨て、空き缶放置。
- ・親が子どもを注意せずうるさい。
- ・ヤードが多い地域の為、夜は大人でも少し怖い。街灯が少ない。
- ・権利の主張が強く、一切妥協しない。互譲の精神が欠如。
- ・ゴミ箱に出した古着を漁ったり、長時間早朝から車のエンジンをかける、人の敷地に無断で入る、外で大声で電話をかける等、あげればきりが無い。
- ・日本語が分からないふりをしてルールを破る。鼻水を素手でつかんで、公園に投げ捨てていて汚い。公園で外国人の子どもに押されたりする。売り物に口をつけてそのまま戻す。
- ・夜中、大声で話しながら歩いている。

など

(13) 外国人住民が困っていると思うこと

Q13. 外国人住民がどんなことに困っていると思いますか *複数選択可

<図表 13>



<調査結果>

外国人住民がどんなことに困っていると思うか聞いたところ、「日本・地域でのルールが分からないこと」(60.0%)が6割で最も高くなっています。次いで、「コミュニケーションが取れないこと」(49.7%)、「行政窓口での手続きが難しいこと」(31.9%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ 法律知識不足、政治参加（選挙権）
- ・ マナーについて
- ・ 妥協を強要され、権利が制限される。
- ・ 色々あると思います。ホームシックとか、祖国の心配（アフガニスタンなど）。

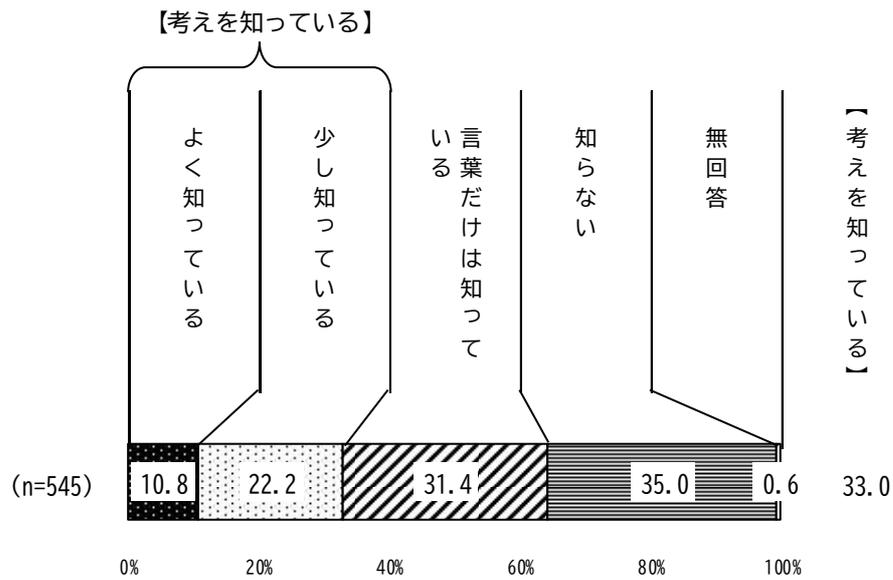
など

3 多文化共生について

(14) 「多文化共生」という言葉・考え方について

Q14. 「多文化共生」という言葉・考え方について、どの程度ご存じでしたか

<図表 14-1>

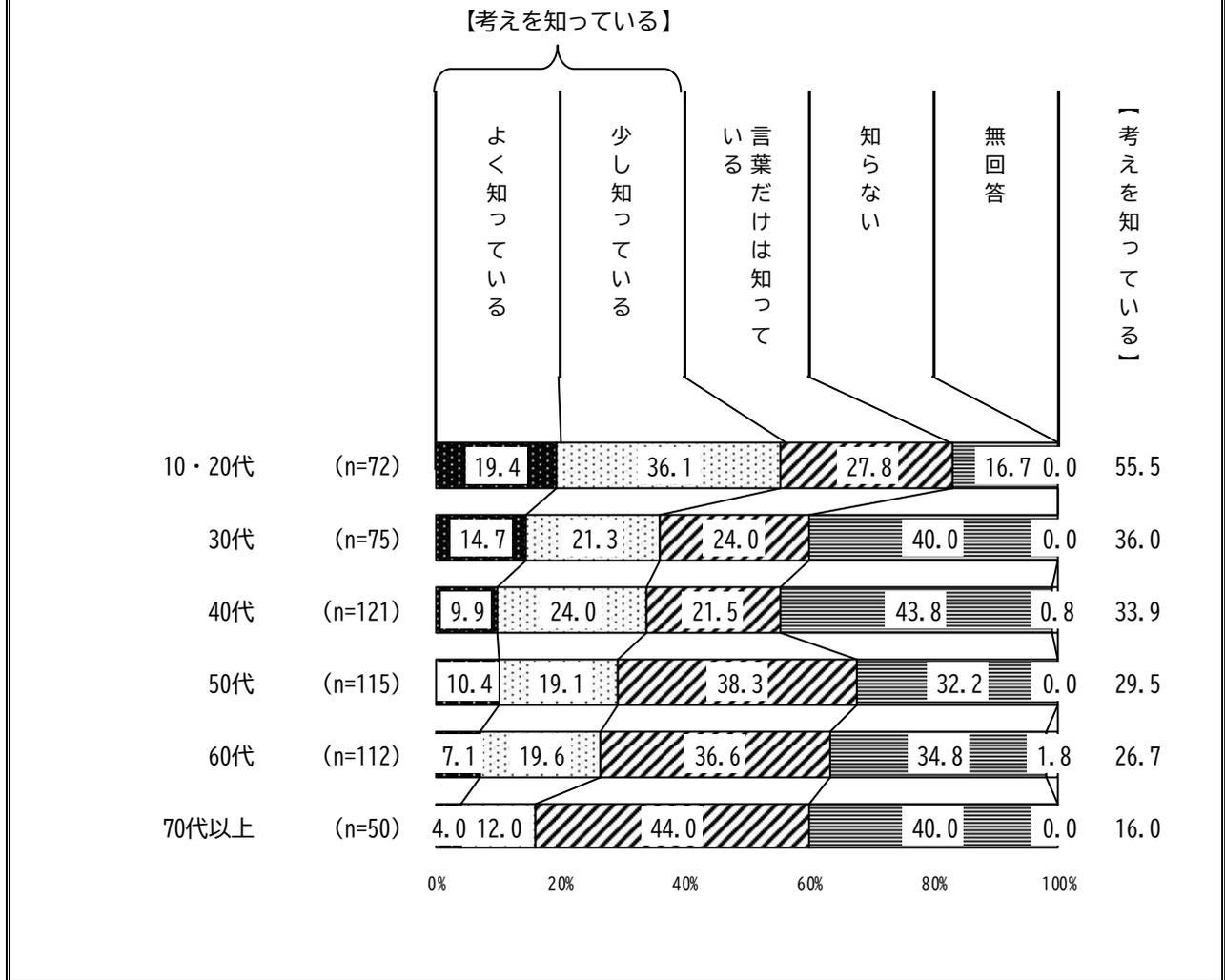


<調査結果>

「多文化共生」という言葉・考え方について、どの程度知っているか聞いたところ、「知らない」(35.0%)が3割半ばを超え最も高くなっています。次いで「言葉だけは知っている」(31.4%)、「少し知っている」(22.2%)となっています。

「多文化共生」という言葉の考え方を【知っている】割合は3割を超えています。

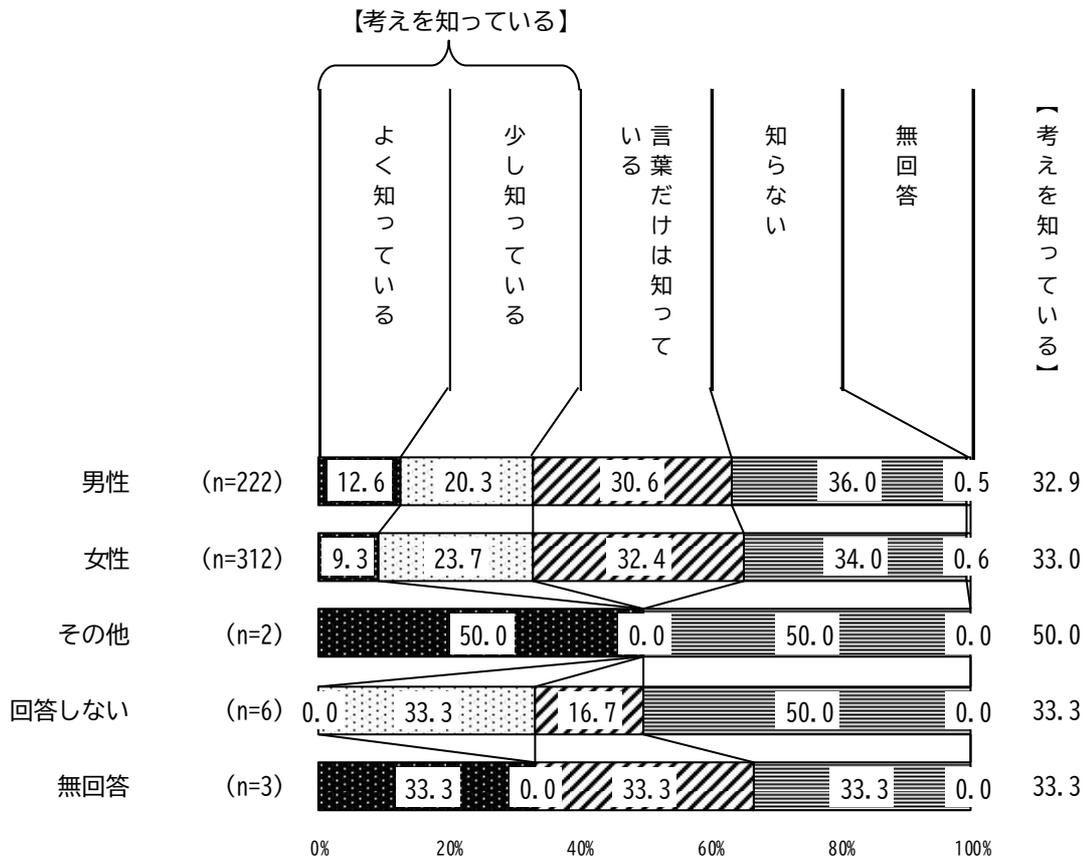
<図表 14 - 2>年齢別



<調査結果>

年齢別に見ると、10・20代では【考えを知っている】割合が5割半ばとなっています。一方、年齢が高くなるにつれて【考えを知っている】割合は減少し、70代以上では1割半ばとなっています。

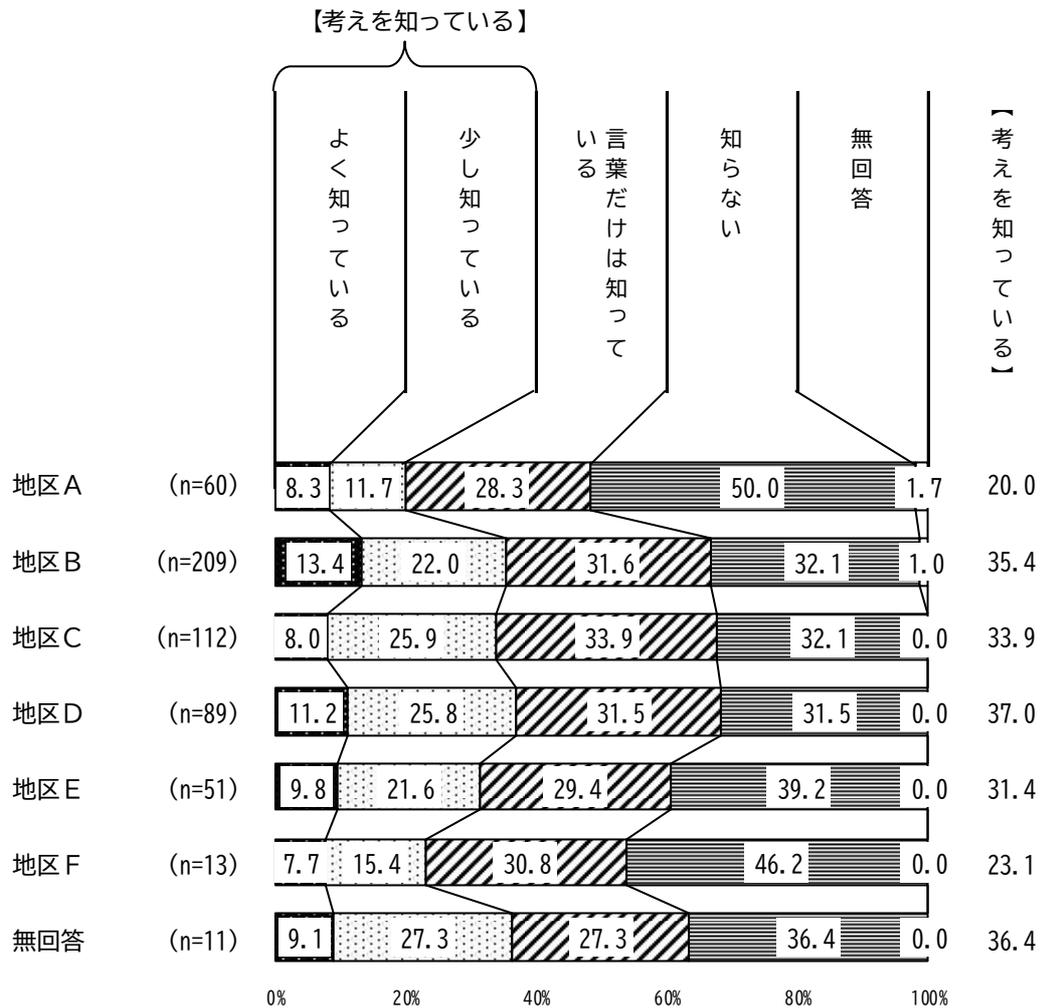
<図表 14 - 3> 性別



<調査結果>

性別に見ると、男女ともに【考えを知っている】割合は3割を超えています。

<図表 14 - 4> 住居地区別



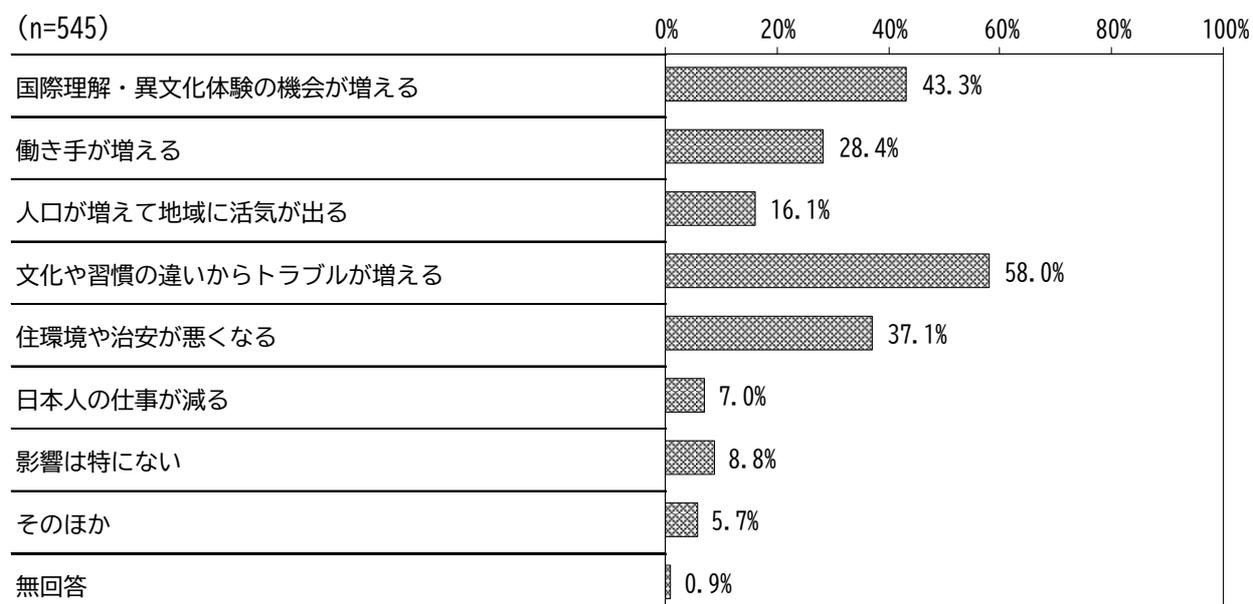
<調査結果>

居住地区別に見ると、地区Aと地区Fでは【考えを知っている】割合は2割台、それ以外の地域では3割台となっています。

(15) 外国人住民が増えた場合の影響

Q15. 地域に外国人住民が増えることでどのような影響があると思いますか*複数選択可

<図表 15>



<調査結果>

地域に外国人住民が増えることでどのような影響があるか聞いたところ、「文化や習慣の違いからトラブルが増える」(58.0%)が6割近くで最も高くなっています。次いで、「国際理解・異文化体験の機会が増える」(43.3%)、「住環境や治安が悪くなる」(37.1%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

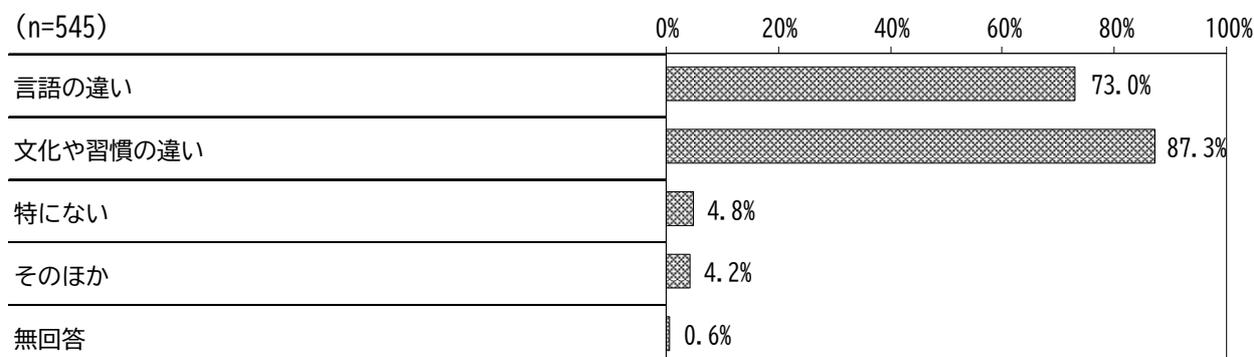
- ・文化の変容
- ・良い面がある一方でトラブルが起きやすい面もあるかと思います。
- ・ヤードの仕事に従事している人が多そうなので、土壌汚染が気になり。
- ・外国人は若い人が多く、日本人はお年寄りが多い。外国人と日本人の分断が起きているように感じる。
- ・マナーを守れない人もいるし暴力的な子どももいる。
- ・土地や家屋の資産価値が下がる。子ども(日本人)の安全が守れない。

など

(16) 外国人住民との交流をする際の課題

Q16. 外国人住民との交流をするにあたり、どんな課題があると思われますか*複数選択可

<図表 16>



<調査結果>

外国人住民との交流をするにあたり、どんな課題があるか聞いたところ、「文化や習慣の違い」(87.3%)が8割半ばを超え最も高くなっています。次いで、「言語の違い」(73.0%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

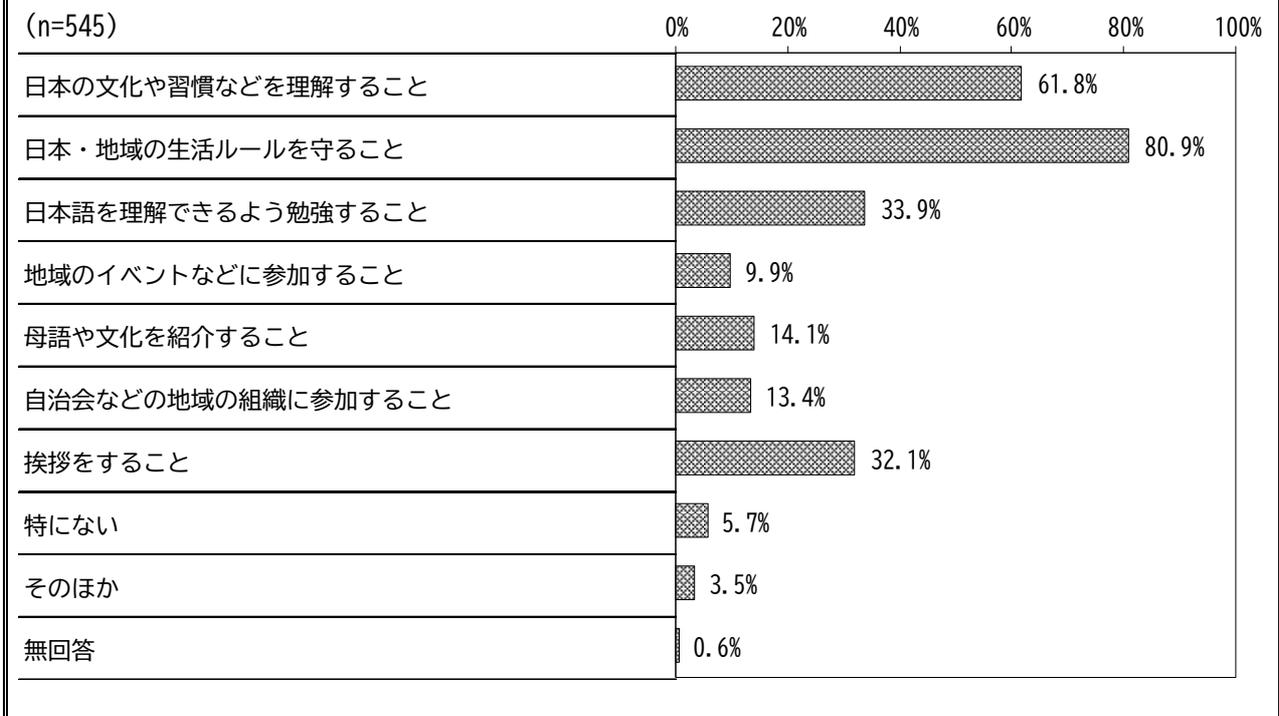
- ・法の順法意識の違い。犯罪の増加。
- ・日本人側のみに交流の課題を求めるのではなく、地域に後から入ってきた外国人にこそ交流の気持ちを求めるべきだと思う。
- ・差別・偏見はある。外国人は怖いと感じる。
- ・日本人との交流を望まない人たちでコミュニティが形成されているのを見かけるので、溝は埋まらなさそう。
- ・自国の仲間とコミュニティを作ることで、日本語を覚えなくて生活できてしまう。
- ・宗教理解
- ・ものの考え方、価値観の違い。

など

(17) 地域で外国人住民と共に暮らすために、外国人住民に望むこと

Q17. 地域で外国人住民と共に暮らすために、外国人住民に望むことはありますか*複数選択可

<図表 17>



<調査結果>

地域で外国人住民と共に暮らすために、外国人住民に望むことがあるか聞いたところ、「日本・地域の生活ルールを守ること」(80.9%)が約8割で最も高くなっています。次いで、「日本の文化や習慣などを理解すること」(61.8%)、「日本語を理解できるよう勉強すること」(33.9%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ マナーを守る事。
- ・ 同じ国の人たちでかたまらないで、個人的に日本人と仲良くするようにしてほしい。
- ・ 宗教的なことが分からないので、どう接するべきかわからない(特にアラビア系)。
- ・ 望むのではなく生活(共生)しやすい環境を作ることが必要と感じる。
- ・ 政治的、歴史に関する意見は控え、お互いに尊重し合うべき。
- ・ 不法滞在はしないでほしい。

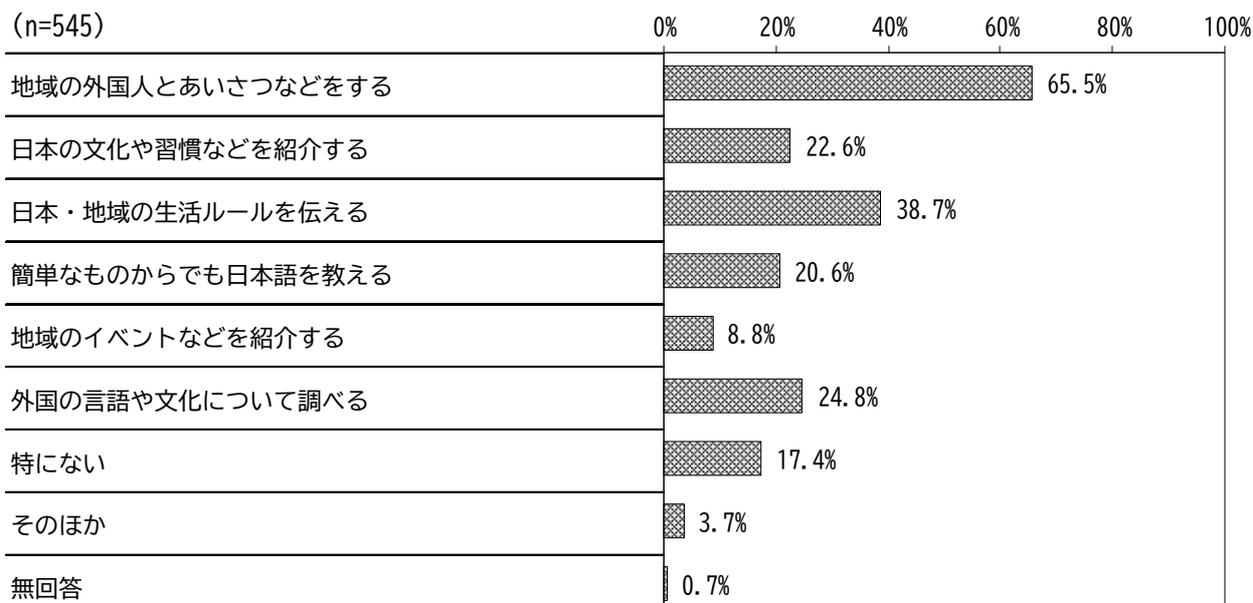
など

(18) 地域で外国人住民と共に暮らすために、自分ができること

Q18. 地域で外国人住民と共に暮らすために、自分ができるとは何だと思いますか

*複数選択可

<図表 18>



<調査結果>

地域で外国人住民と共に暮らすために、自分ができるとは何だと思うか聞いたところ、「地域の外国人とあいさつなどをする」(65.5%)が6割半ばで最も高くなっています。次いで、「日本・地域の生活ルールを伝える」(38.7%)、「外国の言語や文化について調べる」(24.8%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・外国人住民の方が具体的に何に困っていてどうしていいか等、彼らのニーズを知らないため、お互いを知る必要がある。出会ったときにあいさつとかぐらいはできそう。
- ・相手の文化もわかってあげること。
- ・助け合いを心がける。
- ・日ごろから幅広く関心を持つくらいならできそう。
- ・簡単なものからでも相手の国の言葉を覚える。

など

(19) 地域で外国人住民と共に暮らすために、必要な取り組み

- ・受け入れる側のオープンな気持ち。
- ・地域のイベント等の中で交流できる機会をつくる。
- ・お互いが心地よく暮らせるコミュニケーションの取り方。
- ・お互いがゆずりあって文化の違いも理解して生活する。
- ・子ども会活動に親子でとか参加しやすいようにする。食事（子ども食堂の取り組みなど）。
- ・雇いで一定数の外国人を採用する。
- ・日本語指導が必要な子どもたちのために日本語教室を開くなど。
- ・自治会や行政の取組
- ・禁止事項などを言葉で伝えるのは限界があるから、英語などの表記の看板などを置く。
- ・行政による、他の地域と差別化した多様性を積極的に受け入れる地域である事の土壌作り（市民の意識作り、市外への発信）。
- ・地域のルールをしっかりと理解してもらい、積極的に行事に参加してもらう。
- ・行政の取り組み（外国人住民が困らないような対応）。
- ・行政の方が入って、言葉など通じないと無理だと思います。
- ・SNS などを通じて外国人住民が困った際にはすぐに対応できるシステムをつくる。
- ・互いの批判ではなく互いに何をしてあげるかを考えること。語学交流など。
- ・日本という国の歴史やそれに基づいて育ってきた文化を知ってもらい、ルールや日本人について理解してもらう。
- ・行政が仲介となって、交流の機会を作ればよいのでは。
- ・異文化を理解しながら生きていける社会を目指す。コミュニケーションの支援、生活の支援、イベントへの参加を通して地域社会での多文化共生を目指す。
- ・通訳が出来る人をすぐ紹介してくれるシステムを作してほしい（市役所に電話したら同時通訳してくれる etc）
- ・雇いで一定数の外国人を採用する。
- ・外国人がではなく、日本人が外国に行った時の気持ちを分かってもらえるような場（講演会やコミュニケーションの場）を設ける。
- ・様々な仕組みや生活の基本を分かりやすく伝える。
- ・いつでもウェルカムですよと、お互いに心がけること。
- ・ポスター等の多言語表示。
- ・日本人側から、英語（他言語も OK）記載もしていく。（翻訳）
- ・学校で語学の勉強を取り入れる。公共の場にも英語、中国語、韓国語を取り入れる。
- ・日本人と外国人の交流する機会を増やす。外国人に日本語や日本の文化・ルールを教える。外国人の若者グループ集団の治安面をしっかりと対応してほしい。
- ・行政が地域で日本人市民と外国人市民の会合を開き、ルールなどを指導し交流を深める。
- ・相手・自分を知る機会を設け、コミュニケーションを継続する場が必要。
- ・まず外国人住民が身近な人たちだと感じることで、交流の場を作ることが必要。
- ・日本に住む際に「日本のマナーブック」のようなものを配布する。
- ・日本語を教えてくれる場所がもっとあるといいと思います。
- ・言語の壁を取りのぞくための翻訳ツールの活用（スマホアプリの活用と使えるアプリの紹介）
- ・ルールを教える、お知らせすることが大切だと思います。（ごみ出しなどのルールを守るなど、基本的な生活のルールを守るなど）
- ・相手を理解するために交流する機会を増やす。気軽に通える日本語教室を作る。
- ・多言語の看板やピクトグラムを用いた看板。多文化の食を体験できる交流会。
- ・お互いの文化や言葉を理解し合えるように地域で集う場をもうけ、コミュニケーションを取れるようにすることが大事だと思う。
- ・行政が相互交流の場を設ける取り組みが必要と思われる。
- ・言葉の違いを内容などわかりやすく自分なりに理解するか、交流の場などあったらどうか。

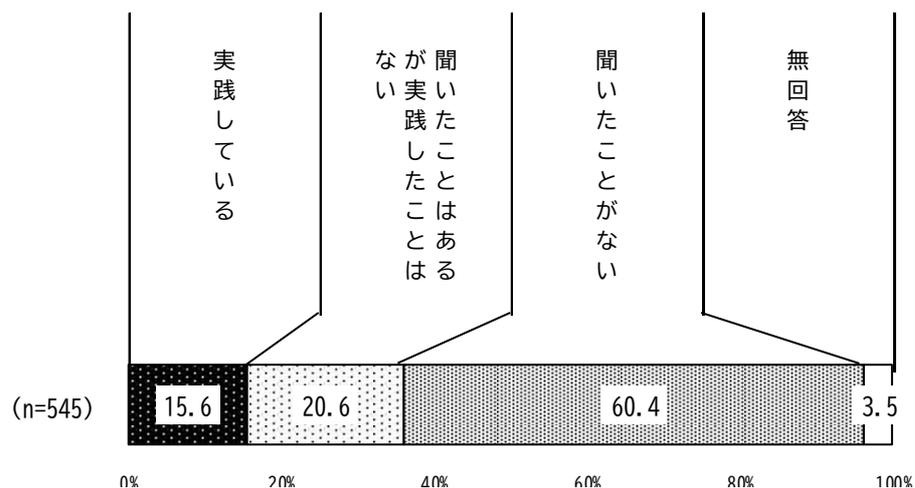
など

4 やさしい日本語について

(20) 「やさしい日本語」について

Q20. 「やさしい日本語」をご存じですか

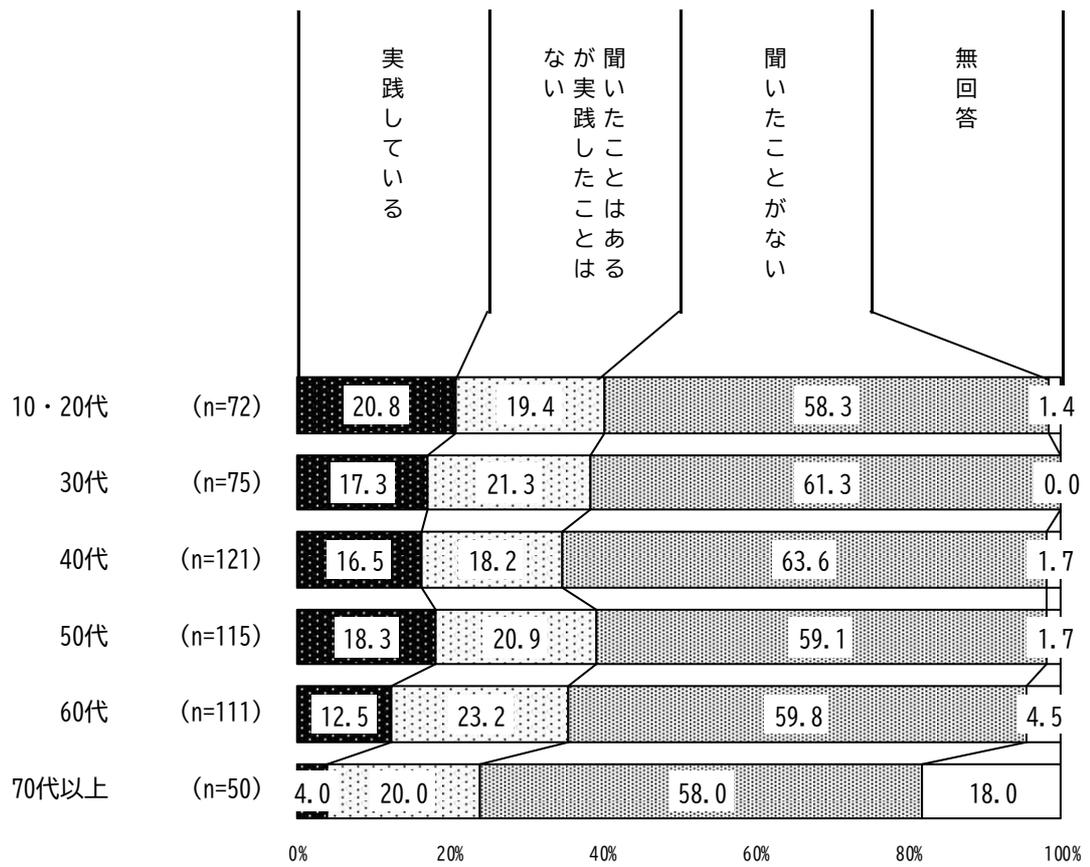
<図表 20-1>



<調査結果>

「やさしい日本語」という言葉を知っているか聞いたところ、「聞いたことがない」(60.4%)が約6割で最も高くなっています。次いで「聞いたことはあるが実践したことはない」(20.6%)、「実践している」(15.6%)となっています。

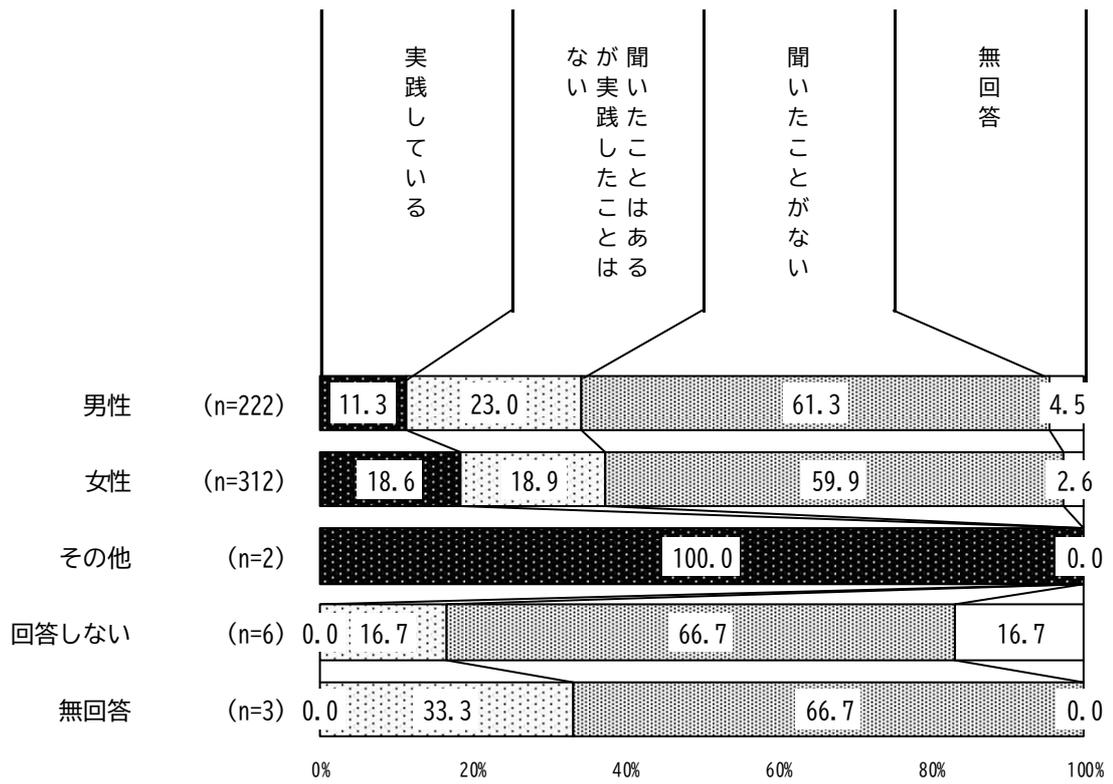
<図表 20 - 2>年齢別



<調査結果>

年齢別に見ると、すべての年齢で「聞いたことがない」が最も高くなっています。

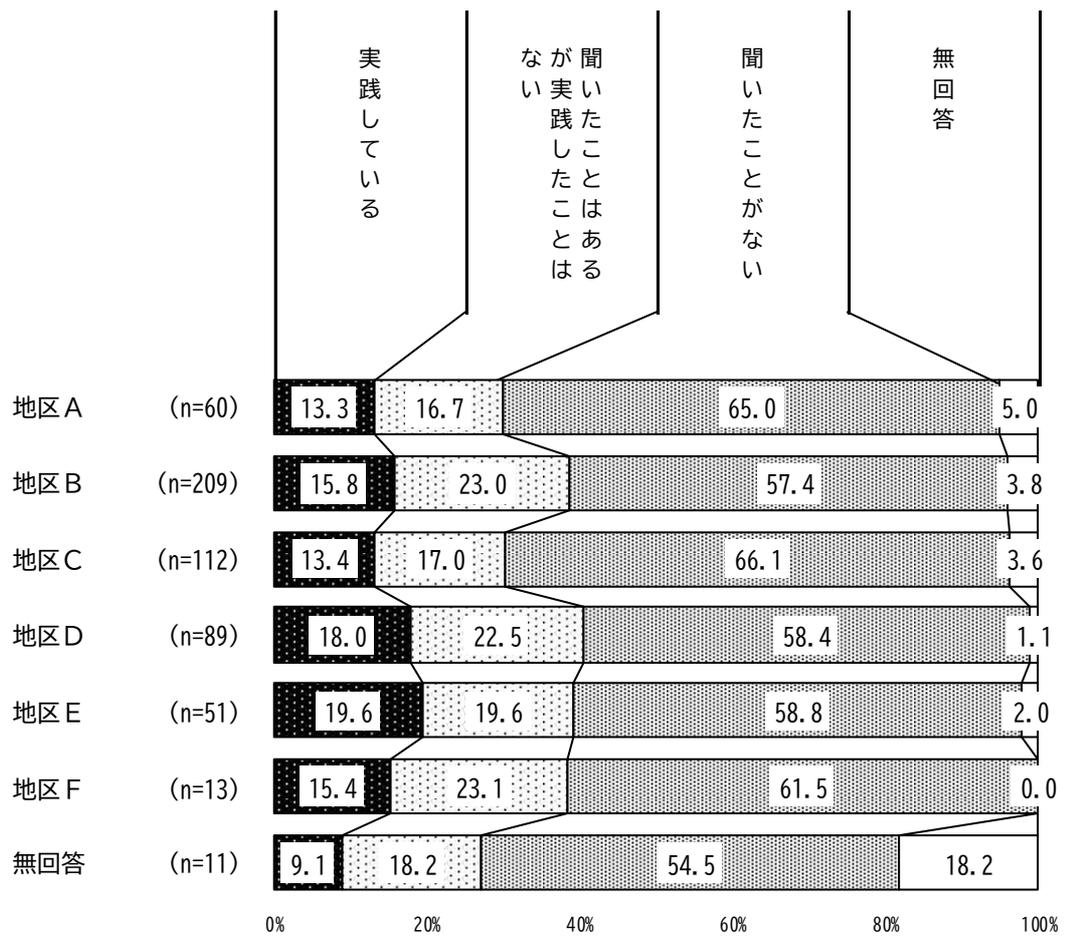
<図表 20 - 3>性別



<調査結果>

性別に見ると、男女ともに「聞いたことがない」が最も高くなっています。

<図表 20 - 4> 住居地区別



<調査結果>

居住地区別に見ると、すべての居住地区で「聞いたことがない」が最も高くなっています。

5 そのほか

(21) 多文化共生に関わるご意見等

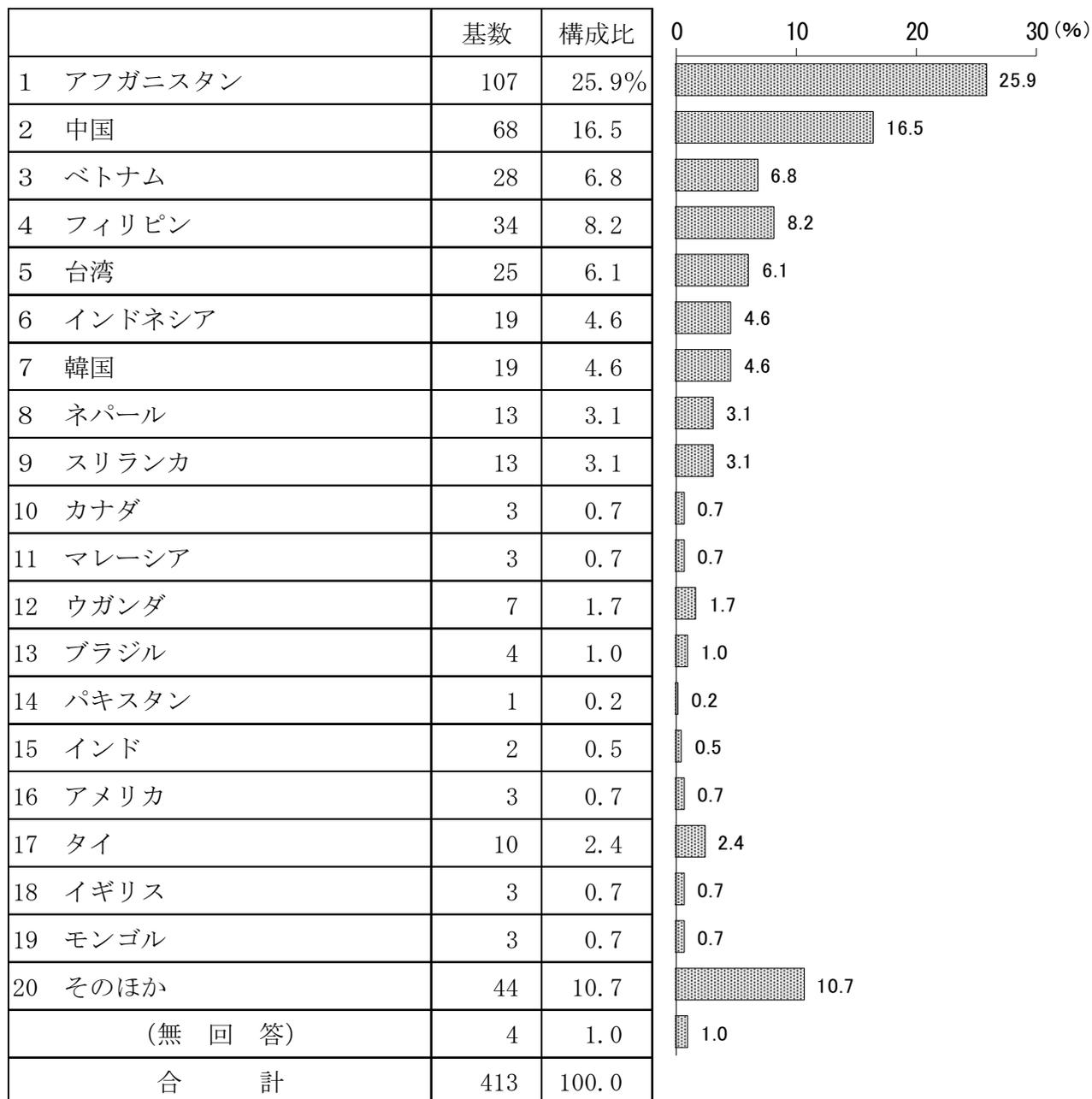
- ・多文化共生は共に文化を知る事が交流となり、色々な知識をお互いに知り、また話し合える事となると思う。
- ・四街道市には外国の人が3700人を超えているということを初めて知りました。そこで、私たちにできることは、外国の文化等の多様性を知り、それを認め、外国人の生活習慣等を理解・尊重するとともに、互いの人権に配慮した行動をとることが大切だと思います。
- ・自分も含めてですが、外国人市民に対する偏見があるように思います。外国人による強盗や傷害事件などのニュースによる影響があり、ゴミ捨てるのルールが守られていなかったりすると近くにすむ外国人では？と疑ってしまうことがあります。外国人市民に対して日本や地域のルールをどのように伝えているのかなどオープンにしてお互いを正しく理解するところから始める必要があると思います。
- ・日本人は多文化共生にまだまだ理解が足りないと感じる。
- ・四街道市の産業を踏まえると、外国人が住みやすい地域づくりが必要であり、他地域よりもリードすることで、四街道市の強みになるのでは。
- ・お互いに尊重し合うことが大切。
- ・近年、日本に居住する外国の方がかなり増えてきていると思います。子どもたちは学校などで日本語を学習する機会が与えられますが、大人（保護者）が日本語を話すこと（理解すること）ができず、お互いに大変な思いをする場面をよく見かけます。そういった方が日本語を学べる場を設けられたら良いのではないかと思います。積極的にそういった勉強の場（Community）をアピールして、少しでも意欲的に参加してもらえると、お互いに過ごしやすくなるのではないかと思います。
- ・異なった習慣や文化との交わる経験の乏しい日本人市民には、取組みにはよくよく理解が必要であり、行政からの説明が重要である。
- ・外国人が増える事に不安を感じる。不安が解消される様な取組みが必要だと思います。
- ・自分勝手に直す。他人への思いやりを覚える。
- ・日本人が外国人に阿る事はない。日本で仕事をするなら最低限の日本語はマスターして欲しい。
- ・日本の文化やルールを理解しようと努力している外国人住民もたくさんいるが、「日本語がわからないから」「日本人じゃないから」とルール違反を当たり前だという態度の外国人住民もいてとても残念です。大日のヤード街がどんどん治安が悪くなっていて、心配です。
- ・外国籍の方と関わる機会がないのですが、何かサポートできることがあれば取り組みたいと思います。
- ・外国の方は家族を呼び寄せて、住み、そこに根付き、自分たちのコミュニティを広げていくと思うので、〇〇タウンのように異文化が集中する地域が市内にできるのは、地域も発展するのでいいと思います。ですが、そこにコミュニティ外の方が住みにくくなるのは避けなければならないと思います。
- ・行政に期待します。同じ人間同士、お互いにゆずりあって生活できるのが理想的。
- ・偏見や差別は良くないと思いますが、感覚の違いはあるので、難しい面があるなと感じます。
- ・お互いの文化を受け入れることが出来なかったら、共生は無理だと思う。
- ・多文化共生は大事なことですが、日本や街が日本らしくなくなってしまうのではないかと不安になる事があります。外国人住民の方もそうですが、日本人が日本で住みやすいと思えるような環境であるべきとも考えます。
- ・多文化共生を推進していただくことはとてもいいことだと思います。ただ、一つの国の人々が集団になって住まれるのは心配ですが、いろんな国の方が住みやすくなれる地域になればうれしいです。
- ・とにかく「知ること」だと思います。お互いを知ることによって理解が進むのだと思いますが、そのきっかけがなかなかない。
- ・最近の四街道はヤードが多く、偏見になってしまうかもしれませんが、漠然とした怖さを感じてしまいます。多文化共生の一步はその怖さを取り除くことなのではないかなと思います。

など

Ⅲ 外国人向け調査

1 あなたのことについて

(1) 国籍・地域

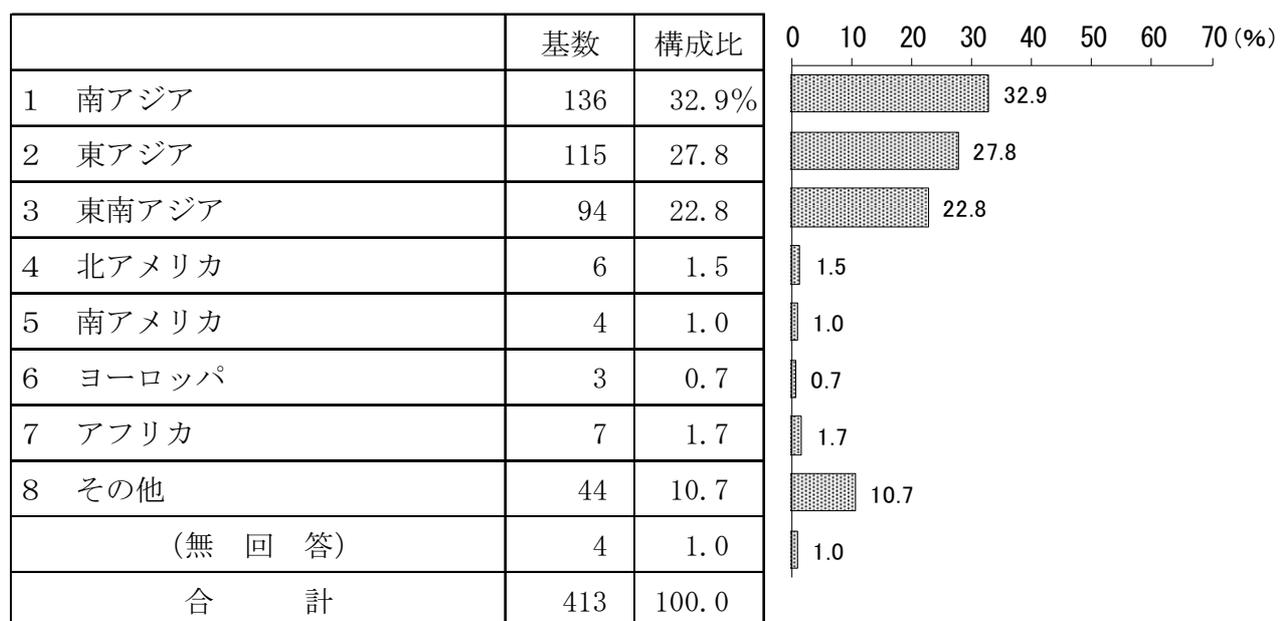


「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ロシア
- ・フランス
- ・イラン
- ・エジプト
- ・ペルー
- ・キルギス
- ・ドイツ
- ・デンマーク

など

(1-1) 国籍・地域



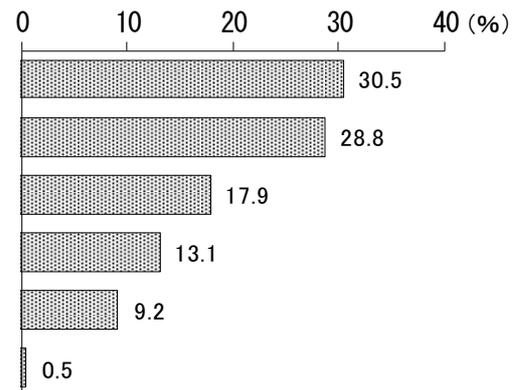
分類地域名	該当する国名 (問1の選択肢)
南アジア	アフガニスタン、パキスタン、ネパール、スリランカ、インド
東アジア	中国、韓国、モンゴル、台湾
東南アジア	ベトナム、フィリピン、インドネシア、マレーシア、タイ
北アメリカ	カナダ、アメリカ
南アメリカ	ブラジル
ヨーロッパ	イギリス
アフリカ	ウガンダ
その他	その他

(2) 性別



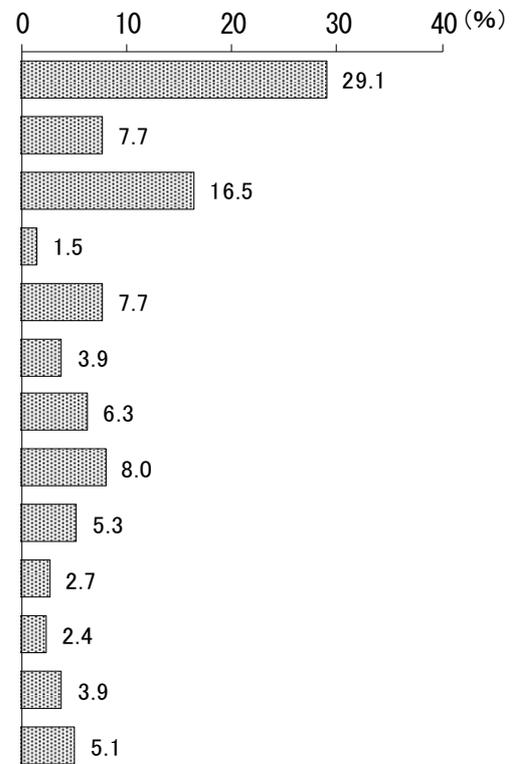
(3) 年齢

	基数	構成比
1 10代・20代	126	30.5%
2 30代	119	28.8
3 40代	74	17.9
4 50代	54	13.1
5 60代以上	38	9.2
(無回答)	2	0.5
合計	413	100.0



(4) 在留資格

	基数	構成比
1 永住者	120	29.1%
2 家族滞在	32	7.7
3 技術・人文知識・国際業務	68	16.5
4 留学	6	1.5
5 定住者	32	7.7
6 永住者の配偶者等	16	3.9
7 日本人の配偶者等	26	6.3
8 特定技能	33	8.0
9 技能実習	22	5.3
10 経営・管理	11	2.7
11 特定活動	10	2.4
12 そのほか	16	3.9
(無回答)	21	5.1
合計	413	100.0



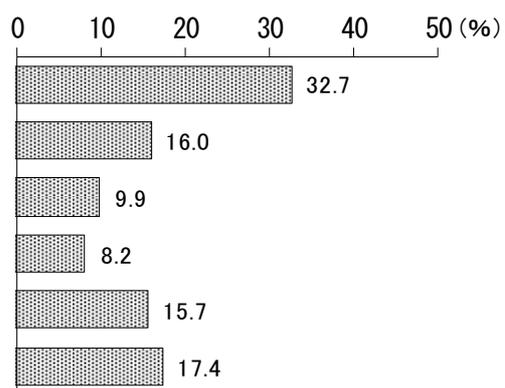
「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・医療
- ・介護
- ・高度専門
- ・指導員

など

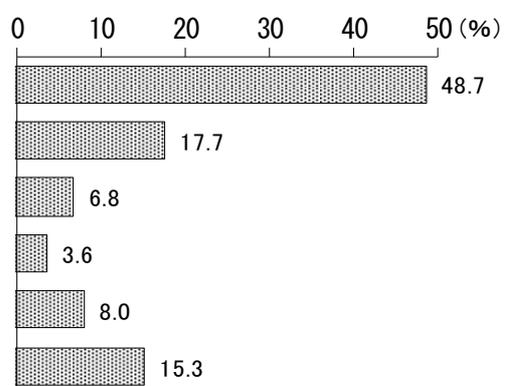
(5-1) 日本の居住年数

	基数	構成比
1 1～5年	135	32.7%
2 6～10年	66	16.0
3 11～15年	41	9.9
4 16～20年	34	8.2
5 21年以上	65	15.7
(無回答)	72	17.4
合計	413	100.0

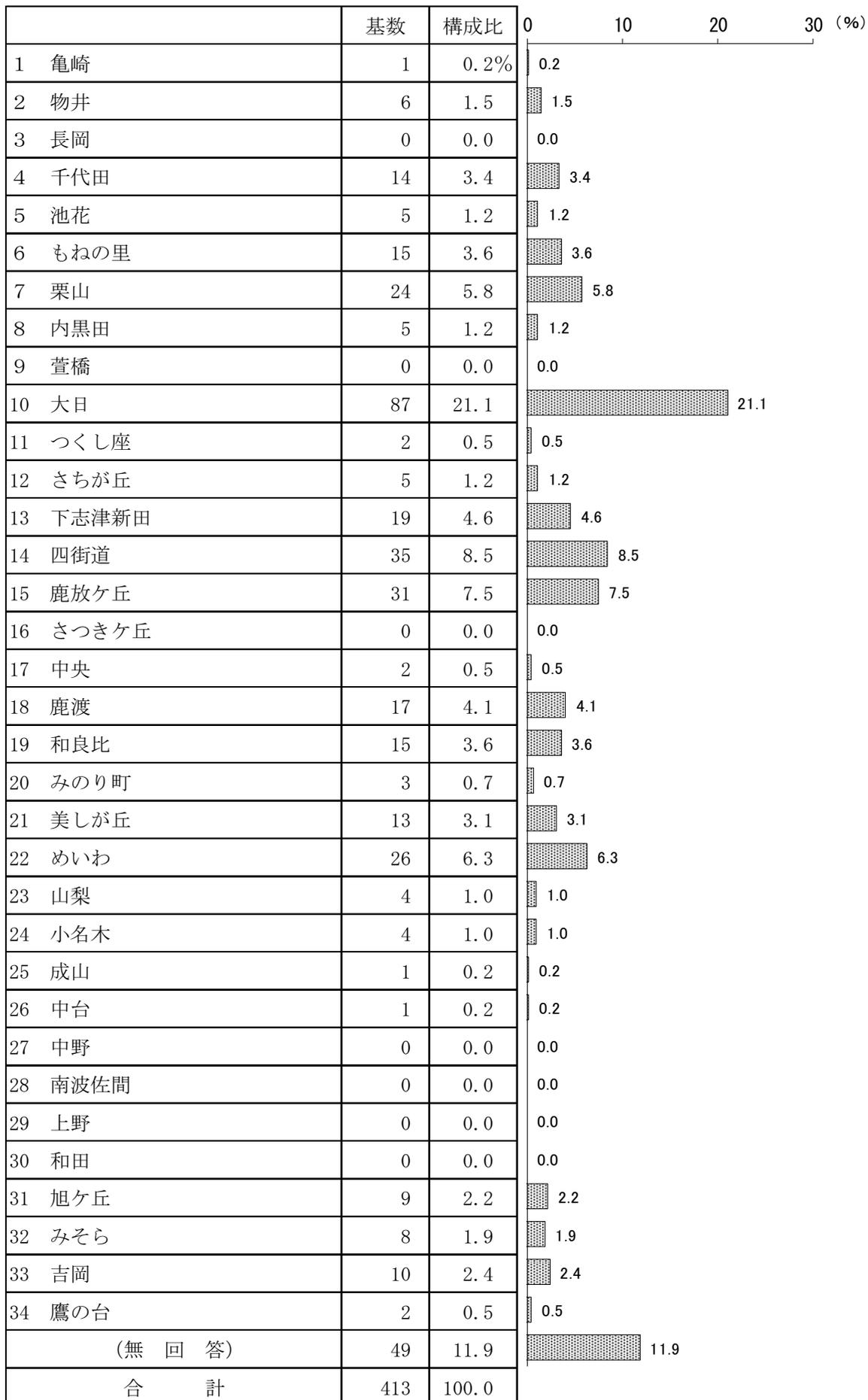


(5-2) 四街道市の居住年数

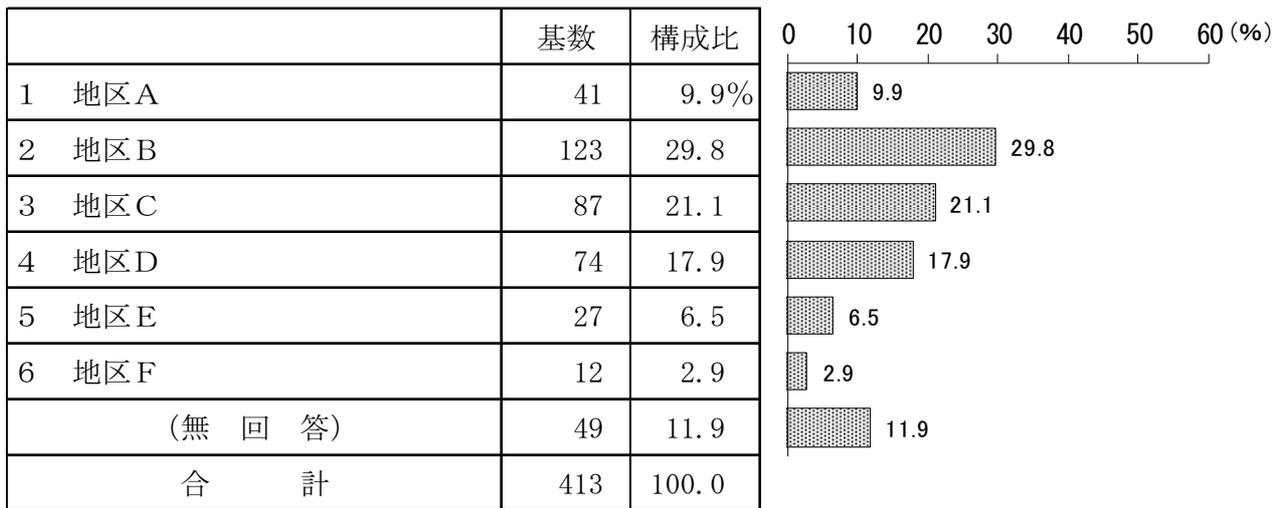
	基数	構成比
1 1～5年	201	48.7%
2 6～10年	73	17.7
3 11～15年	28	6.8
4 16～20年	15	3.6
5 21年以上	33	8.0
(無回答)	63	15.3
合計	413	100.0



(6) お住まいの地区

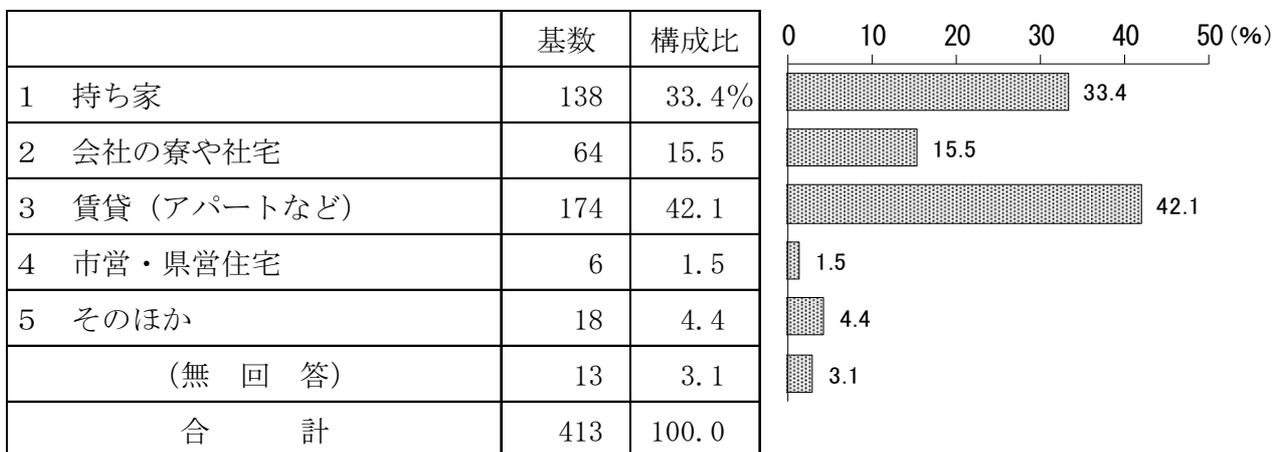


(6-1) お住まいの地域 (地区別)



地区名	地域名
地区A	亀崎、物井、長岡、千代田、池花、もねの里
地区B	栗山、内黒田、萱橋、大日、つくし座、さちが丘
地区C	下志津新田、四街道、鹿放ヶ丘、さつきヶ丘、中央
地区D	鹿渡、和良比、みのり町、美しが丘、めいわ
地区E	山梨、小名木、成山、中台、中野、南波佐間、上野、和田、旭ヶ丘、みそら
地区F	吉岡、鷹の台

(7) 住宅



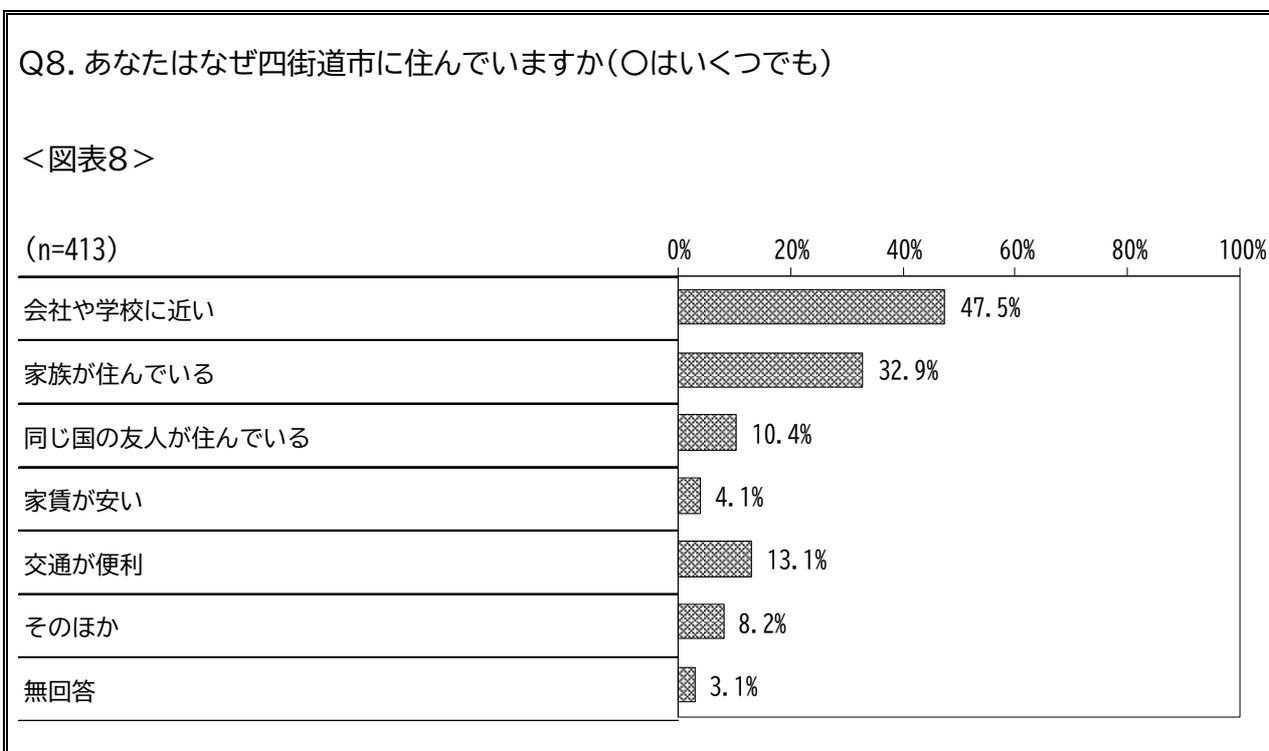
「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ 寺
- ・ 息子の家

など

2 四街道市での生活について

(8) 四街道市に住んでいる理由



<調査結果>

なぜ四街道市に住んでいるか聞いたところ、「会社や学校に近い」(47.5%)が4割半ばを超え最も高くなっています。次いで、「家族が住んでいる」(32.9%)、「交通が便利」(13.1%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

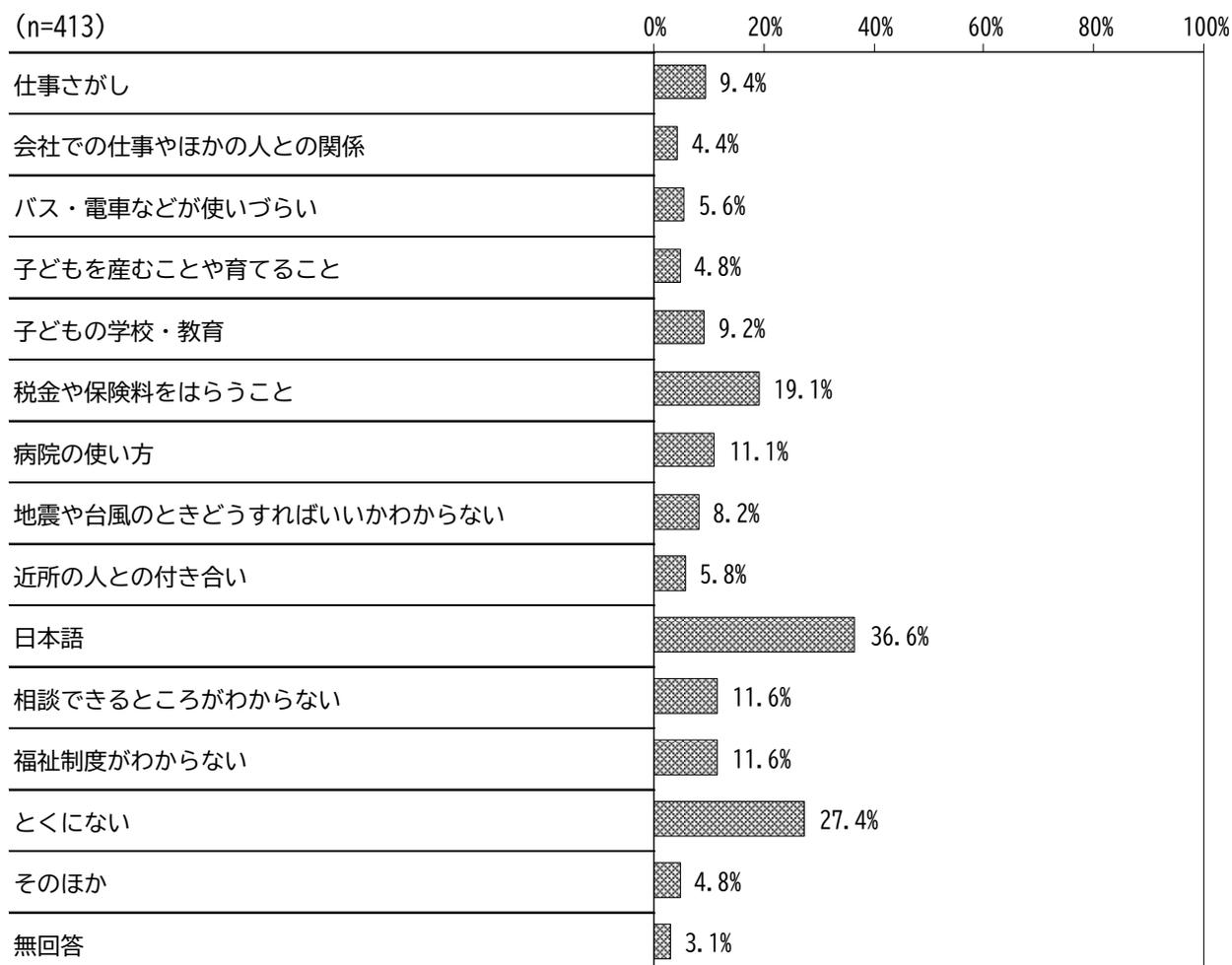
- ・会社の寮や社宅
- ・たまたま。
- ・会社から転勤した。
- ・家を買ったから。
- ・COVID19の影響のため。
- ・特別な理由ないです。
- ・会社の決めた寮。

など

(9) 生活で困っていることや不安なこと

Q9. あなたが、生活で困っていることや不安なことはどれですか(○はいくつでも)

<図表9>



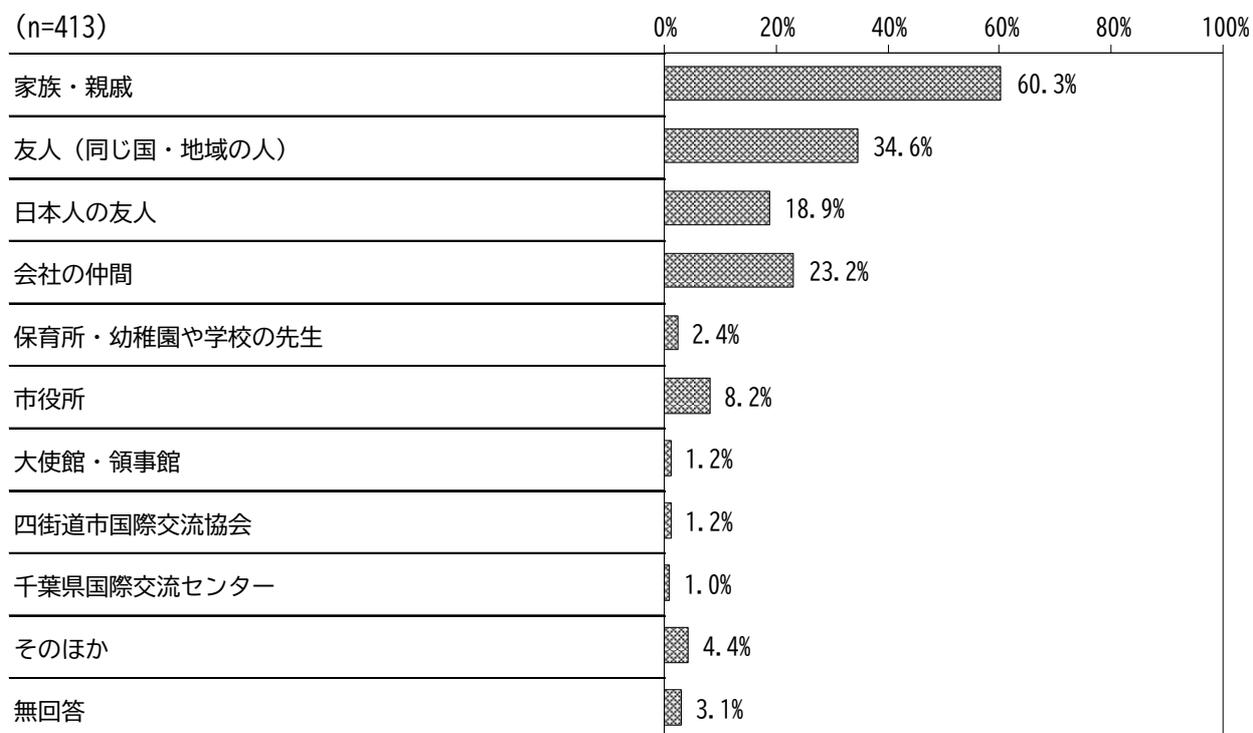
<調査結果>

生活で困っていることや不安なことを聞いたところ、「日本語」(36.6%)が3割半ばを超え最も高くなっています。次いで、「税金や保険料をはらうこと」(19.1%)、「相談できるところがわからない」(11.6%)、「福祉制度がわからない」(11.6%)となっています。「とくにない」(27.4%)は2割半ばを超えています。

(10) 生活で困ったときに相談する人

Q10. あなたは生活で困ったときにだれに相談しますか(○はいくつでも)

<図表 10>



<調査結果>

生活で困ったときにだれに相談しているか聞いたところ、「家族・親族」(60.3%)が約6割と最も高くなっています。次いで、「友人(同じ国・地域の人)」(34.6%)、「会社の仲間」(23.2%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

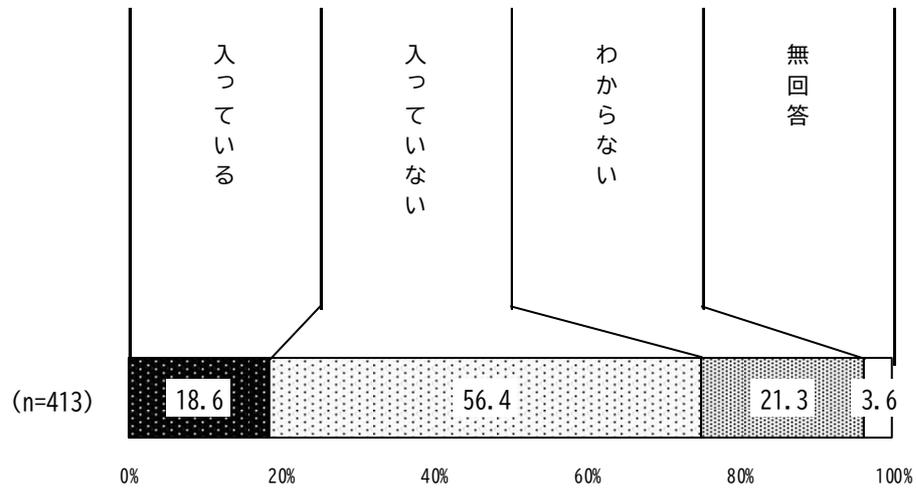
- ・日本人の友人(英語を話せます)
- ・誰に聞いたらよいかわからない
- ・近所の方
- ・組合

など

(11) 自治会への加入状況

Q11. 自治会に入っていますか

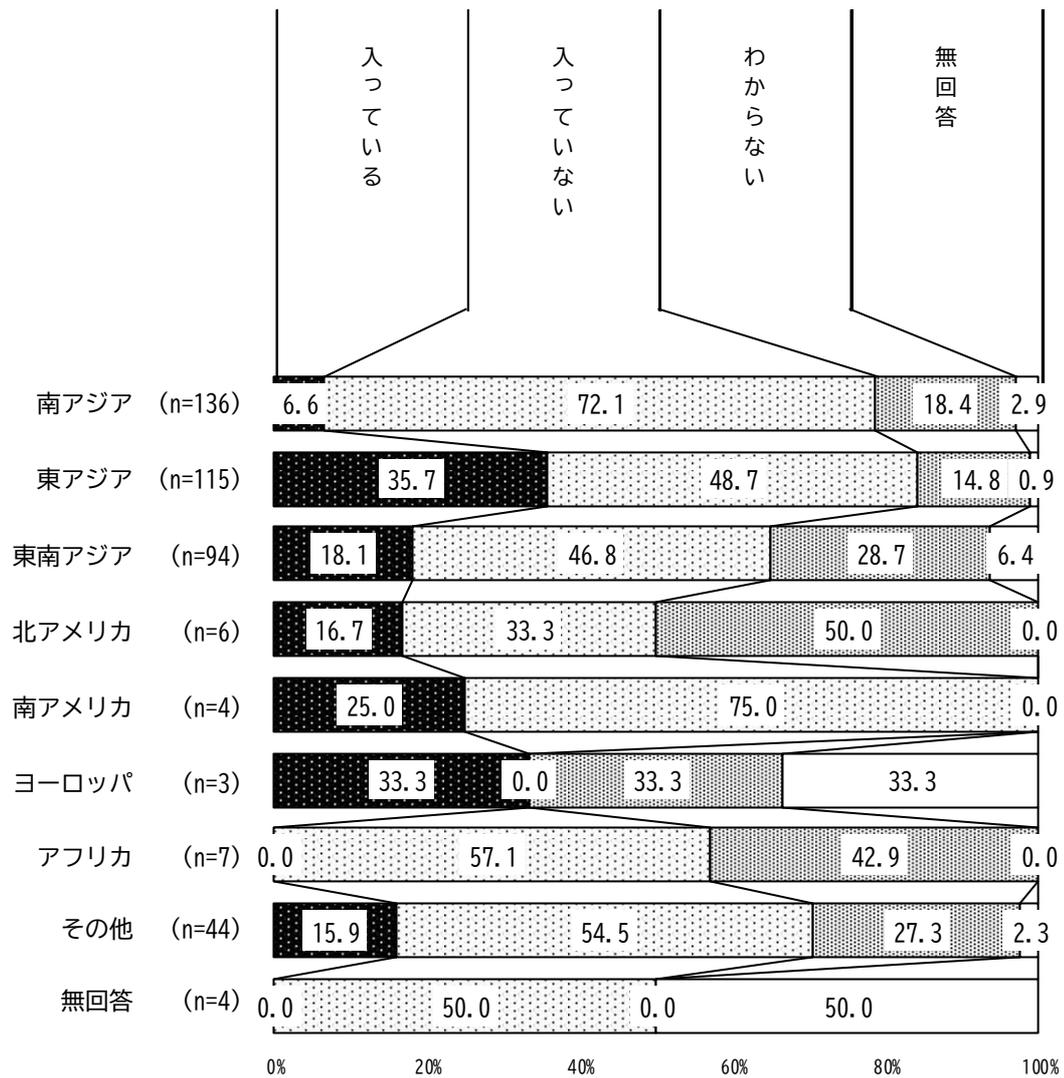
<図表 11-1>



<調査結果>

自治会に入っているか聞いたところ、「入っていない」(56.4%)が5割半ばで最も高くなっています。次いで「わからない」(21.3%)、「入っている」(18.6%)となっています。

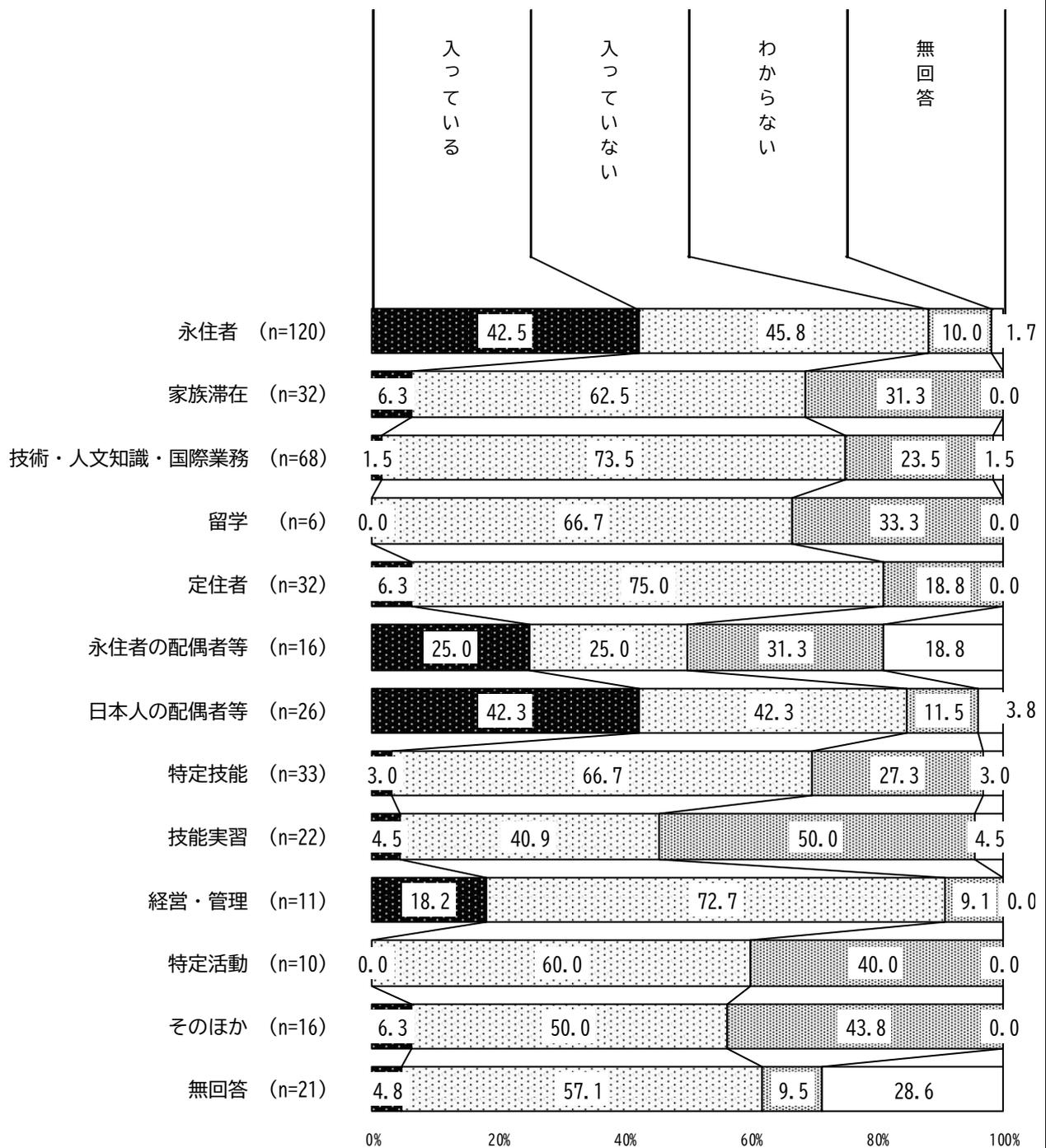
<図表 11 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、ヨーロッパ出身では回答に差がありませんでしたが、それ以外の国籍地域では「入っていない」が最も多くなっています。

<図表 11 - 3> 在留資格別



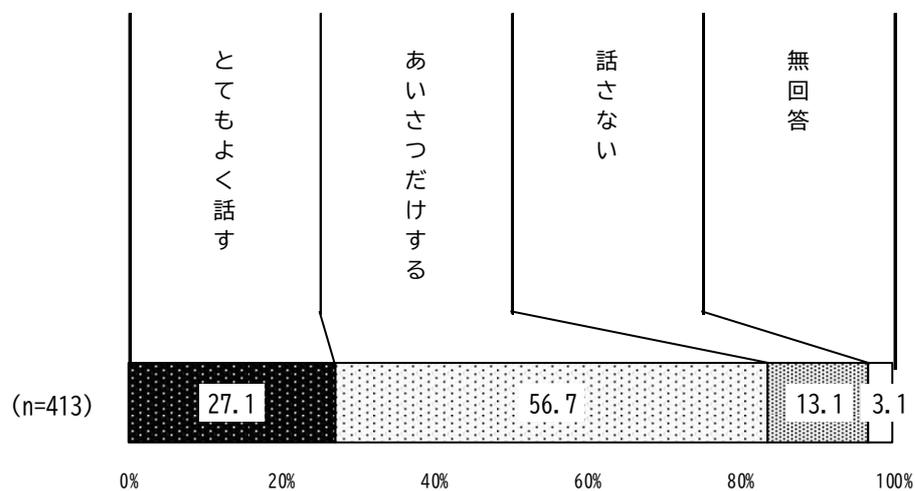
<調査結果>

在留資格別に見ると、永住者の配偶者等と技能実習では「わからない」が最も高くなっています。一方、それ以外の在留資格では「入っていない」が最も高くなっています。永住者と日本人の配偶者等では「入っている」が4割台となっています。

(12) 日本人との会話

Q12. 近くに住んでいる日本人と話しますか

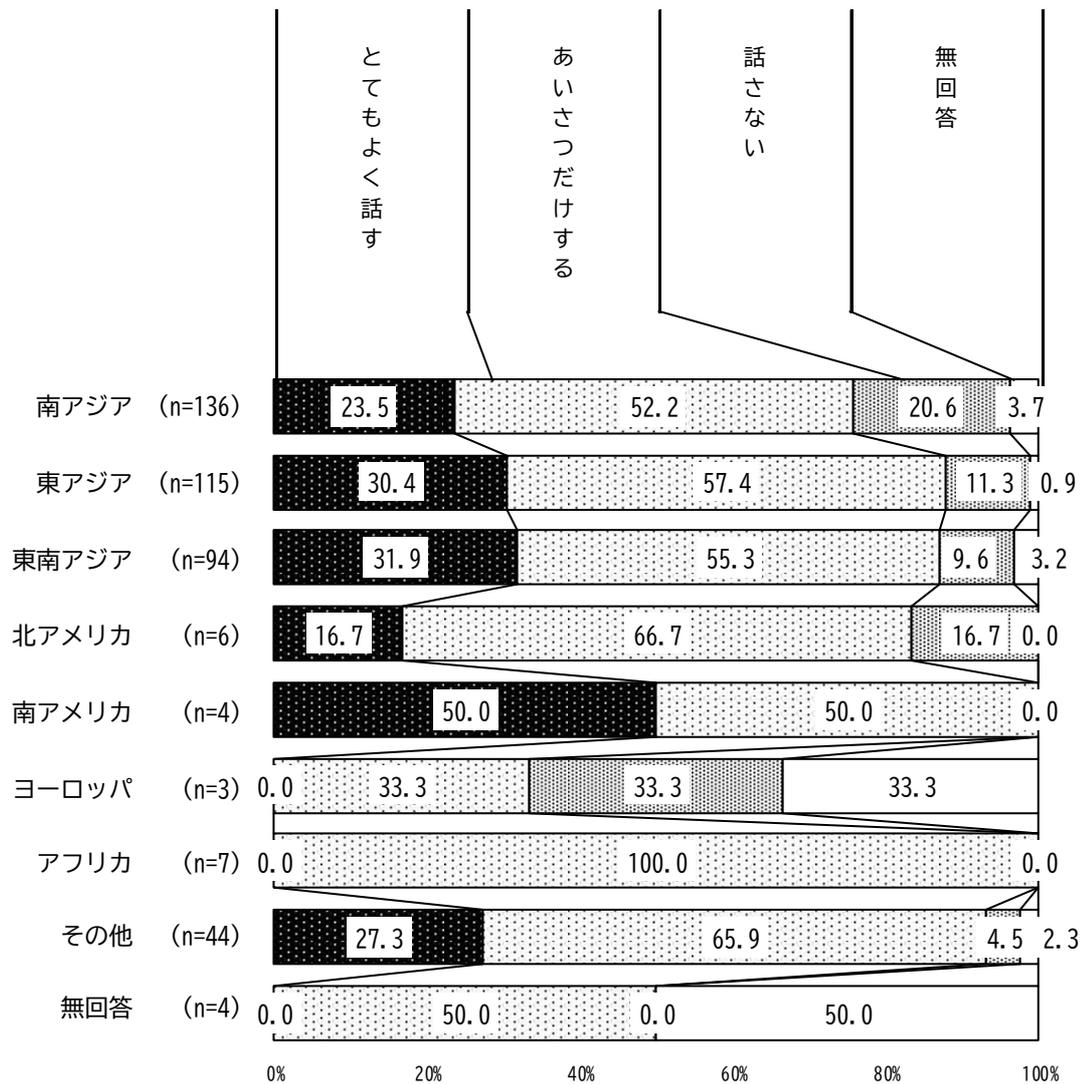
<図表 12-1>



<調査結果>

近くに住んでいる日本人と話すか聞いたところ、「あいさつだけする」(56.7%)が5割半ばを超え最も高くなっています。次いで「とてもよく話す」(27.1%)、「話さない」(13.1%)となっています。

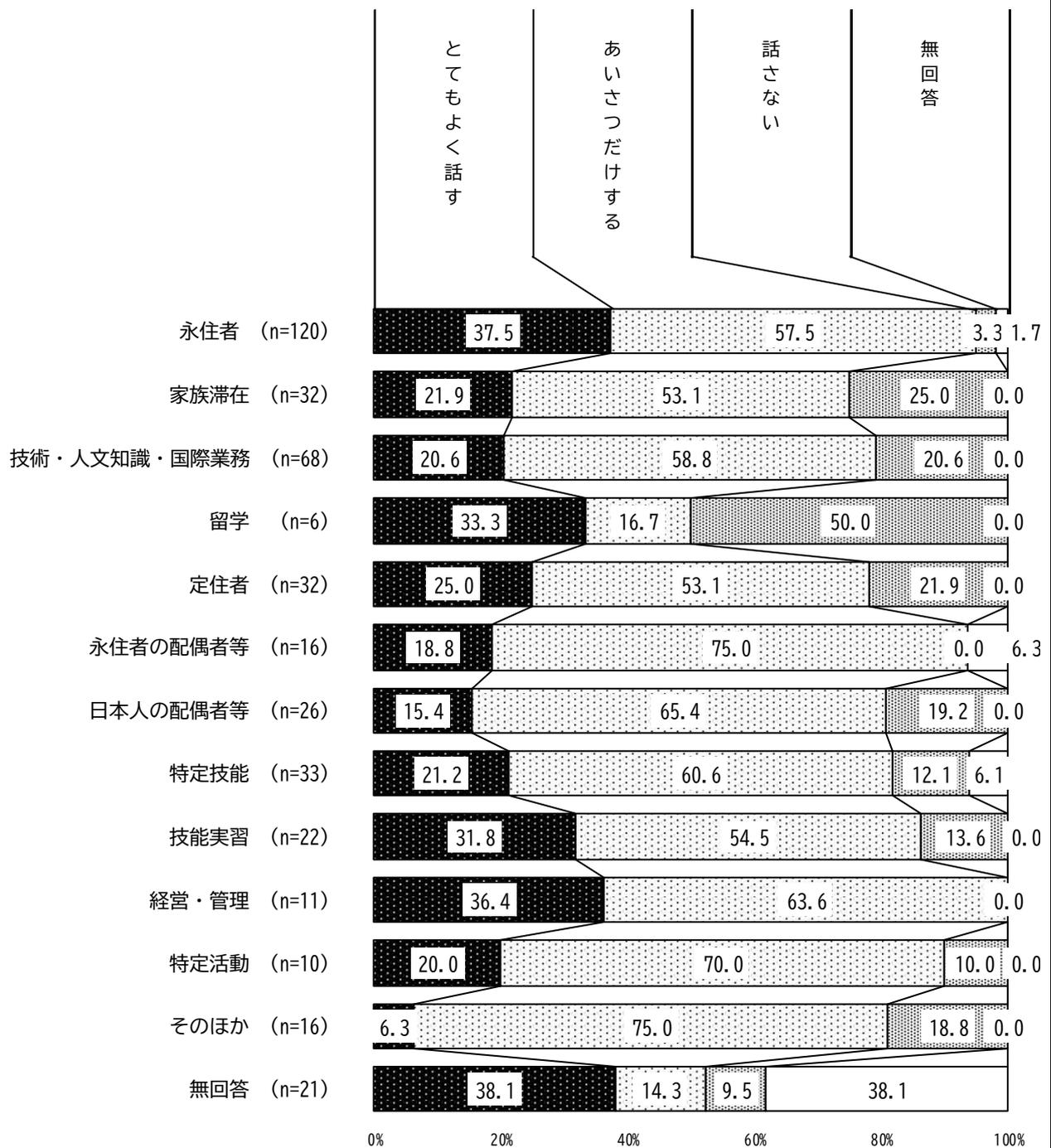
<図表 12 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、南アメリカ出身、ヨーロッパ出身では回答に差がありませんでしたが、それ以外の国籍地域では「あいさつだけする」が最も多くなっています。

<図表 12 - 3> 在留資格別



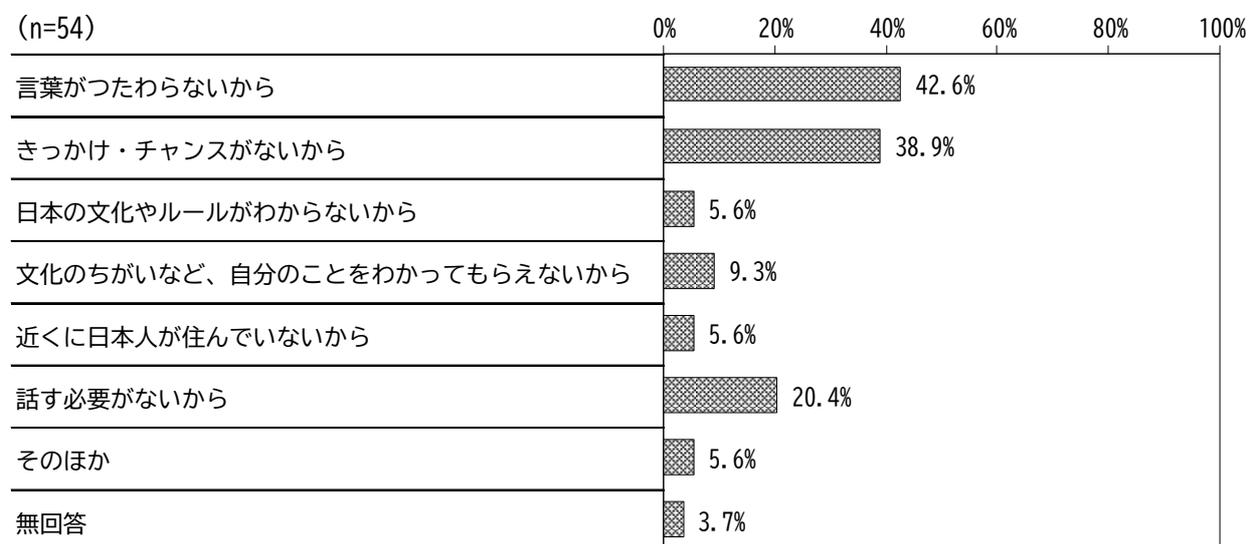
<調査結果>

在留資格別に見ると、留学では「話さない」が最も高くなっています。一方、それ以外の在留資格では「あいさつだけする」が最も高くなっています。

(13) 話さない理由

Q13. Q12 で「話さない」と答えた方:なぜですか(○はいくつでも)

<図表 13>



<調査結果>

Q12 で話さないと答えた方に理由を聞いたところ、「言葉が伝わらないから」(42.6%)が4割を超え最も高くなっています。次いで、「きっかけ・チャンスがないから」(38.9%)、「話す必要がないから」(20.4%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

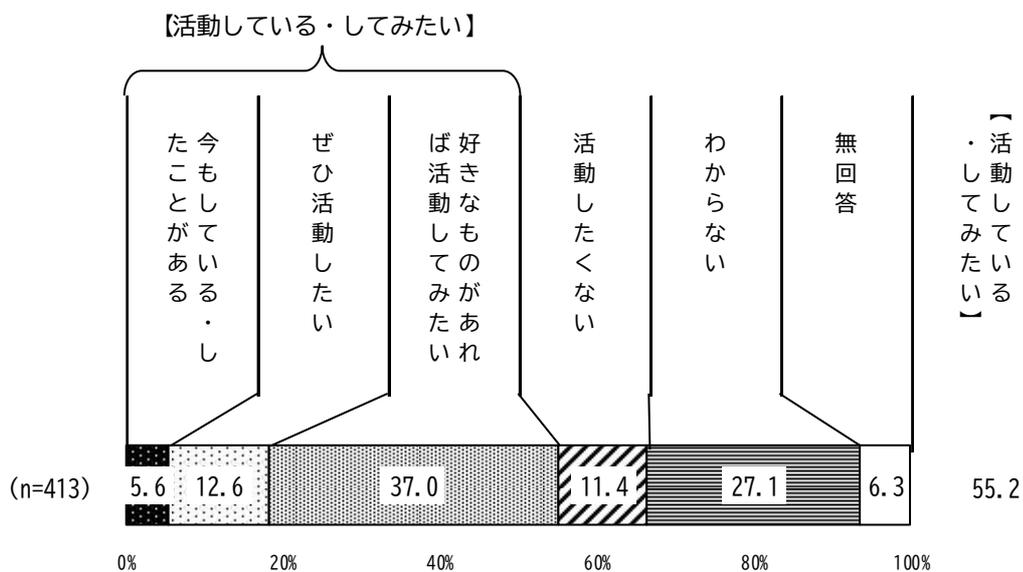
- ・ 差別がある。
- ・ チャンスない。
- ・ 普段から近隣同志の交流がないから。

など

(14) 地域の活動やまちづくりの活動

Q14. 地域の活動やまちづくりの活動をしてみたいですか

<図表 14-1>

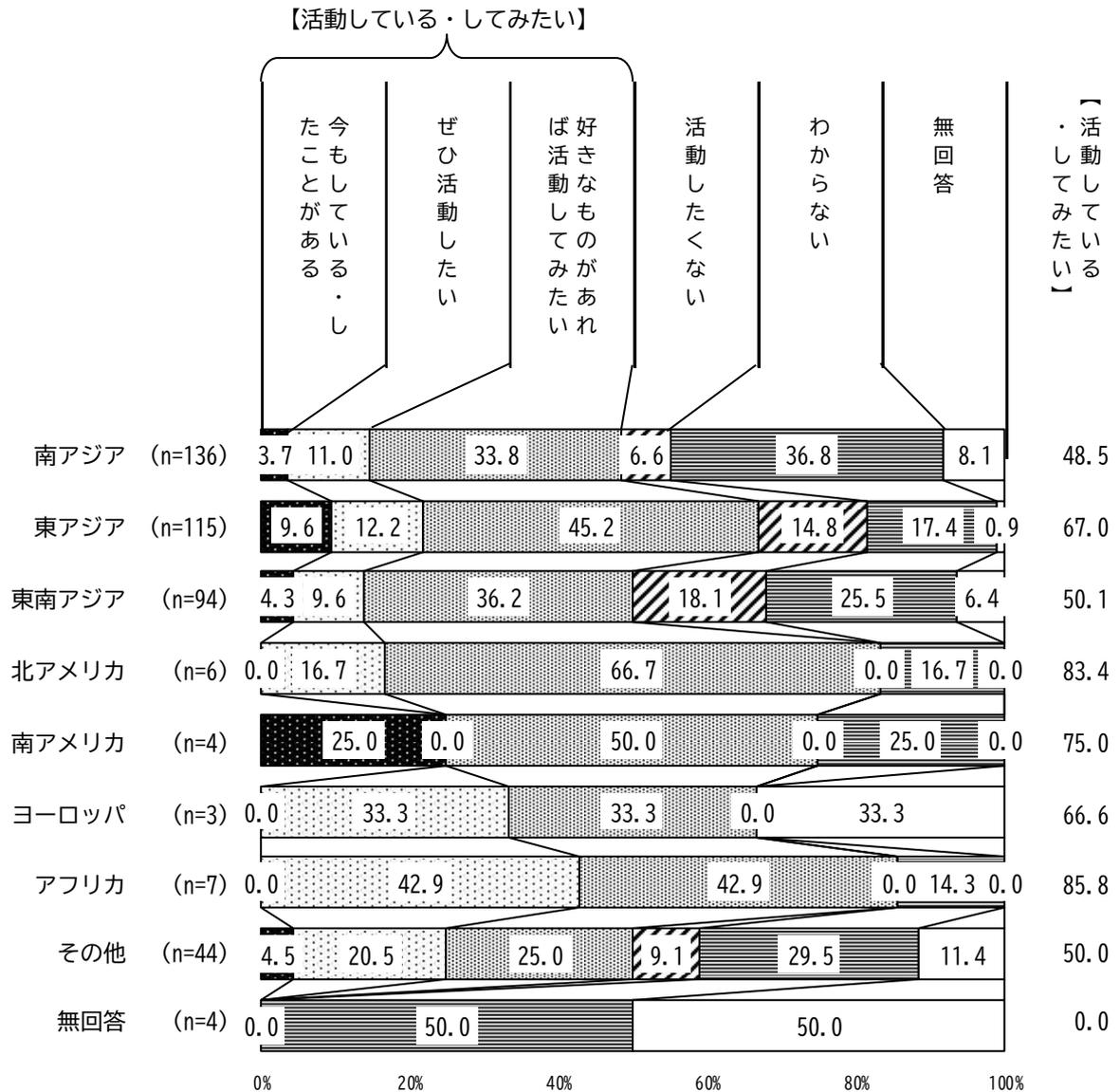


<調査結果>

地域の活動やまちづくりの活動をしてみたいか聞いたところ、「好きなものがあれば活動してみたい」(37.0%)が3割半ばを超え最も高くなっています。次いで「わからない」(27.1%)、「活動したくない」(11.4%)となっています。

【活動している・してみたい】割合は5割半ばとなっています。

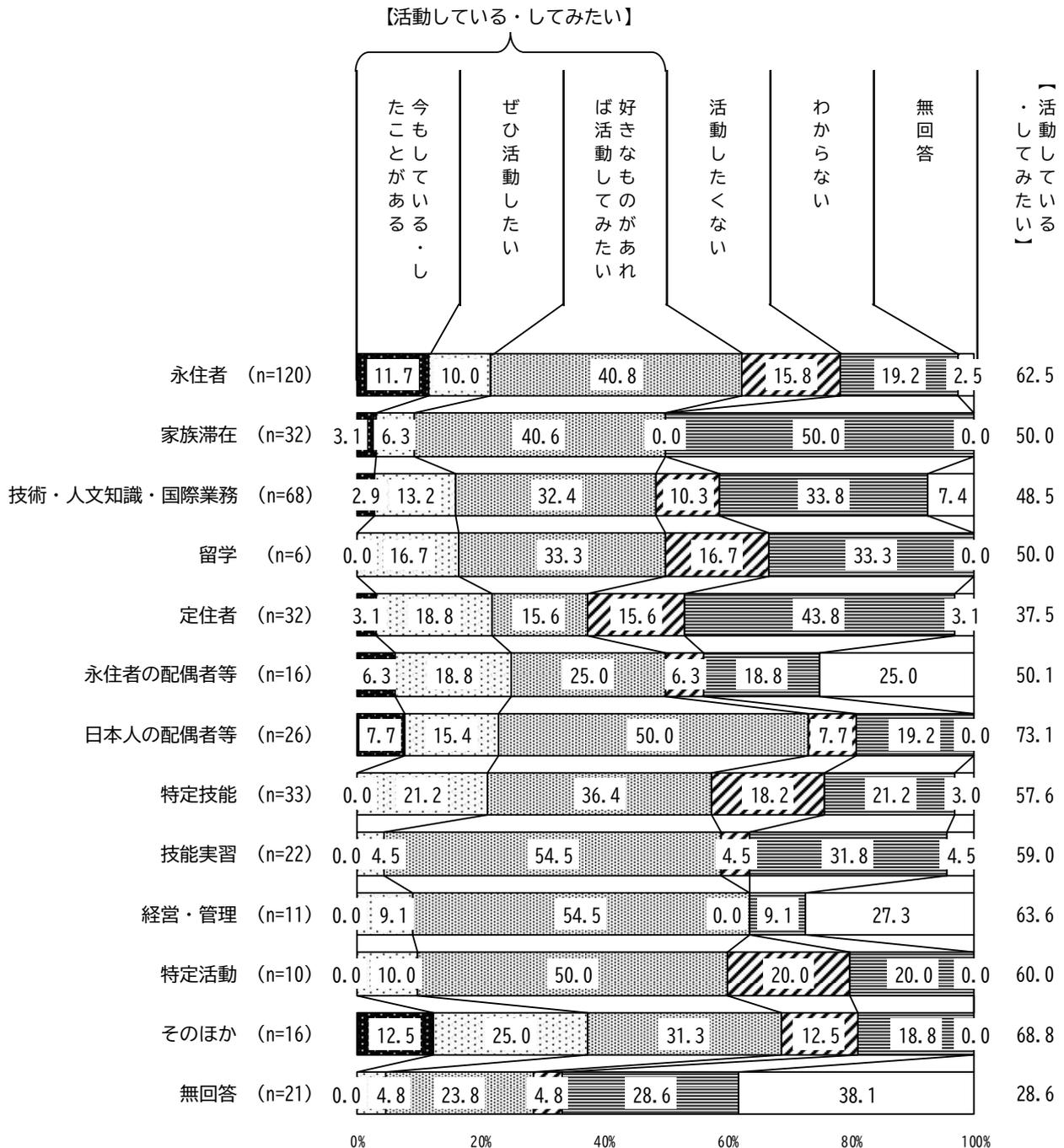
<図表 14 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、【活動している・してみたい】割合は南アメリカ出身以外で5割を超えています。

<図表 14 - 3> 在留資格別



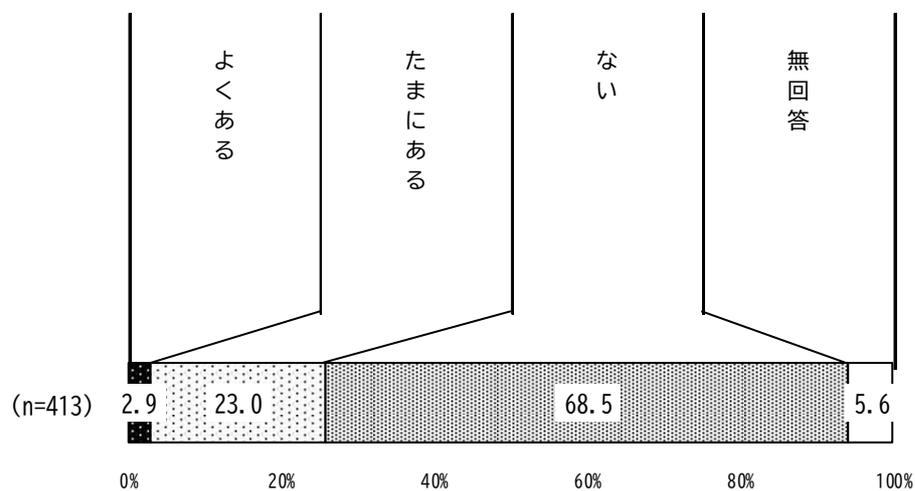
<調査結果>

在留資格別に見ると、【活動している・してみたい】は技術・人文知識・国際業務と定住者以外では5割を超えており、日本人の配偶者等では7割を超えています。

(15) 不快な思いをしたことがあるか

Q15. あなたは、自分の住んでいるところや会社で不快な思いをしたことがありますか

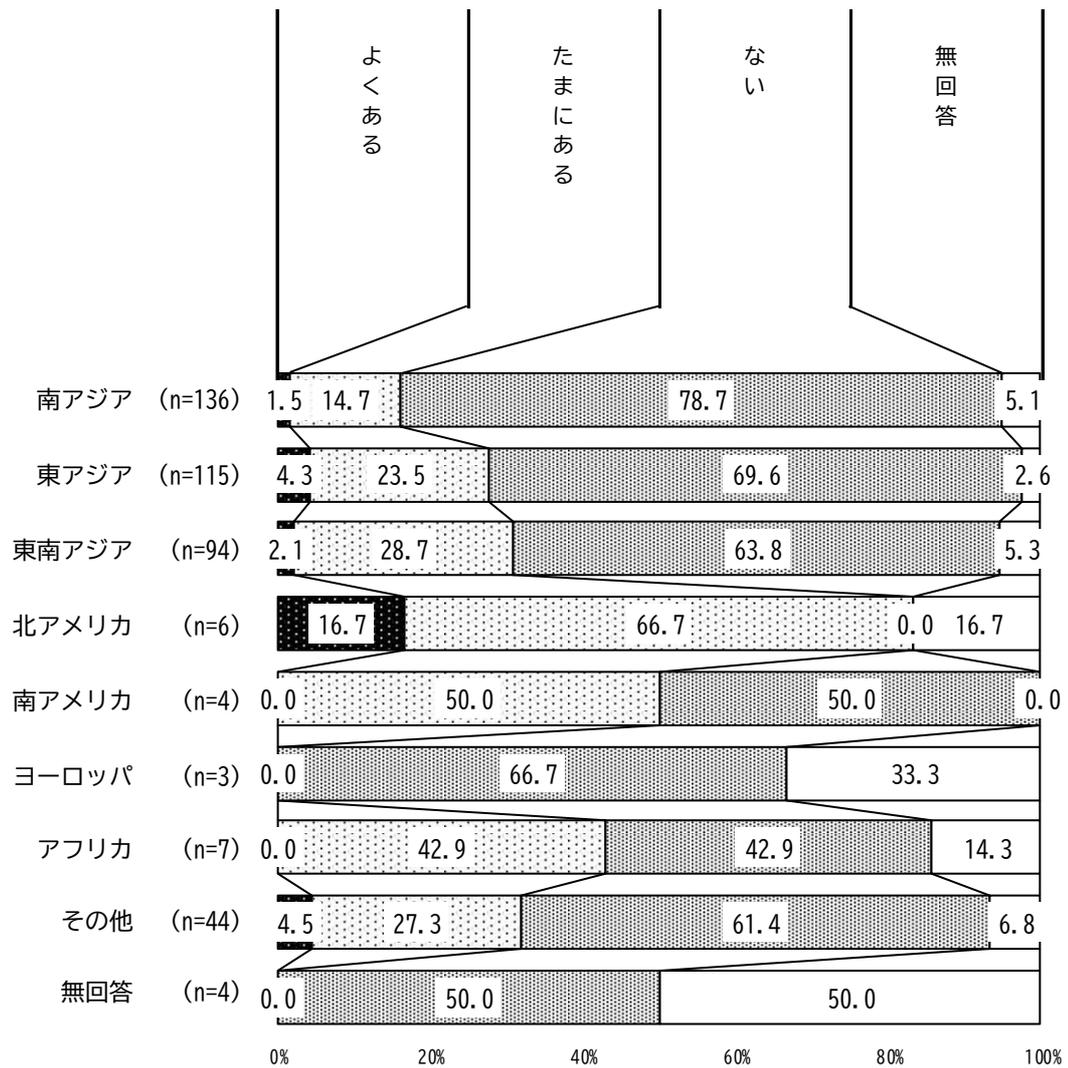
<図表 15-1>



<調査結果>

自分の住んでいるところや会社で不快な思いをしたことがあるか聞いたところ、「ない」(68.5%)が7割近くで最も高くなっています。次いで「たまにある」(23.0%)、「よくある」(2.9%)となっています。

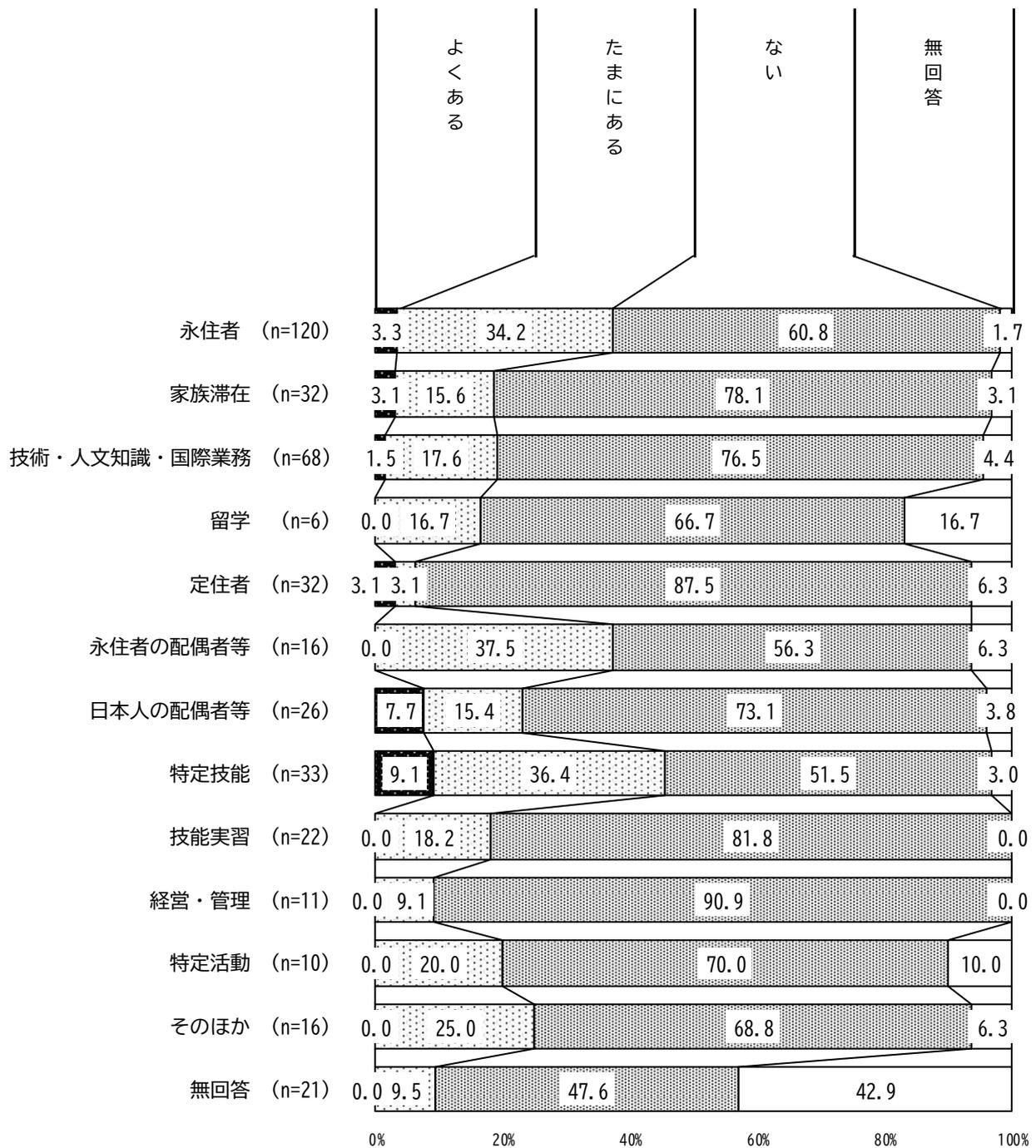
<図表 15 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、北アメリカ出身では「たまにある」が最も高くなっており、南アジア出身、東アジア出身、東南アジア出身、ヨーロッパ出身、その他の国籍地域では「ない」が最も高くなっています。

<図表 15 - 3> 在留資格別



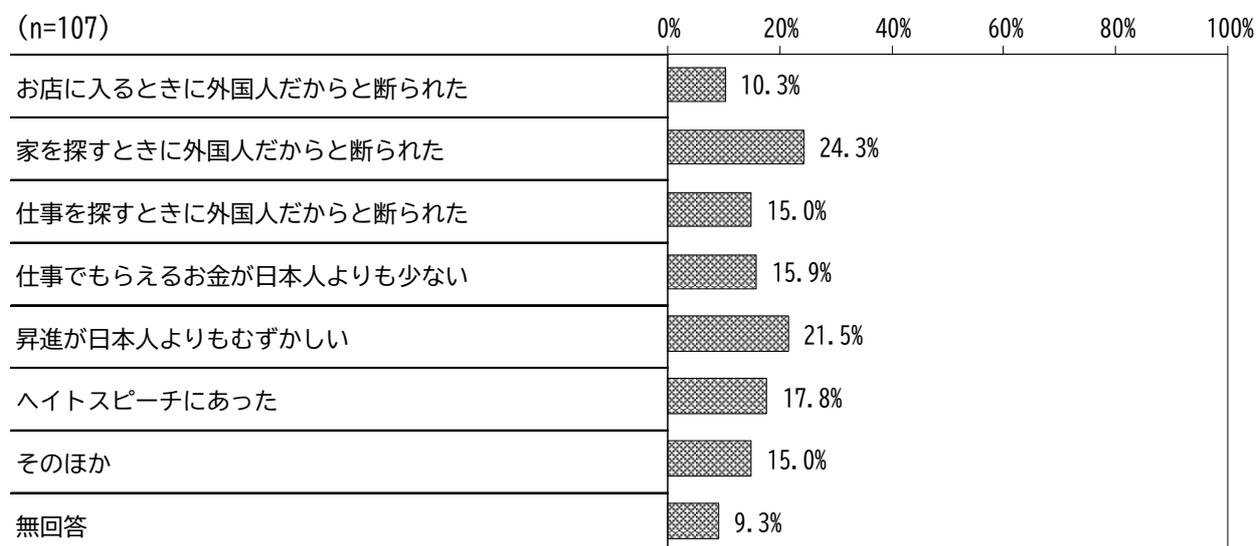
<調査結果>

在留資格別に見ると、すべての在留資格で「ない」が最も高くなっています。

(16) どのようなことで不快な思いをしたか

Q16. Q15 で「よくある」「たまにある」と答えた方:どのようなことですか(○はいくつでも)

<図表 16>



<調査結果>

Q15 で「よくある」「たまにある」と答えた方に、どのようなことで不快な思いをしたか聞いたところ、「家を探すときに外国人だからと断られた」(24.3%)が2割半ばと最も高くなっています。次いで、「昇進が日本人よりもむずかしい」(21.5%)、「ヘイトスピーチにあった」(17.8%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・白人(黄色人)よりも差別される。
- ・私は敬語を使っても外国人だからとタメ口で話される。
- ・もし白人又は黒人であれば人種差別に遭うことは全くかほとんどありません。でもアジアの他の人種だと人種差別に遭うことがあります。日本語が話せないと余計にそうです。でも世界中のどこでも不愉快な経験はあると思うので、(人種差別は)無視するようにしています。そして最良の生活をしようとしています。
- ・日本人は私に対してとても親切です。ですが、未だ打ち解けない感じがします。

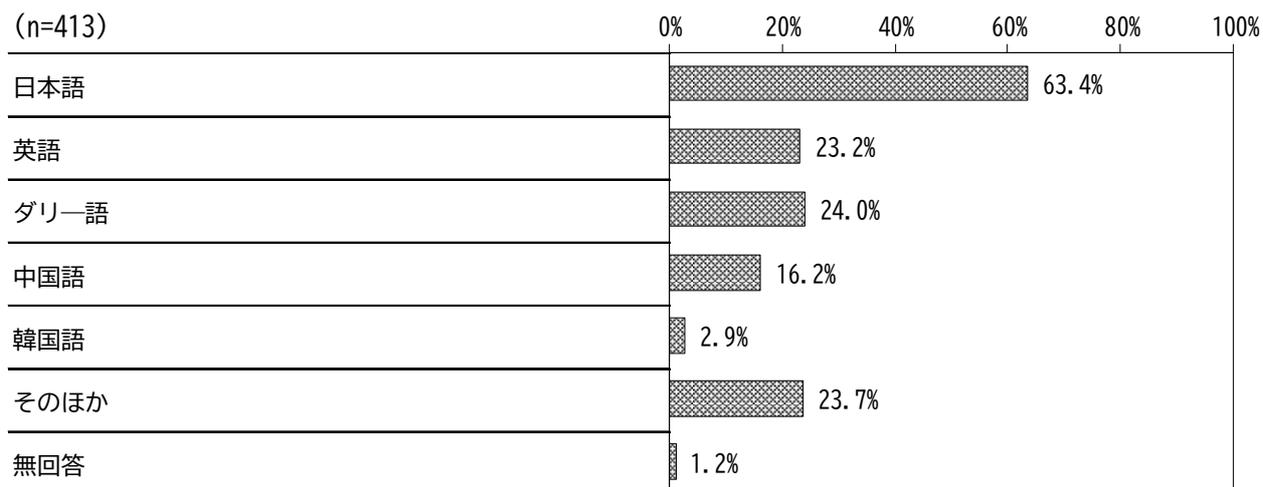
など

3 ことばについて

(17) いつもの生活でよく使うことば

Q17. あなたがいつもの生活でよく使うことばはどれですか(○はいくつでも)

<図表 17>



<調査結果>

いつもの生活でよく使うことばを聞いたところ、「日本語」(63.4%)が6割を超えと最も高くなっています。次いで、「ダリー語」(24.0%)、「そのほか」(23.7%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

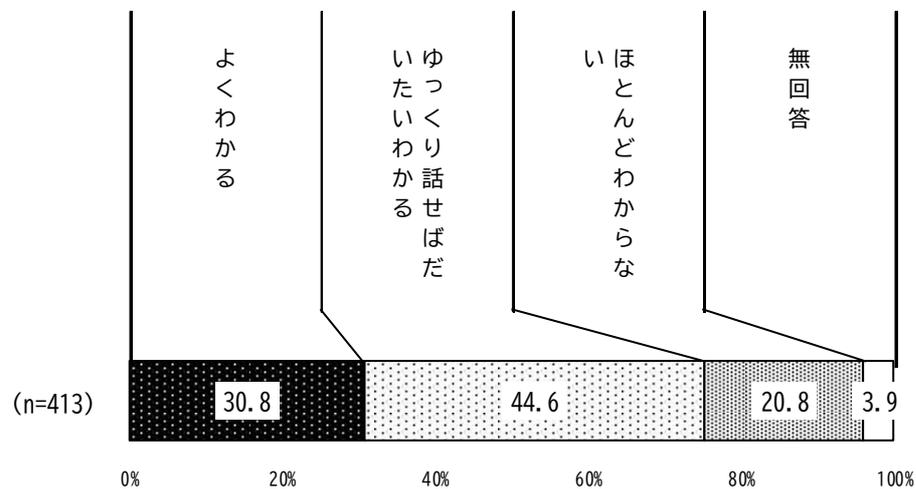
- ・フィリピン語
- ・タガログ語
- ・ベンガル語
- ・シンハラ語
- ・ウガンダ語
- ・ドイツ語

など

(18) 日本語の理解度

Q18. あなたは、日本語を聞いてどれくらいわかりますか

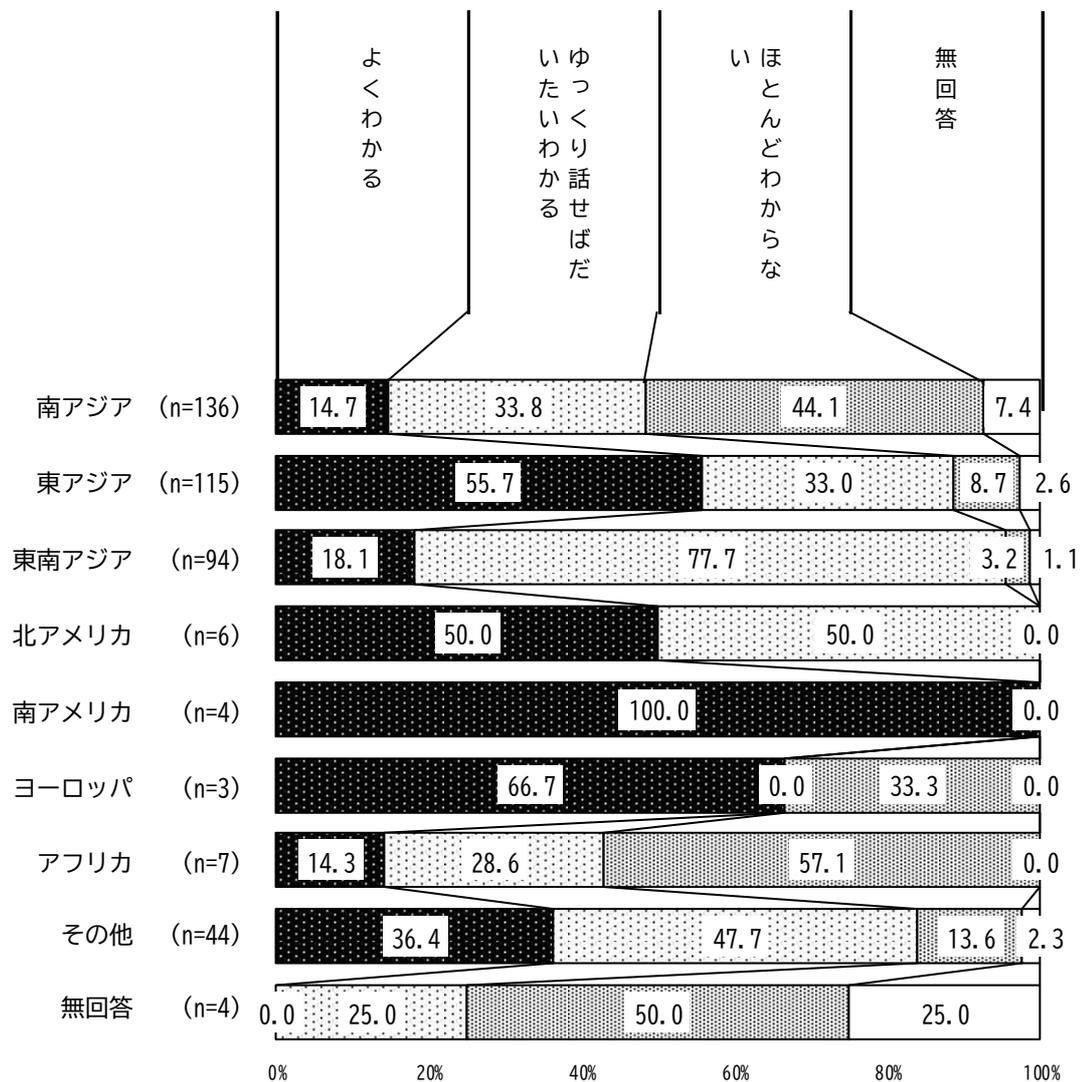
<図表 18-1>



<調査結果>

日本語を聞いてどれくらいわかるか聞いたところ、「ゆっくり話せばだいたいわかる」(44.6%)が4割半ばで最も高くなっています。次いで「よくわかる」(30.8%)、「ほとんどわからない」(20.8%)となっています。

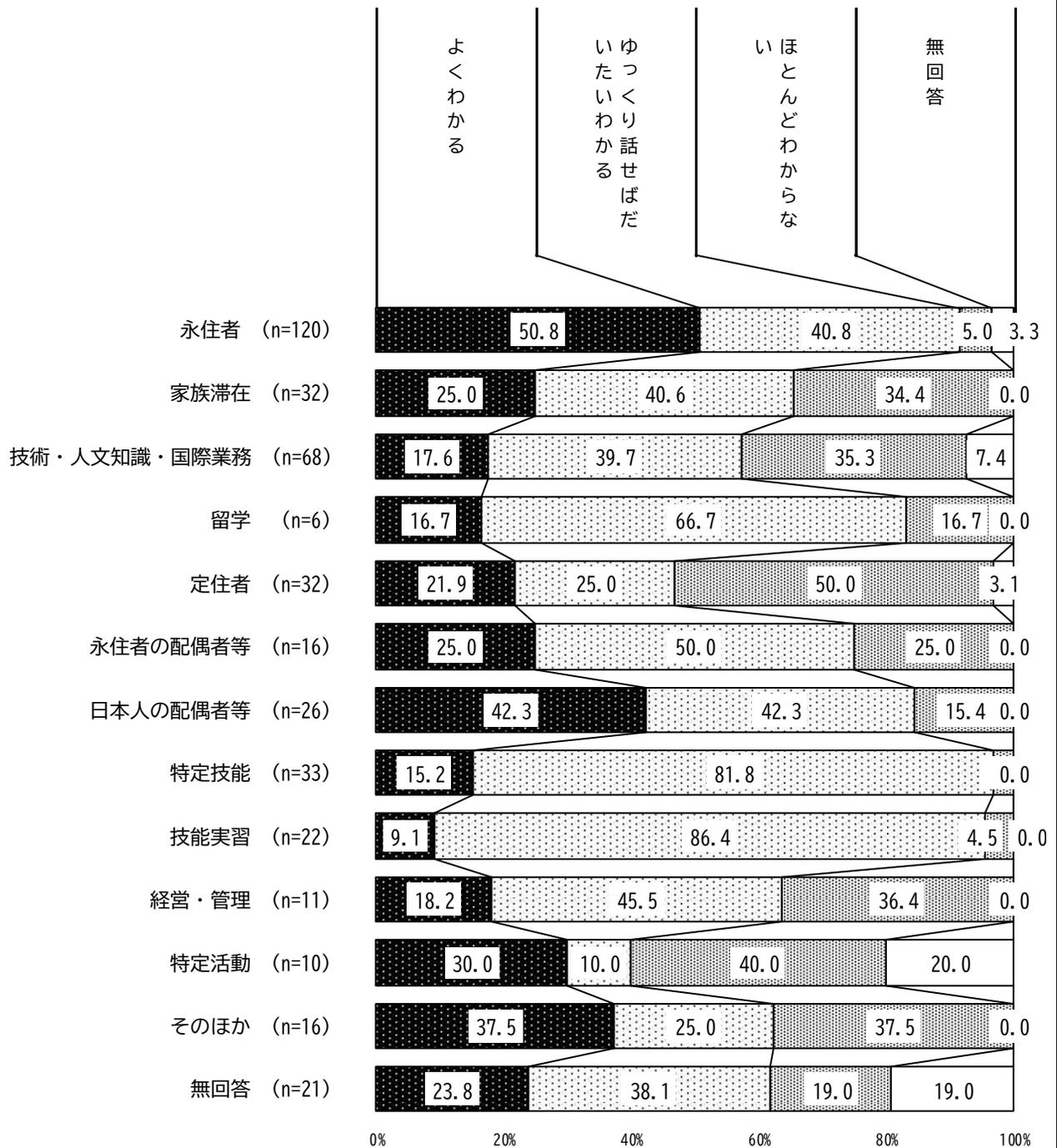
<図表 18 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、東アジア出身、南アメリカ出身、ヨーロッパ出身では「よくわかる」が、東南アジア出身、その他の国籍地域では「じっくり話せばだいたいわかる」が、南アジア出身、アフリカ出身では「ほとんどわからない」最も高くなっています。

<図表 18 - 3> 在留資格別



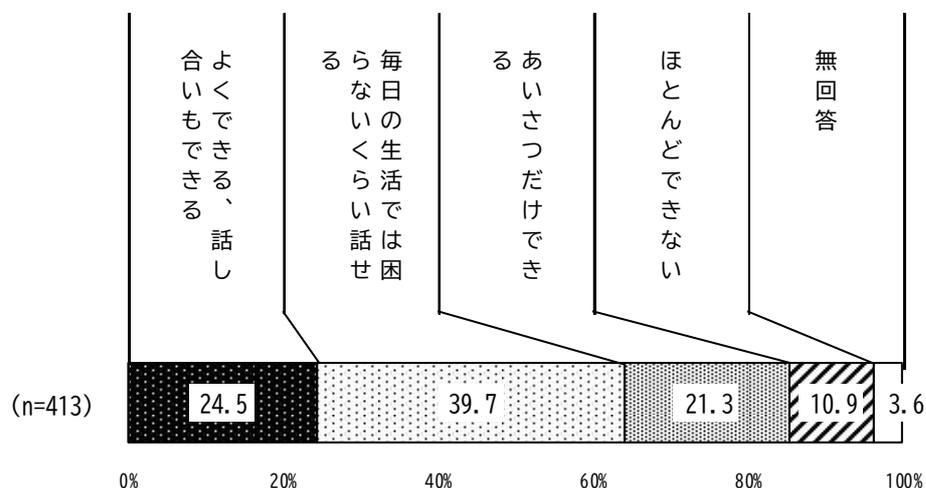
<調査結果>

在留資格別に見ると、永住者では「よくわかる」が、定住者と特定活動では「ほとんどわからない」が、それ以外の在留資格では「じっくり話せばだいたいわかる」が最も高くなっています。

(19) 日本語の会話能力

Q19. あなたは、日本語がどれくらい話せますか

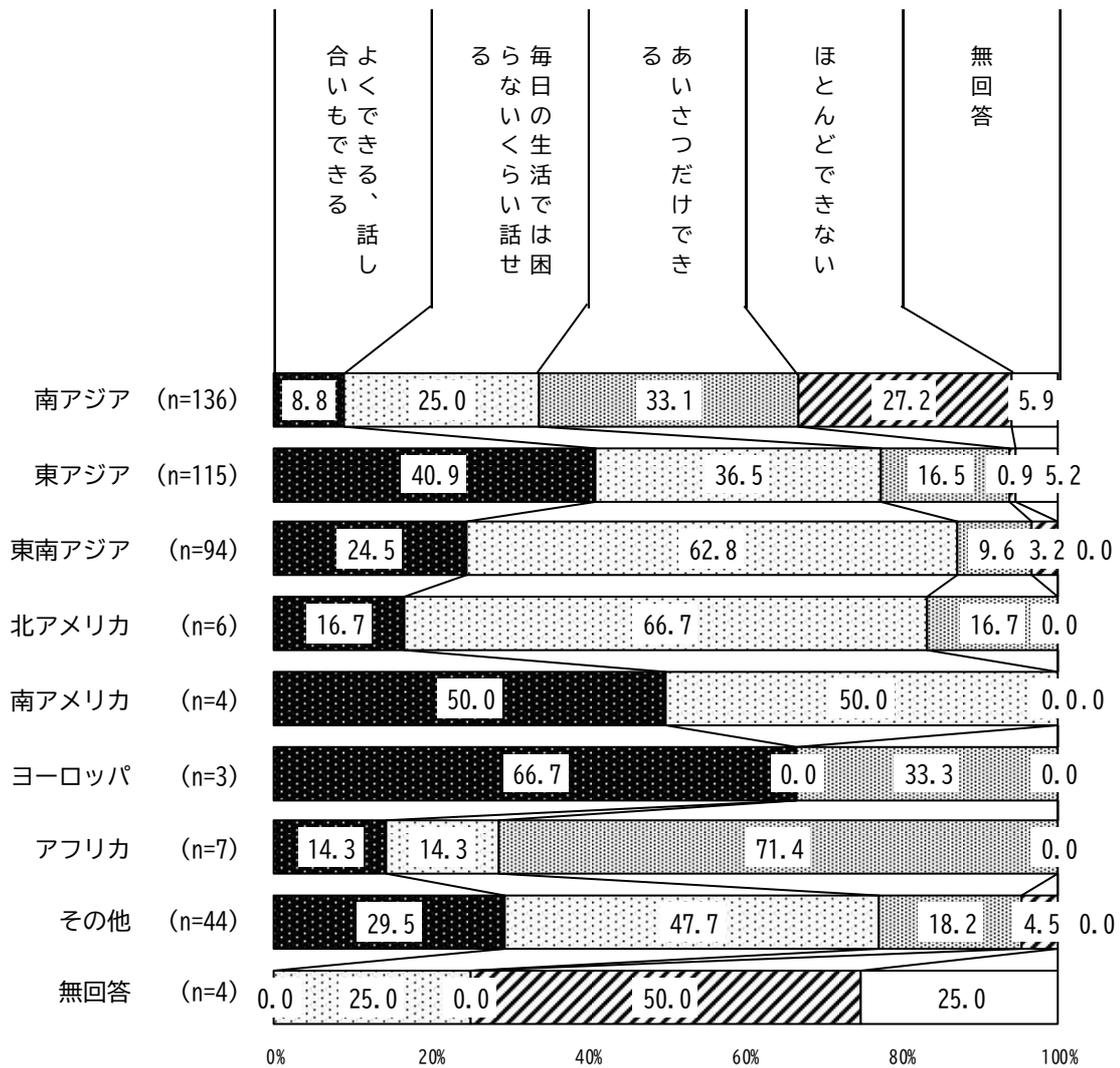
<図表 19-1>



<調査結果>

日本語がどのくらい話せるか聞いたところ、「毎日の生活では困らないくらい話せる」(39.7%)が約4割で最も高くなっています。次いで「よくできる、話し合いもできる」(24.5%)、「あいさつだけできる」(21.3%)となっています。

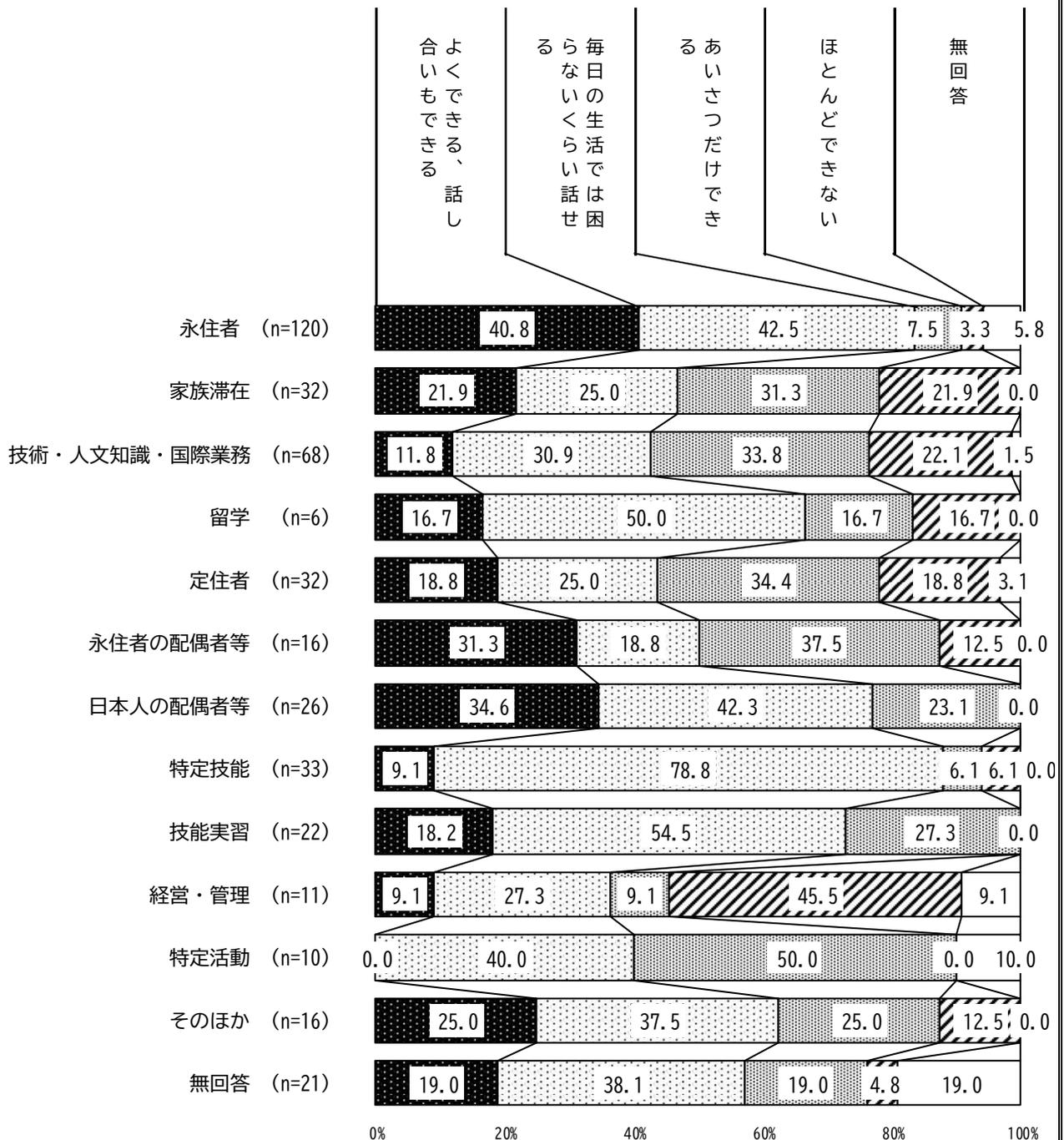
<図表 19 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、東アジア出身、ヨーロッパ出身では「よくできる、話し合いもできる」が、東南アジア出身、北アメリカ出身、その他の国籍地域出身では「毎日の生活では困らないくらい話せる」が、南アジア出身、アフリカ出身では「あいさつだけできる」が最も高くなっています。

<図表 19 - 3> 在留資格別



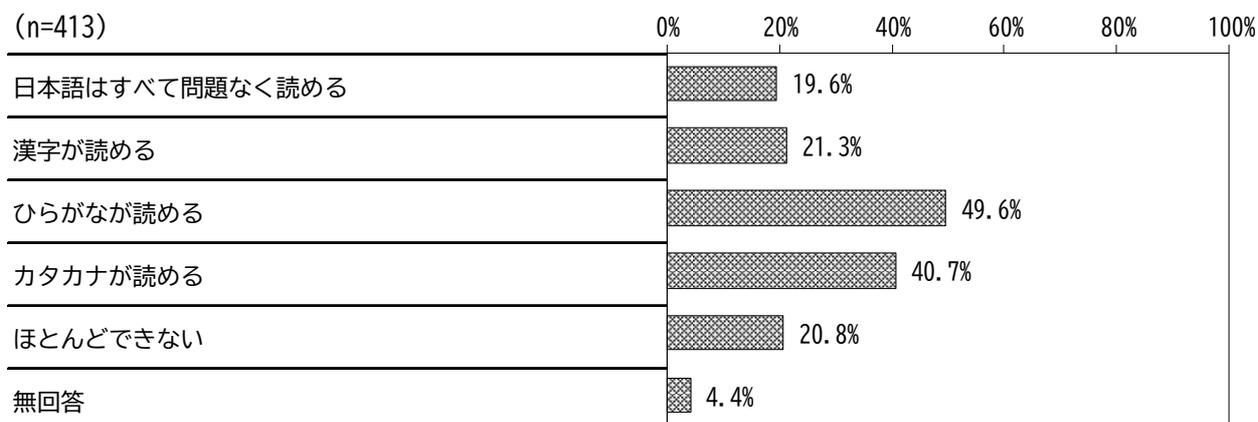
<調査結果>

在留資格別に見ると、永住者、留学、日本人の配偶者等、特定技能、技能実習、そのほかの在留資格では「毎日の生活では困らないくらい話せる」が、家族滞在、技術・人文知識・国際業務、定住者、永住者の配偶者等、特定活動では「あいさつだけできる」が、経営・管理では「ほとんどできない」がそれぞれ最も高くなっています。

(20) 日本語をどれくらい読めるか

Q20. あなたは、日本語がどれくらい読めますか(○はいくつでも)

<図表 20>



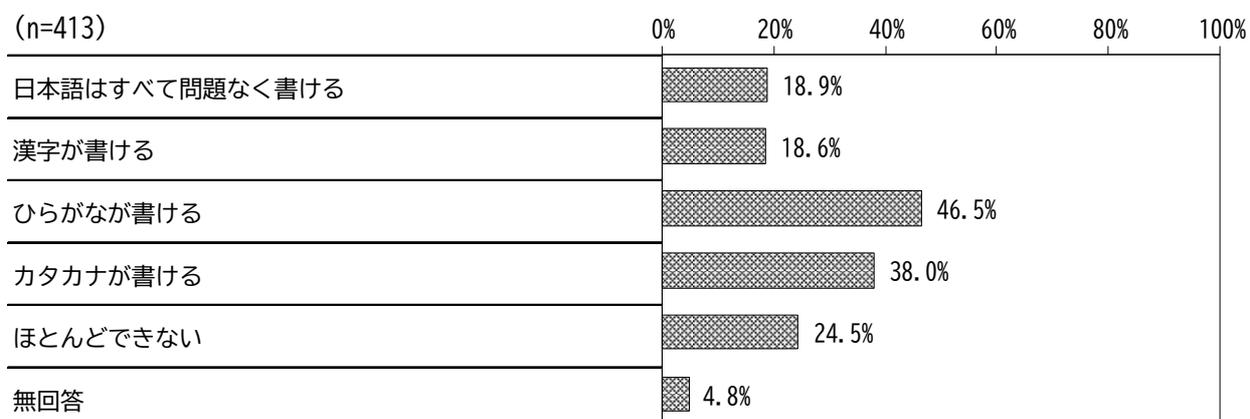
<調査結果>

日本語がどれくらい読めるか聞いたところ、「ひらがなが読める」(49.6%)が約5割と最も高くなっています。次いで、「カタカナが読める」(40.7%)、「漢字が読める」(21.3%)となっています。

(21) 日本語をどれくらい書けるか

Q21. あなたは、日本語がどれくらい書けますか(○はいくつでも)

<図表 21>



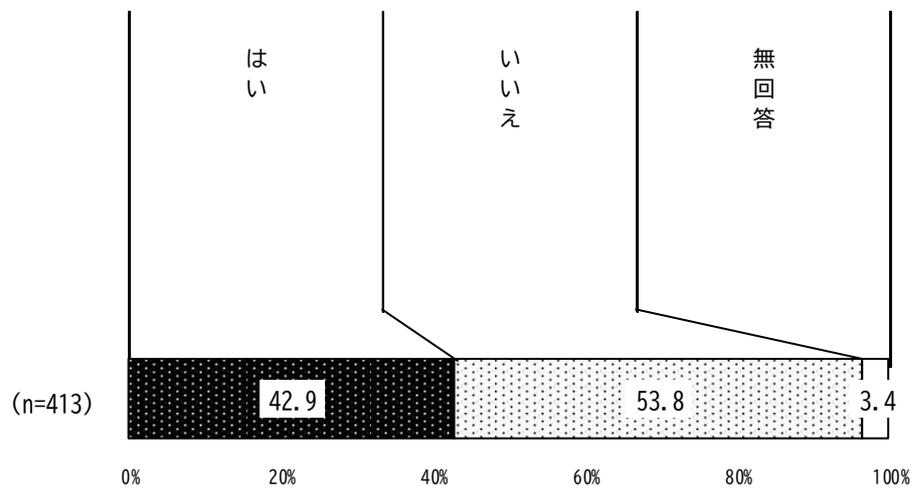
<調査結果>

日本語がどれくらい書けるか聞いたところ、「ひらがなが書ける」(46.5%)が4割半ばを超え最も高くなっています。次いで、「カタカナが書ける」(38.0%)、「ほとんどできない」(24.5%)となっています。

(22) 日本語を勉強しているか

Q22. 今、日本語を勉強していますか

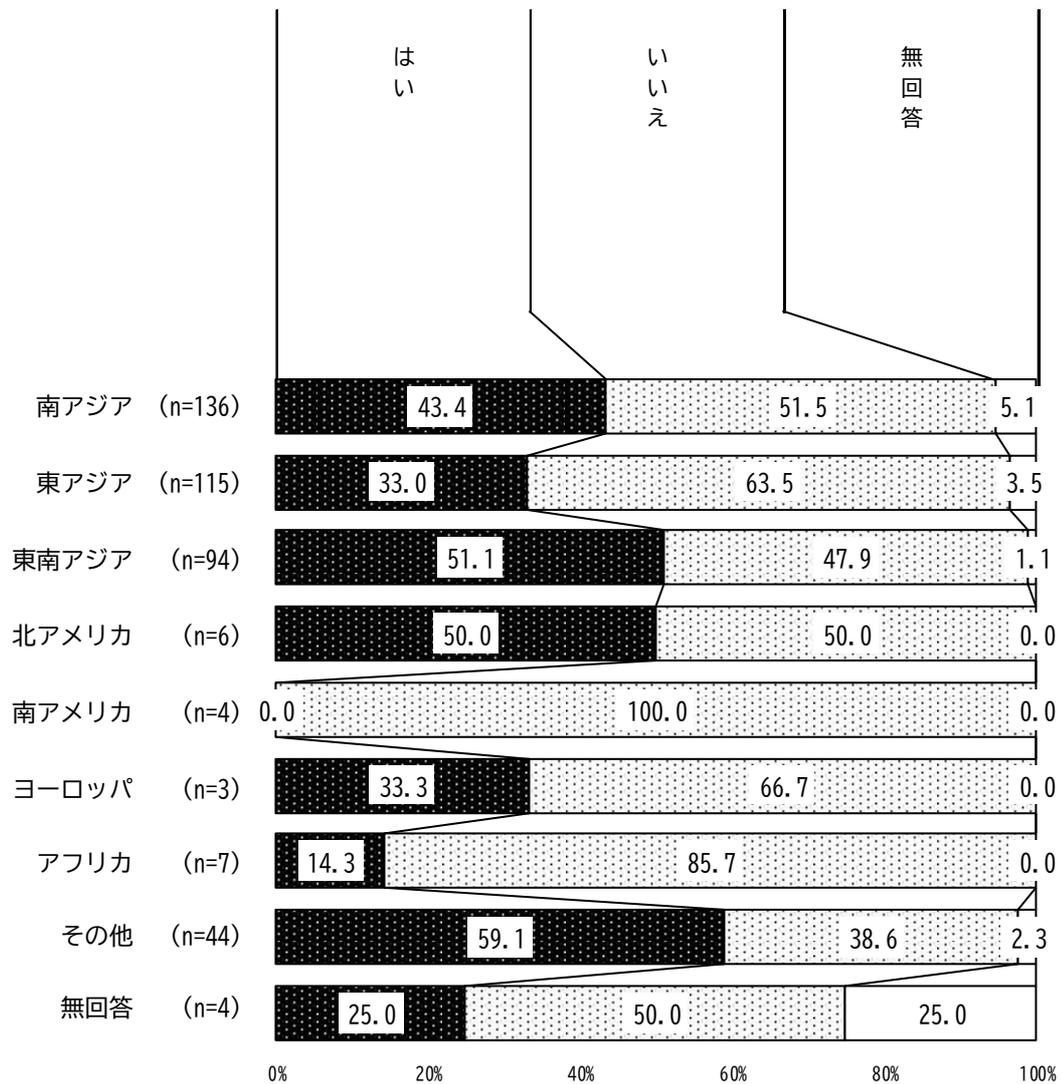
<図表 22-1>



<調査結果>

今、日本語を勉強しているか聞いたところ、「いいえ」(53.8%)が5割を超え最も高くなっています。

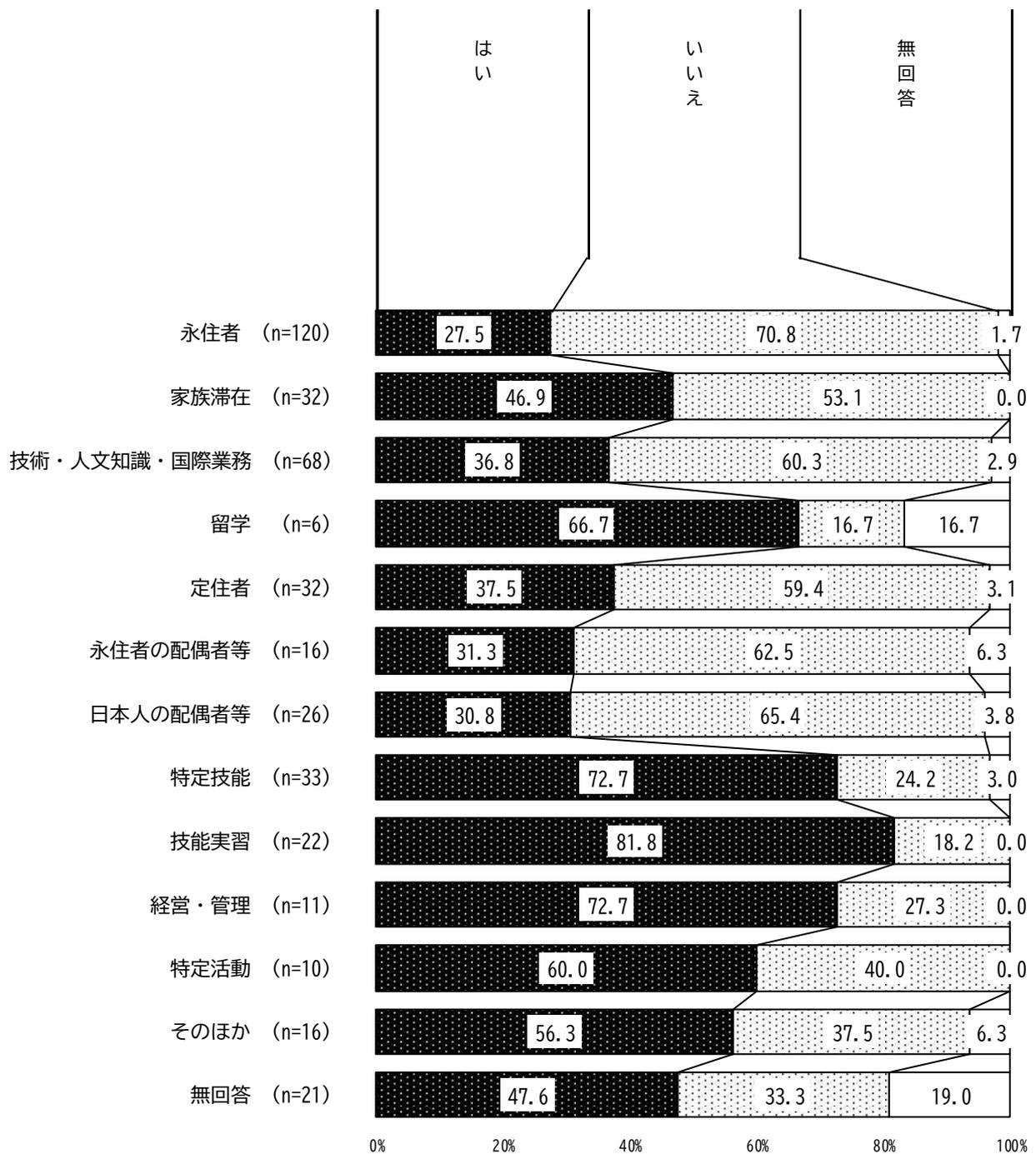
<図表 22 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、東南アジア出身とその他の国籍地域出身では「はい」が最も高くなっており、それ以外の地域では「いいえ」が最も高くなっています。

<図表 22 - 3> 在留資格別



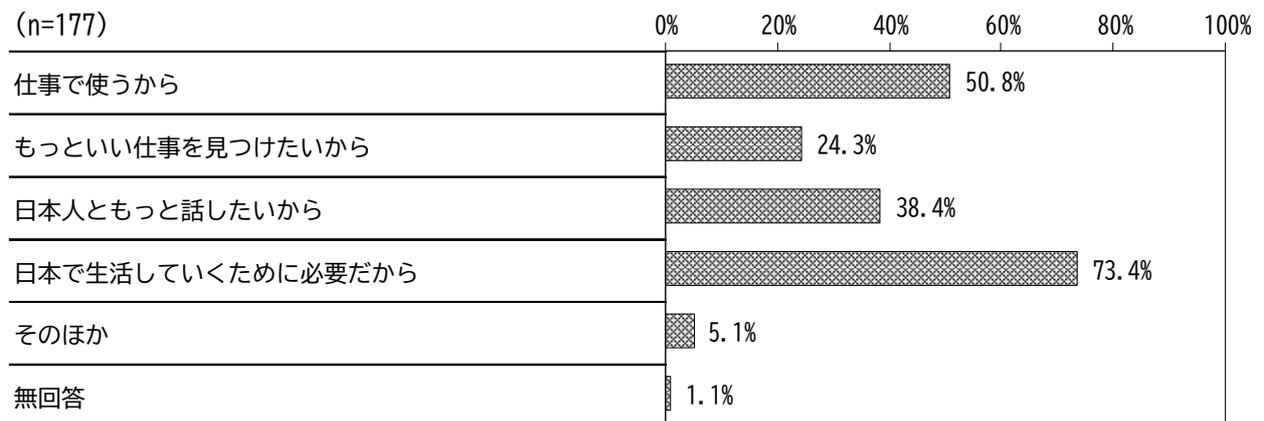
<調査結果>

在留資格別に見ると、留学、特定技能、技能実習、経営・管理、特定活動、そのほかの在留資格では「はい」が、それ以外の在留資格では「いいえ」が最も高くなっています。

(23) 日本語を勉強している理由

Q23. Q22 で「はい」と答えた方:なぜ日本語を勉強していますか(○はいくつでも)

<図表 23>



<調査結果>

Q22 で「はい」と答えた方になぜ日本語を勉強しているか聞いたところ、「日本で生活していくために必要だから」(73.4%)が7割を超え最も高くなっています。次いで、「仕事で使うから」(50.8%)、「日本人ともっと話したいから」(38.4%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

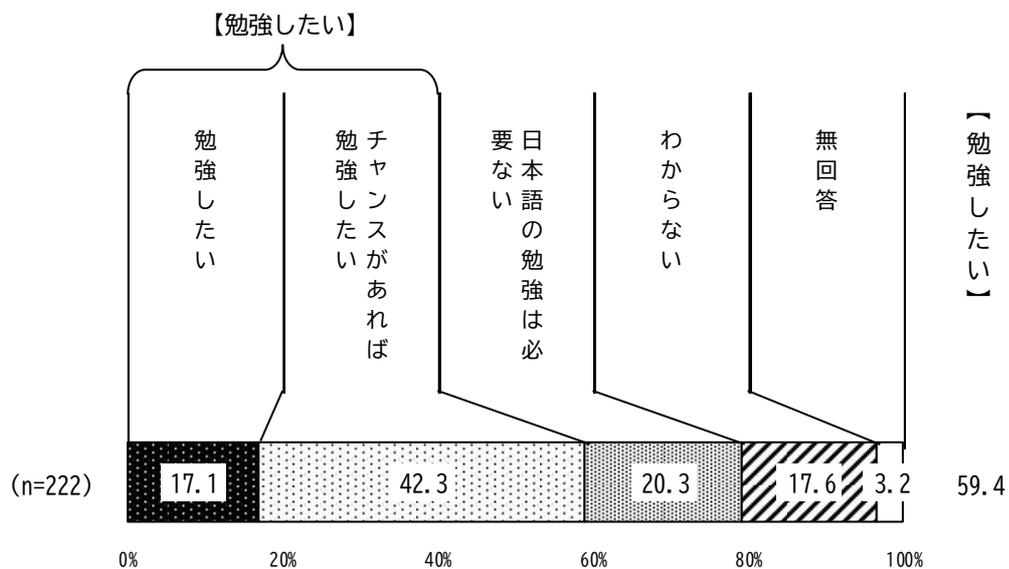
- ・ 高校生だからです。
- ・ 勉強するのが大好き
- ・ 資格を取りたいから
- ・ こどものために (学校の連絡)
- ・ 日本文化をもっと詳しく知り日本人の心の奥にあるものを経験したい。

など

(24) 日本語を勉強したいか

Q24. Q23で「いいえ」と答えた方:これから、日本語を勉強したいですか

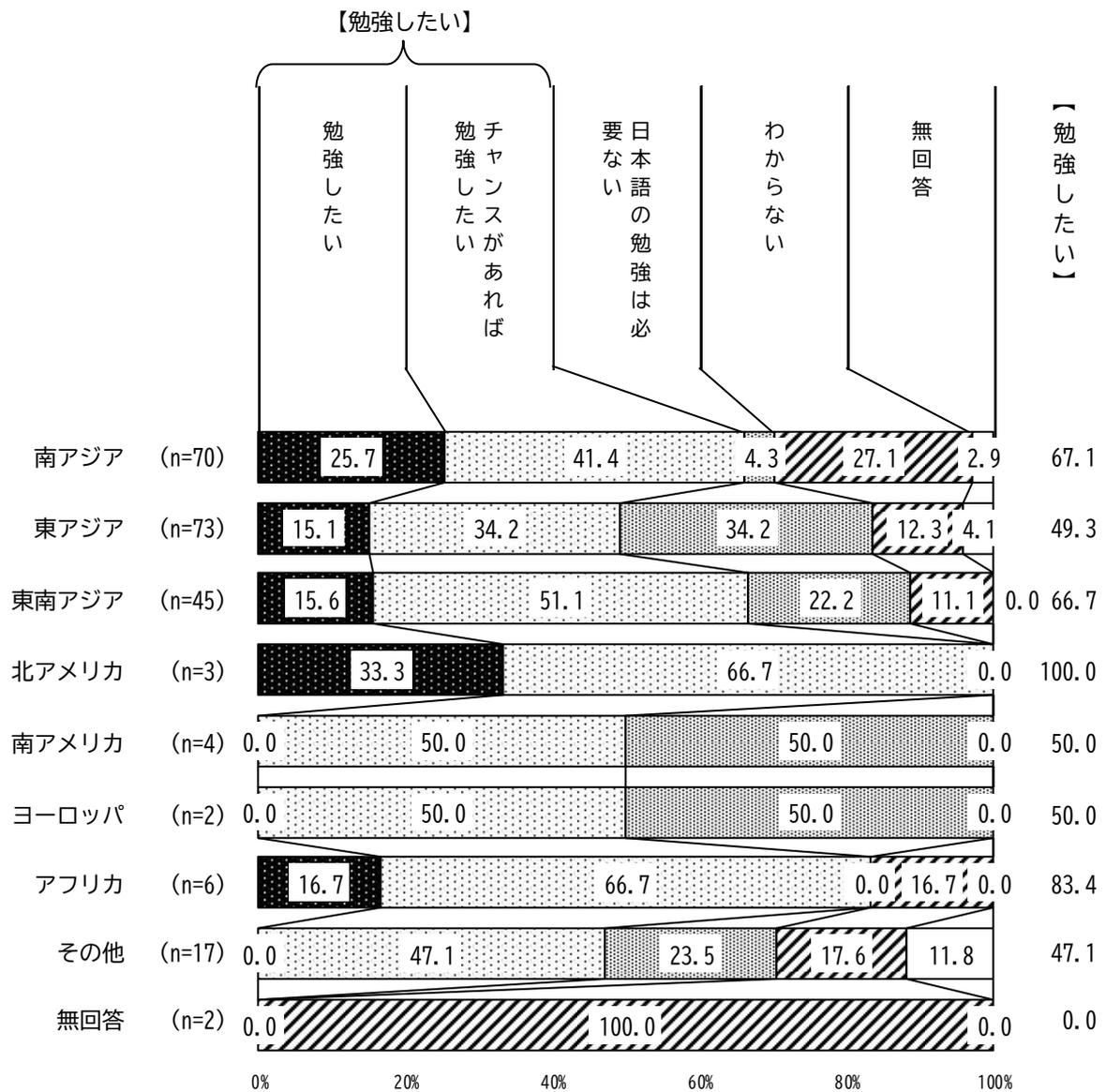
<図表 24-1>



<調査結果>

これから日本語を勉強したいか聞いたところ、「チャンスがあれば勉強したい」(42.2%)が4割を超え最も高くなっています。【勉強したい】割合は約6割となっています。

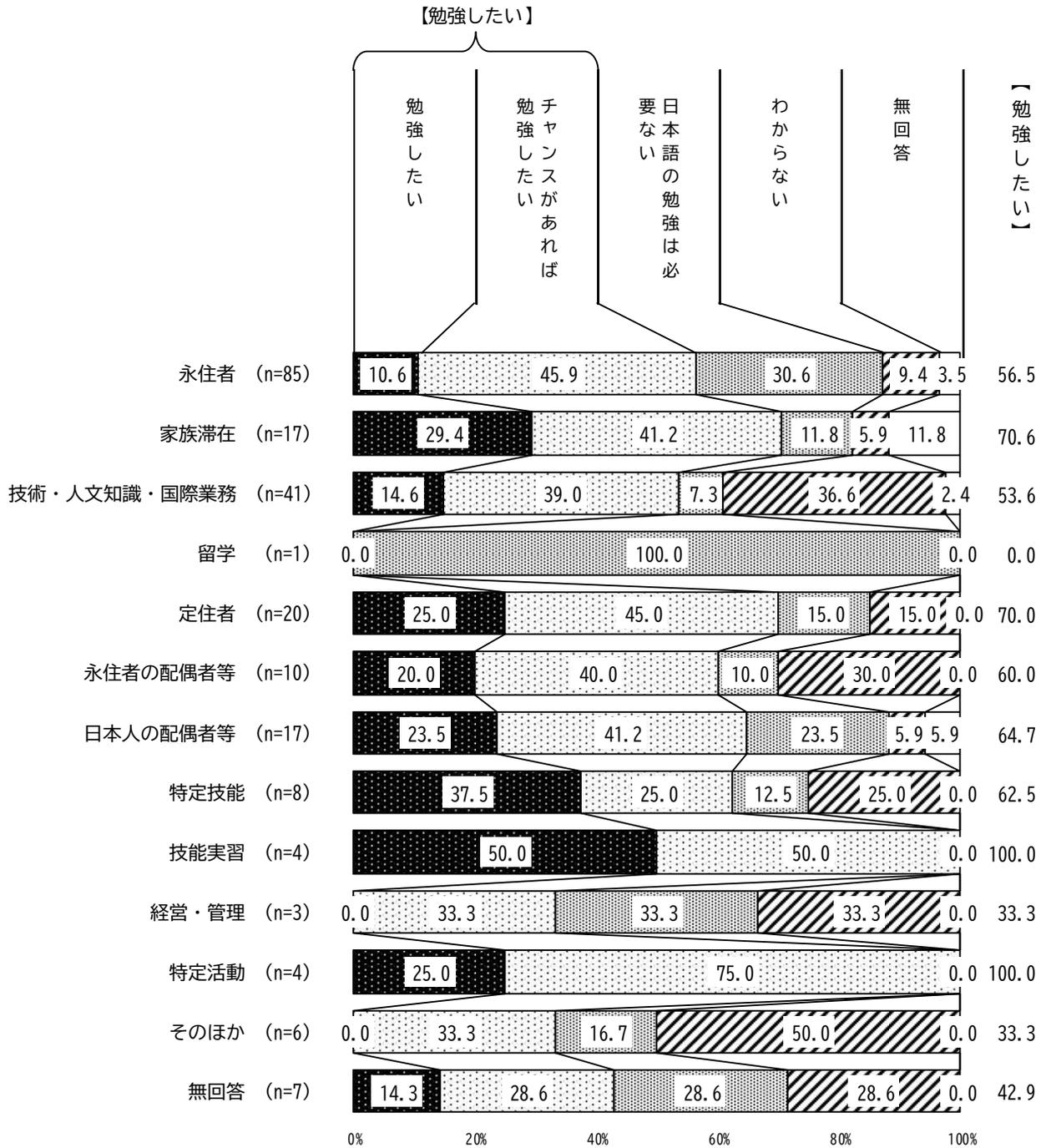
<図表 24 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、東アジア出身とその他の国籍地域出身では【勉強したい】割合は5割を下回っていますが、それ以外の国籍地域では【勉強したい】割合は5割を超えています。

<図表 24 - 3> 在留資格別



<調査結果>

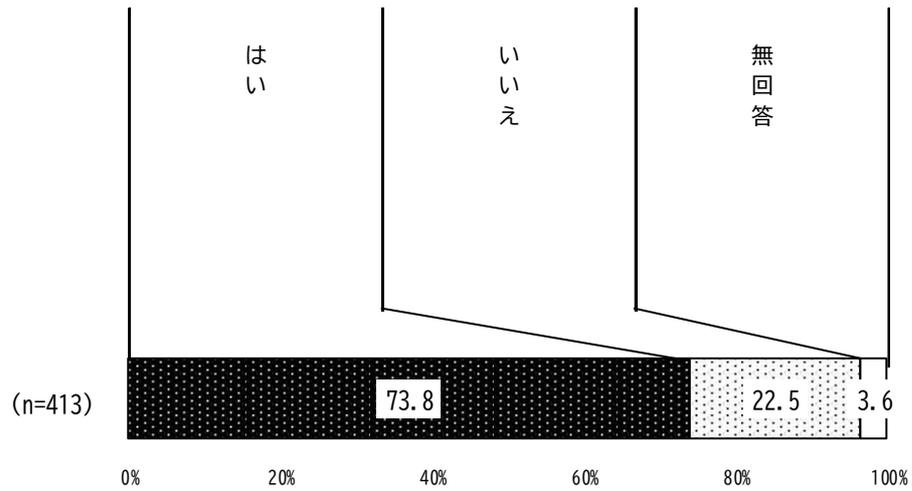
在留資格別に見ると、留学、経営・管理、そのほかの在留資格では【勉強したい】割合は5割を下回っていますが、それ以外の在留資格では【勉強したい】割合は5割を超えています。

4 あなたの仕事について

(25) 就労状況

Q25. あなたは、今は仕事をしていますか。

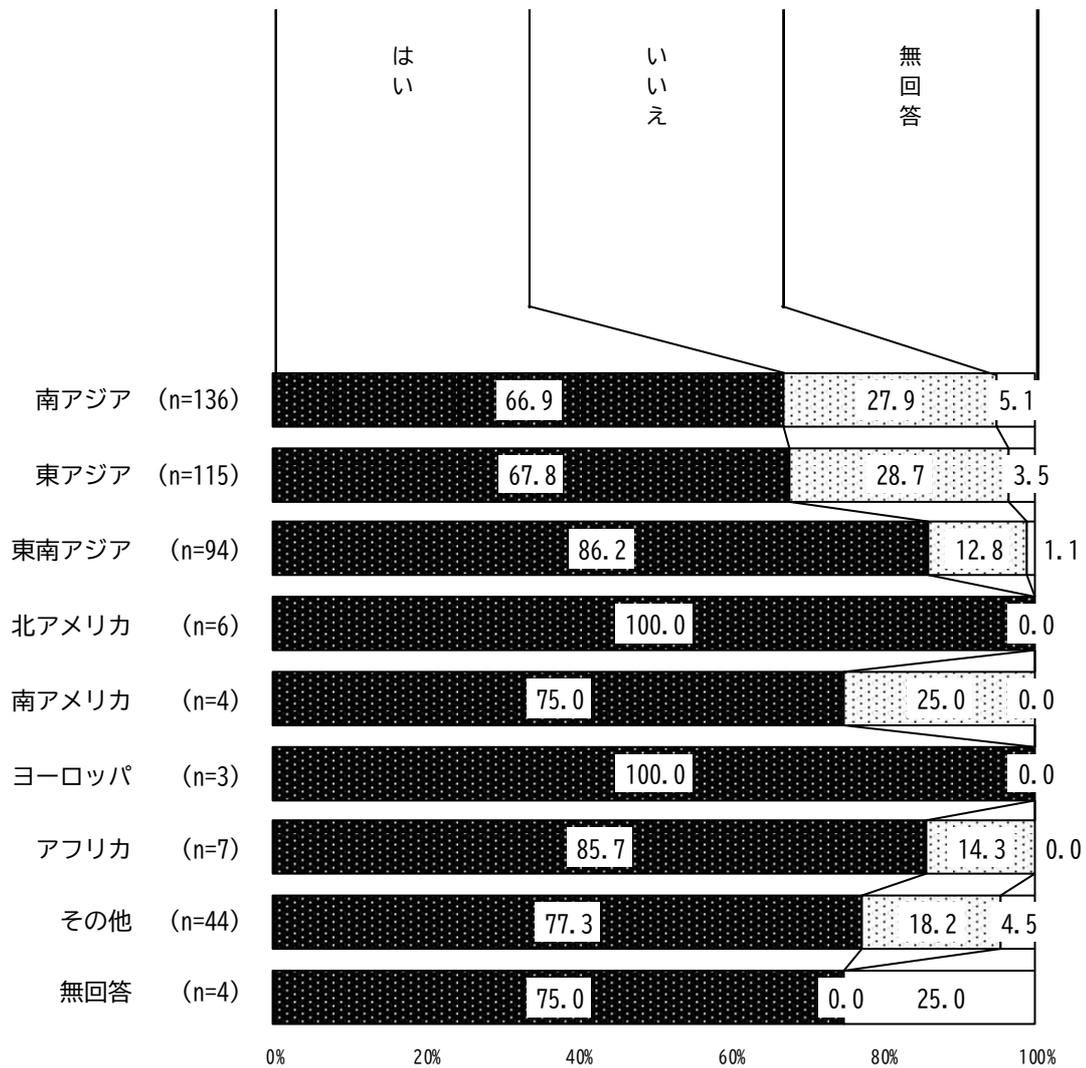
<図表 25-1>



<調査結果>

今は仕事をしているか聞いたところ、「はい」(73.8%)が7割を超え最も高くなっています。

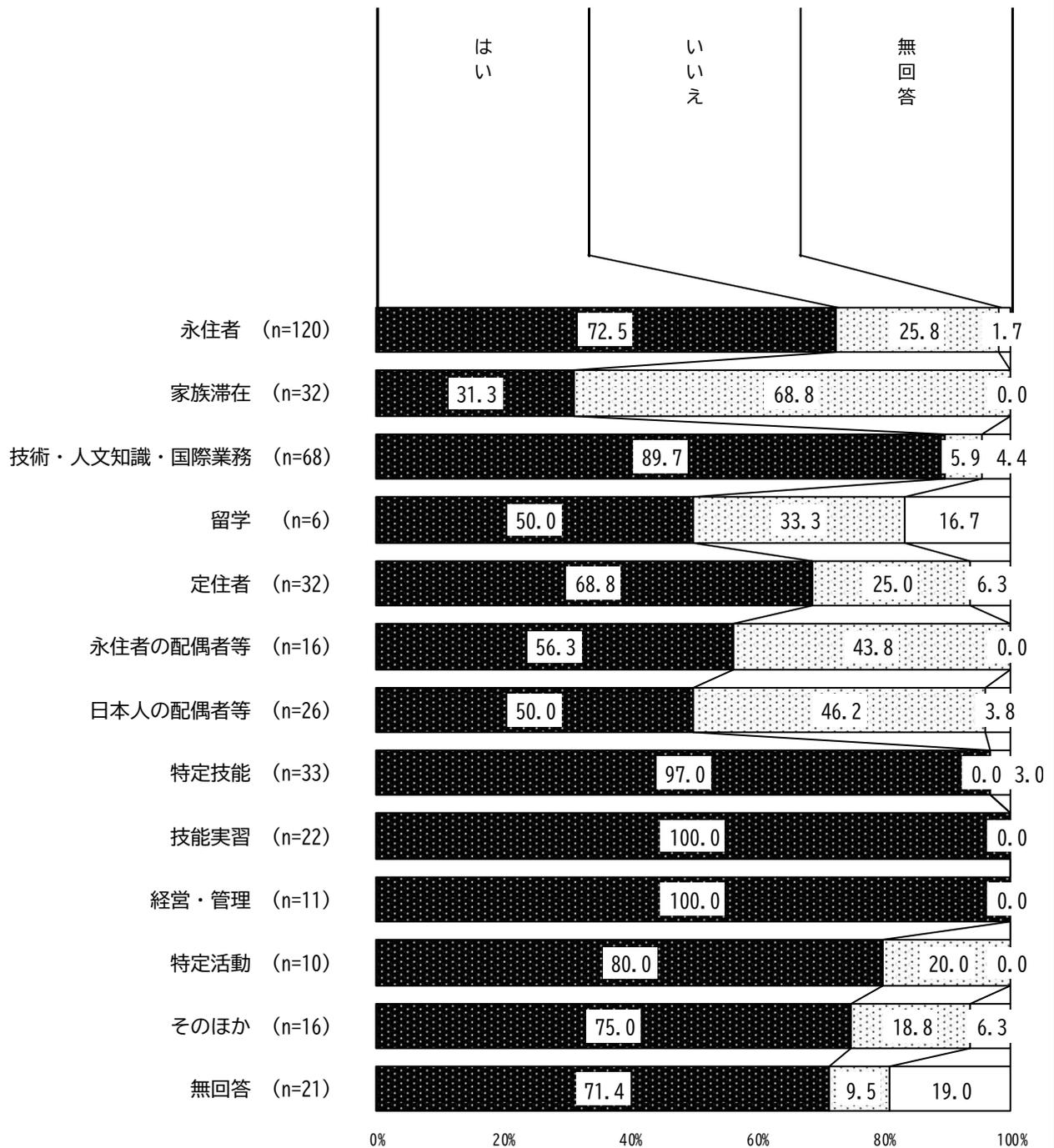
<図表 25 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、すべての国籍地域で「はい」が最も高くなっています。

<図表 25 - 3> 在留資格別



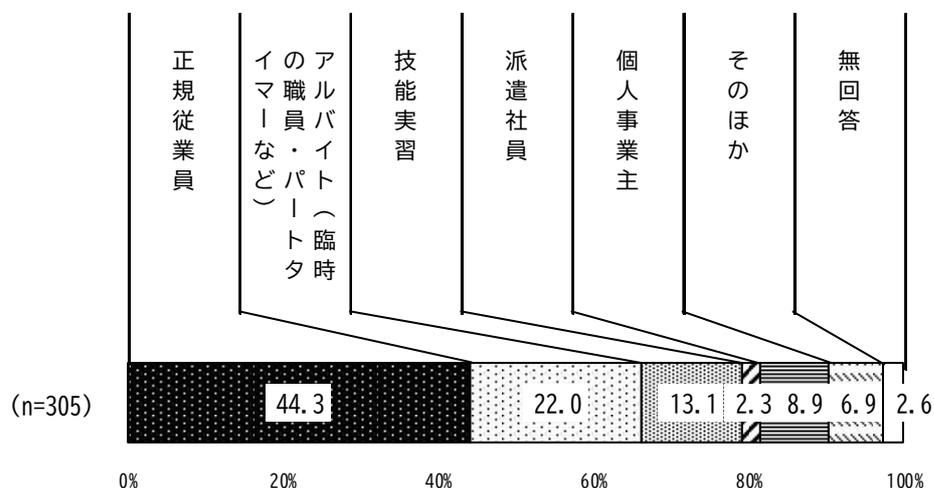
<調査結果>

在留資格別に見ると、家族滞在では「いいえ」が、それ以外の在留資格では「はい」が最も高くなっています。

(26) 雇用形態

Q26. Q25 で「はい」と答えた方:あなたは、どのような立場で仕事をしていますか。

<図表 26-1>



<調査結果>

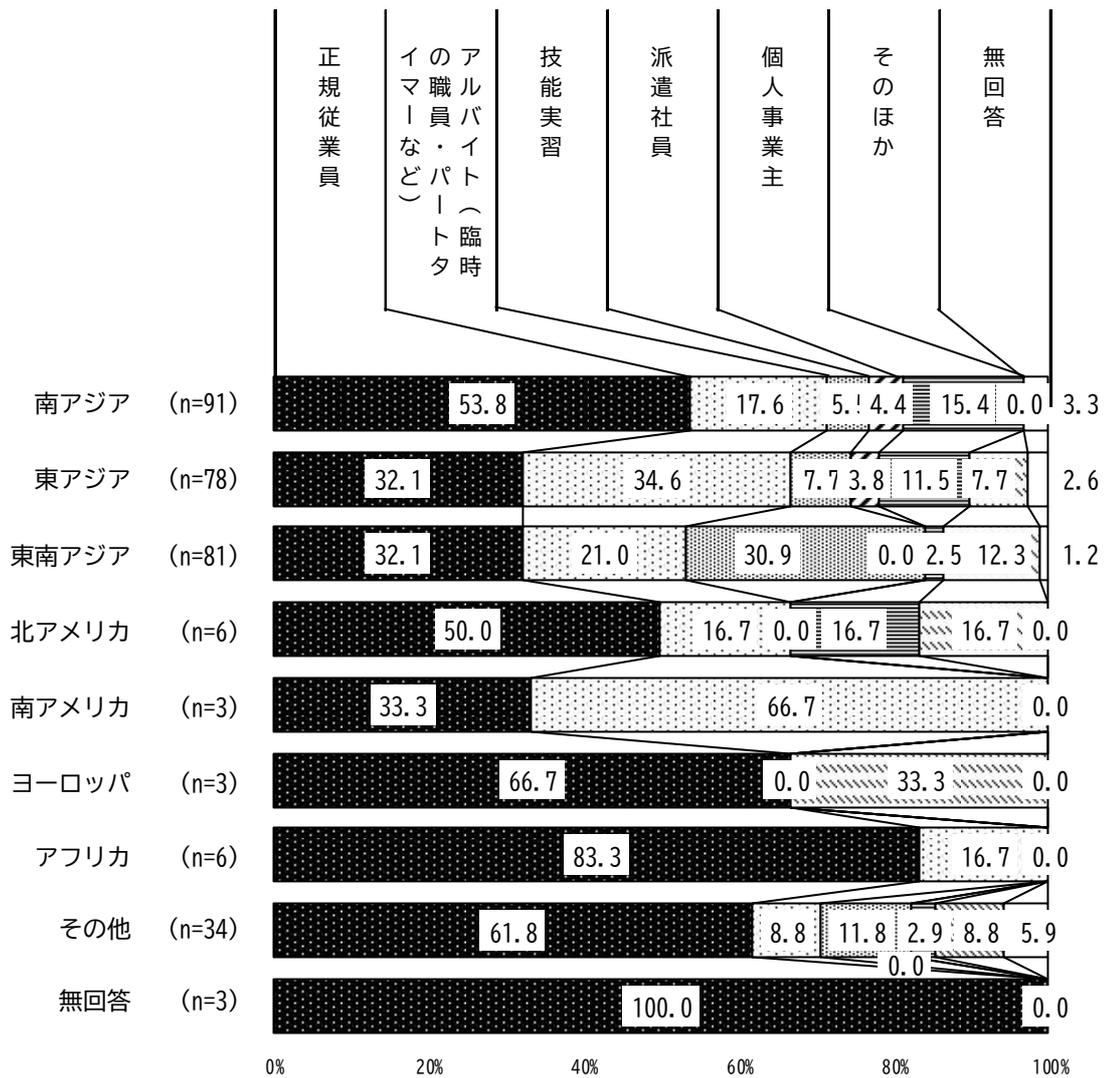
どのような立場で仕事をしているか聞いたところ、「正規従業員」(44.3%)が4割半ばで最も高くなっています。次いで「アルバイト(臨時の職員・パートタイマーなど)」(22.0%)、「技能実習」(13.1%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ 鳶職
- ・ 介護職
- ・ 会社役員
- ・ 特定技能1号

など

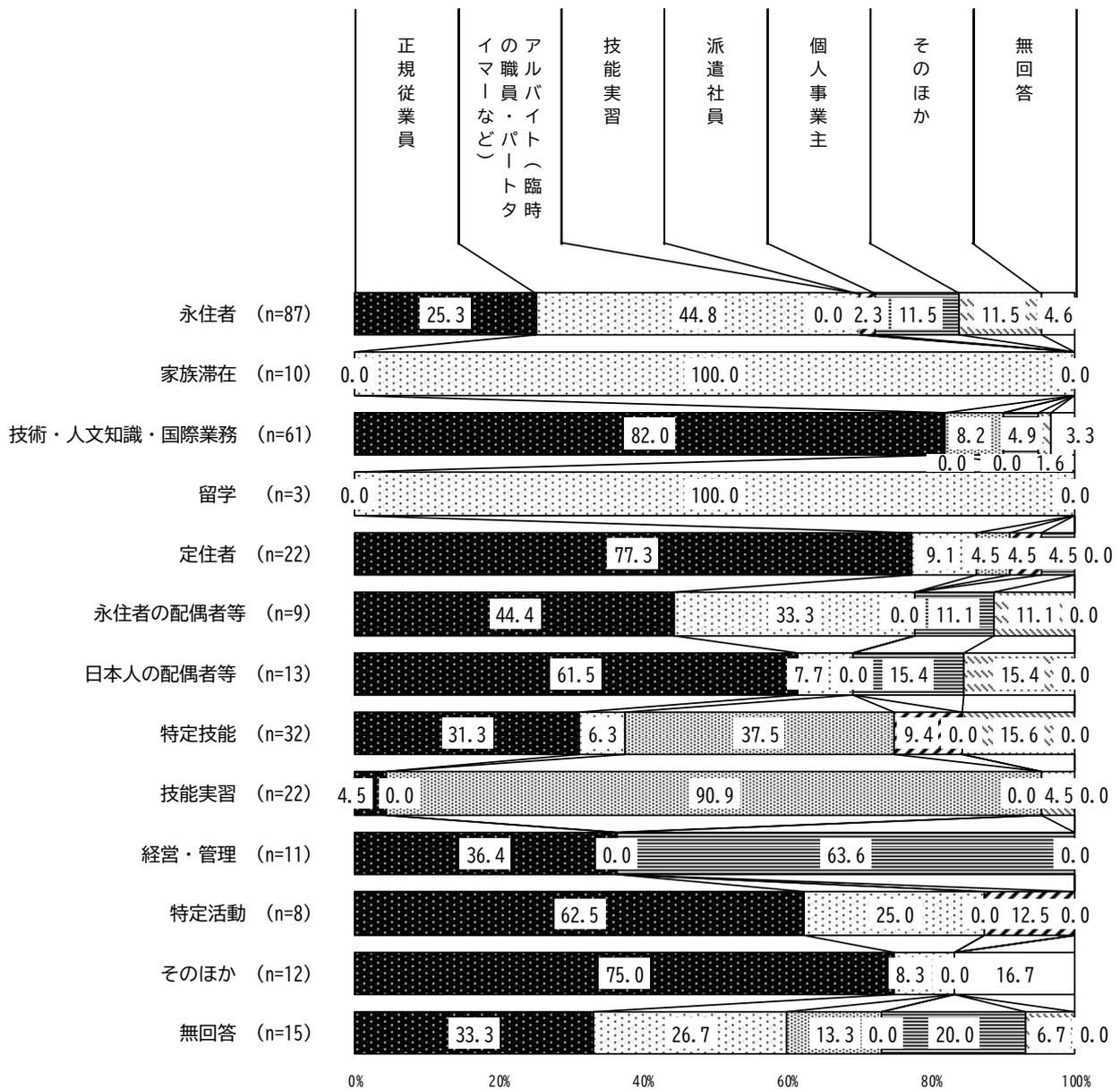
<図表 26 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、東アジア出身と南アメリカ出身では「アルバイト（臨時の職員・パートタイマーなど）」が最も高くなっており、それ以外の国籍地域出身では「正規従業員」が最も高くなっています。

<図表 26 - 3> 在留資格別



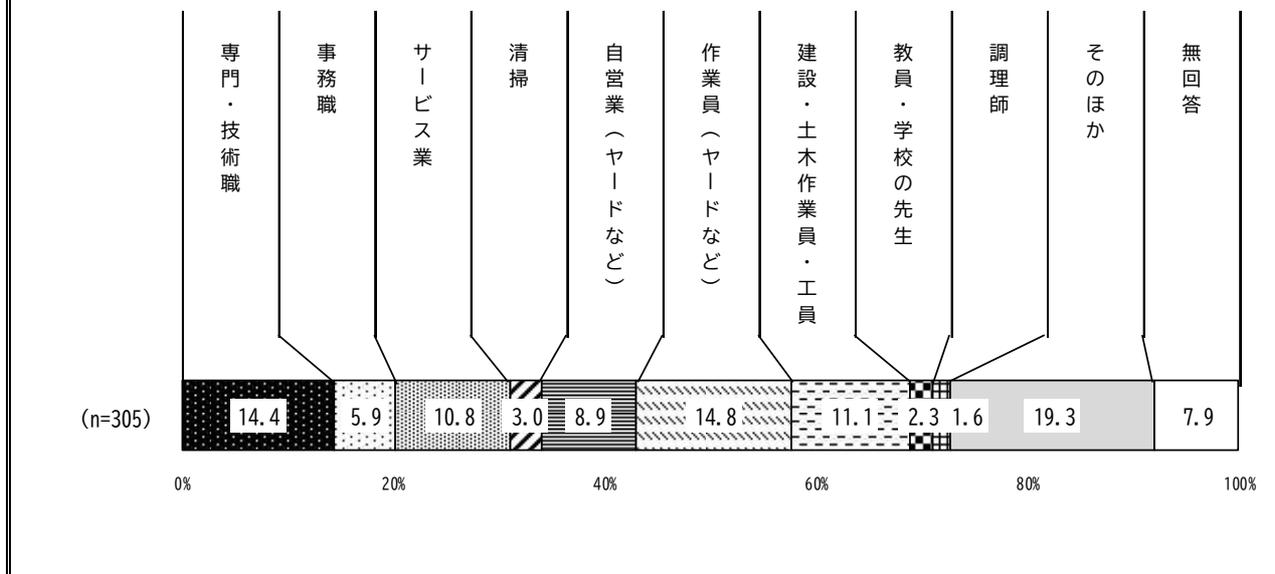
<調査結果>

在留資格別に見ると、技術・人文知識・国際業務、定住者、永住者の配偶者等、日本人の配偶者等、特定活動、そのほかの在留資格では「正規従業員」が、永住者、家族滞在、留学では「アルバイト」が、特定技能と技能実習では「技能実習」が、経営・管理では「個人事業主」が最も高くなっています。

(27) 仕事内容

Q27. Q25 で「はい」と答えた方:あなたの仕事はどれですか

<図表 27-1>



<調査結果>

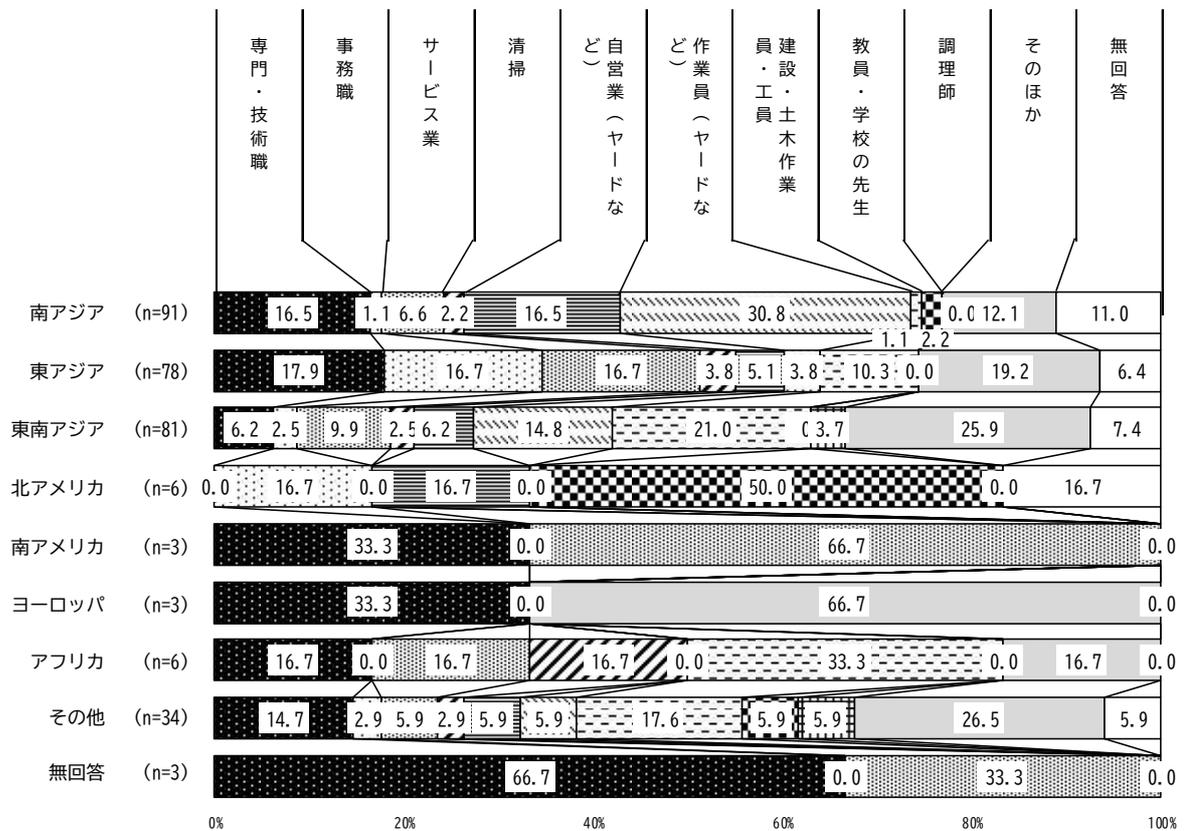
仕事の内容を聞いたところ、「そのほか」(19.3%)が約2割で最も高くなっています。次いで「作業員 (ヤードなど)」(14.8%)、「専門・技術職」(14.4%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ 成田空港でのセキュリティチェック
- ・ 運送業
- ・ 介護デイサービス
- ・ 語学指導員
- ・ 建設管理
- ・ 小説家・英語家庭教師 (個人・グループ) 和英翻訳家

など

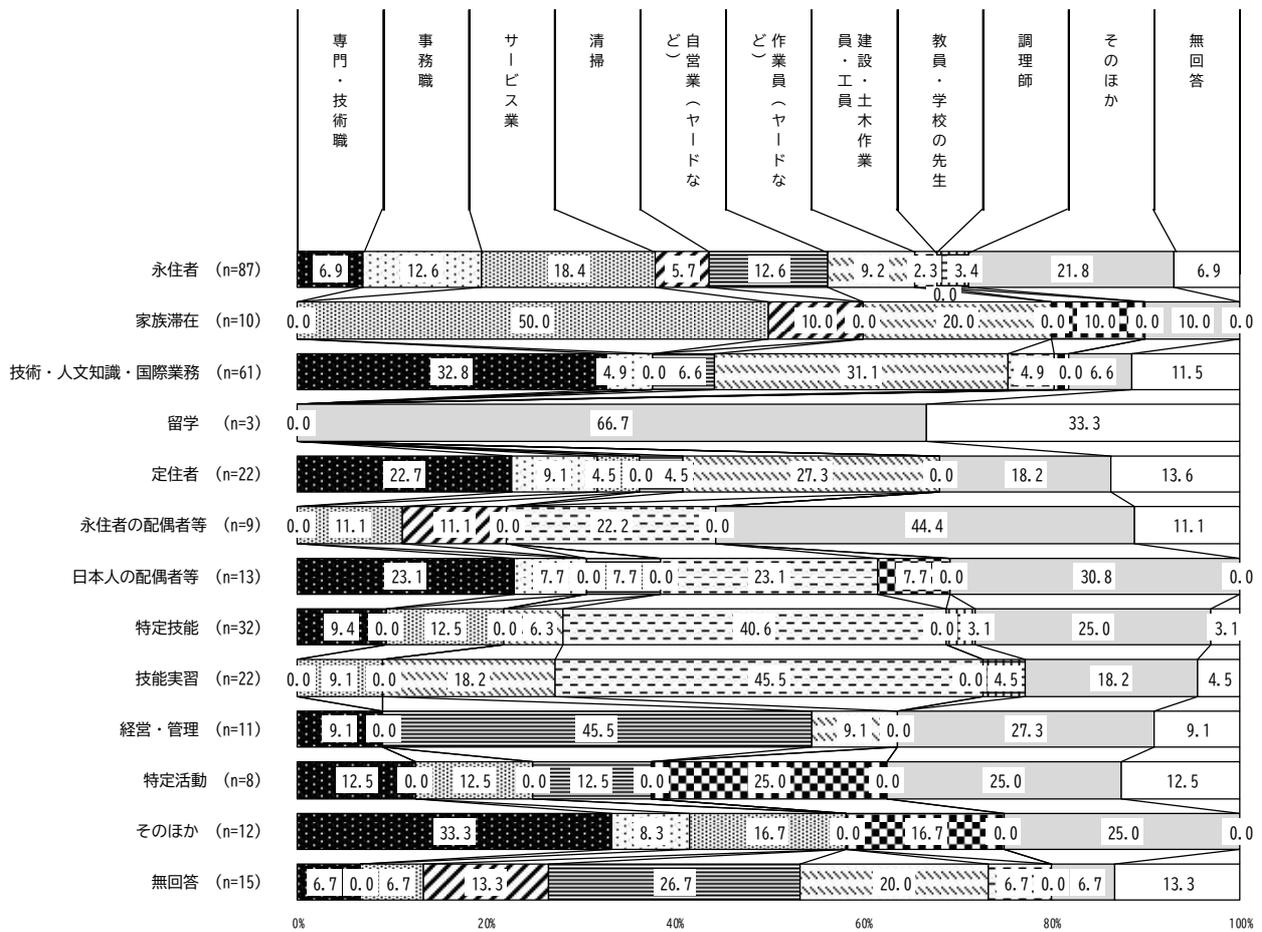
<図表 27 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、南アメリカ出身では「サービス業」が、南アジア出身では「作業員（ヤードなど）」が、アフリカ出身では「建設・土木作業員・工員」が、北アメリカ出身では「教員・学校の先生」が、それ以外の国籍地域出身では「その他」が最も高くなっています。

<図表 27 - 3> 在留資格別



<調査結果>

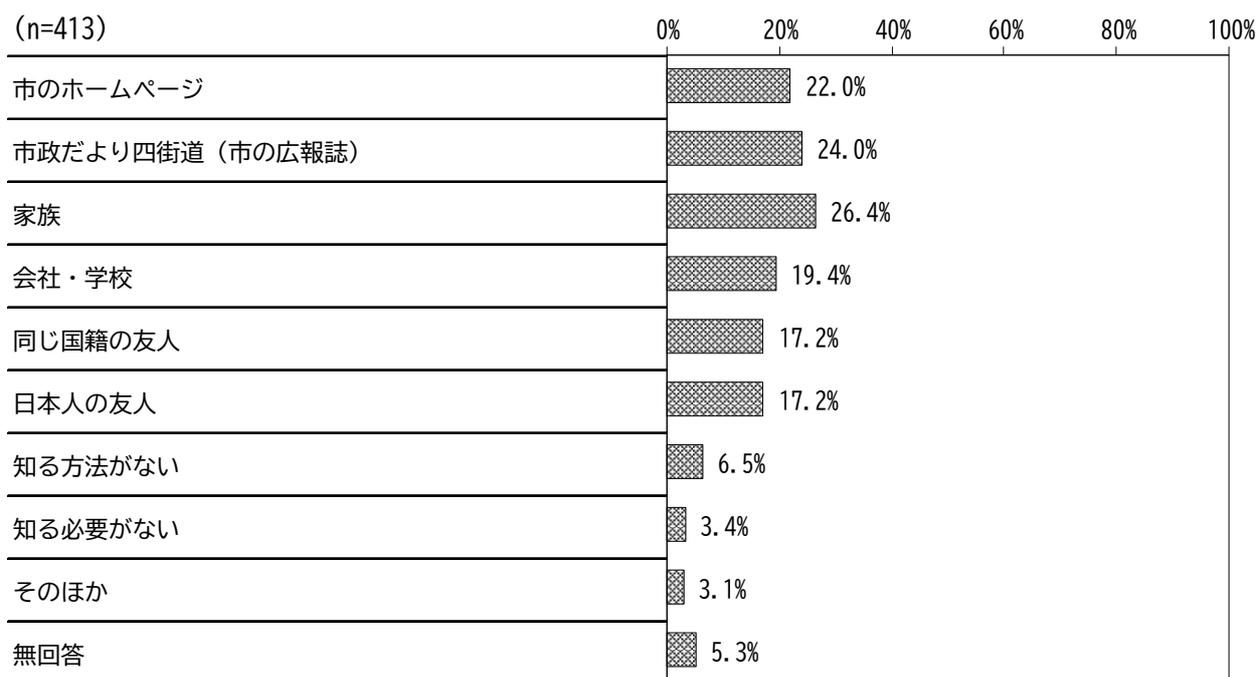
在留資格別に見ると、永住者、留学、永住者の配偶者等、日本人の配偶者等では「そのほか」が、家族滞在では「サービス業」が、技術・人文知識・国際業務、そのほかの在留資格では「専門・技術職」が、定住者では「作業員 (ヤードなど)」が、特定技能、技能実習では「建設・土木作業員・工員」が、経営・管理では「自営業 (ヤードなど)」が最も高くなっています。

5 情報、インフォメーションについて

(28) 四街道市の情報をどうやって知るか

Q28. あなたは、四街道市の情報をどうやって知りますか(○はいくつでも)

<図表 28>



<調査結果>

四街道市の情報をどうやって知るか聞いたところ、「家族」(26.4%)が2割半ばで最も高くなっています。次いで、「市政だより四街道(市の広報誌)」(24.0%)、「市のホームページ」(22.0%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

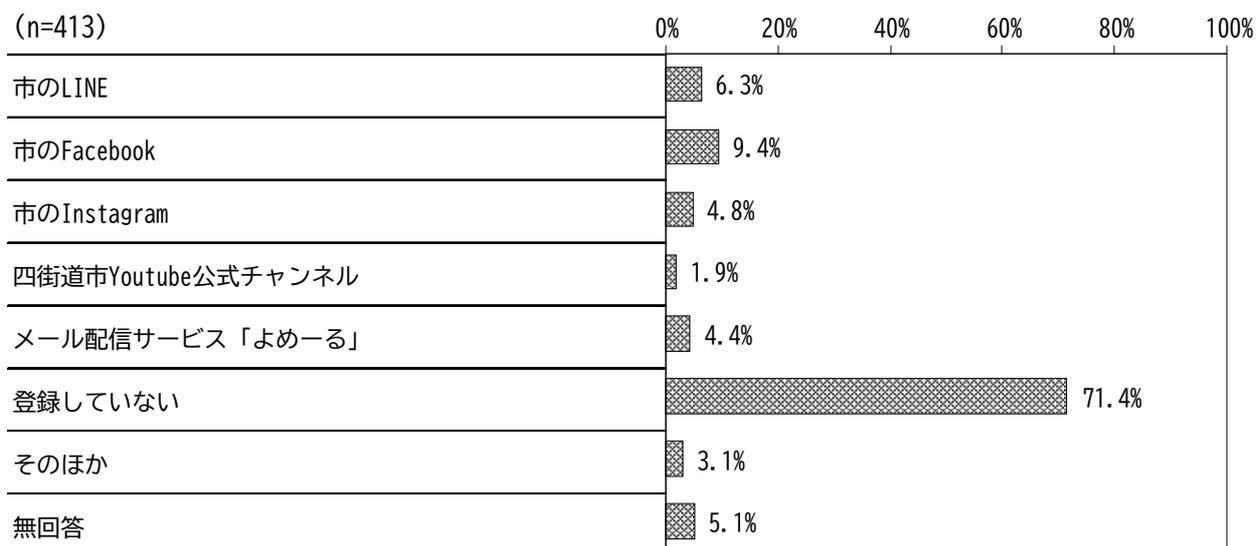
- ・インターネット
- ・ぜんぜんわからないです。
- ・市役所
- ・ケーブルテレビ局の放送

など

(29) 市の公式 SNS などへの登録状況

Q29. あなたは、どれに登録していますか(○はいくつでも)

<図表 29>



<調査結果>

市の公式 SNS などへの登録状況を聞いたところ、「登録していない」(71.4%)が7割を超え最も高くなっています。次いで、「市の Facebook」(9.4%)、「市の LINE」(6.3%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

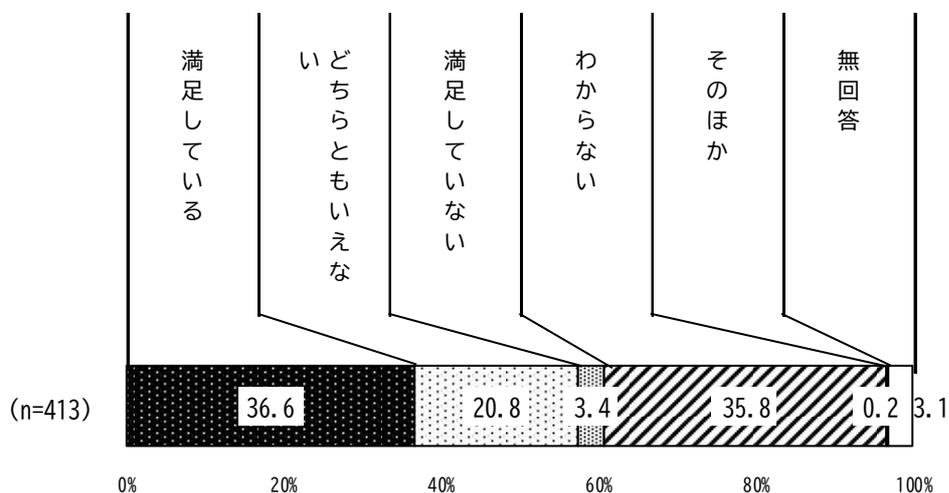
- ・ Google
- ・ このことについて何も知りません
- ・ Wechat
- ・ そうした市の SNS があることを全く知りません。

など

(30) 四街道市の情報の発信について

Q30. 四街道市の情報の発信についてどう思いますか

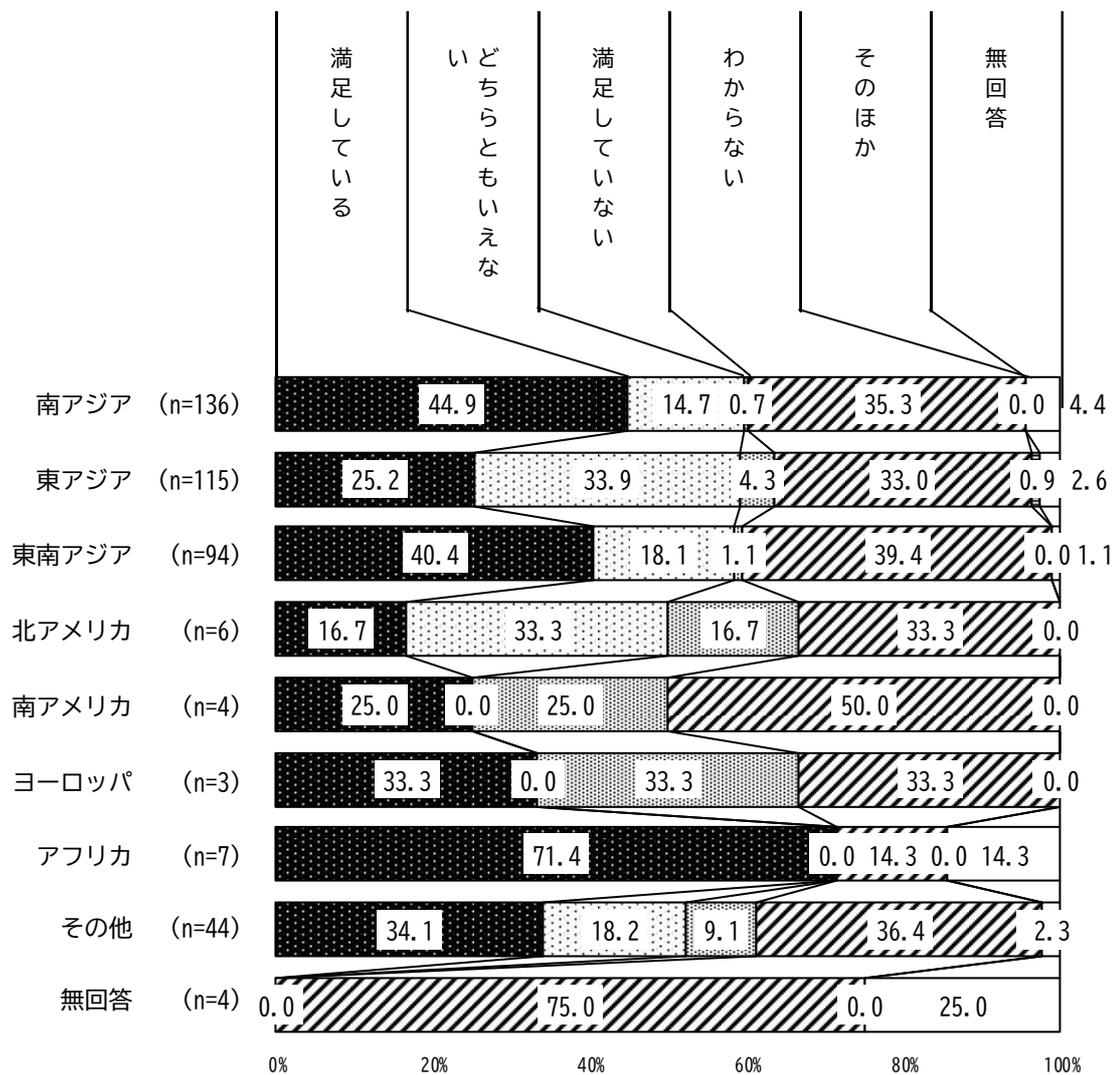
<図表 30-1>



<調査結果>

四街道市の情報の発信についてどう思うか聞いたところ、「満足している」(36.6%)が3割半ばを超え最も高くなっています。次いで「わからない」(35.8%)、「どちらともいえない」(20.8%)となっています。

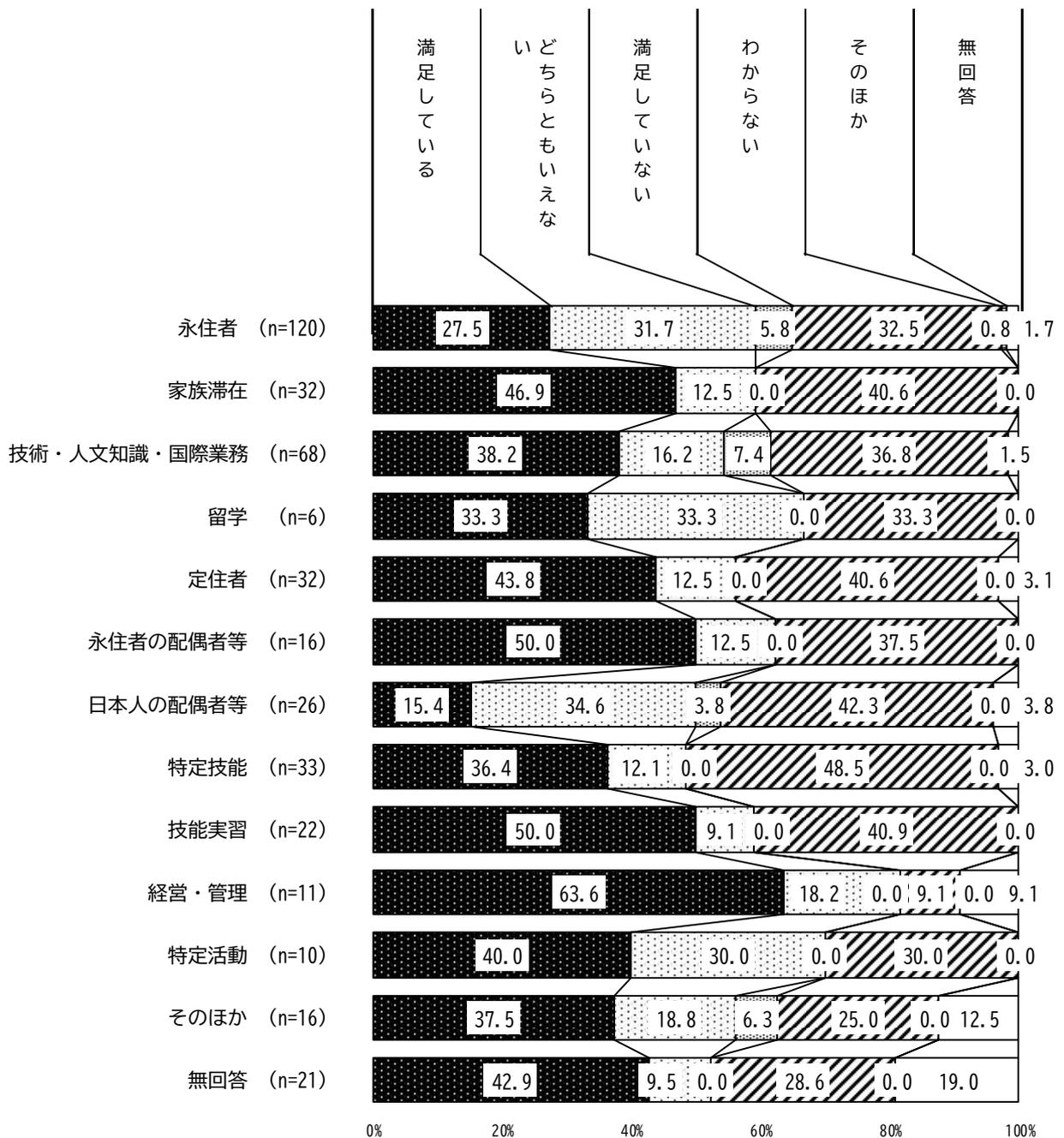
<図表 30 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、南アジア出身、東南アジア出身、アフリカ出身では「満足している」が、東アジア出身では「どちらともいえない」が、南アメリカ出身、その他の国籍地域出身では「わからない」が最も高くなっている。

<図表 30-3> 在留資格別



<調査結果>

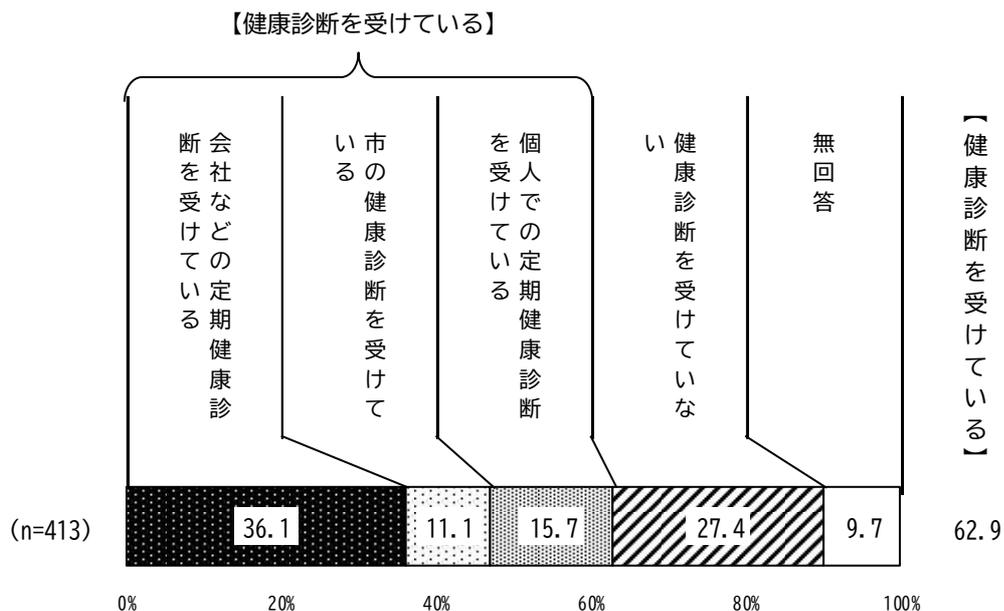
在留資格別に見ると、家族滞在、技術・人文知識・国際業務、定住者、永住者の配偶者等、技能実習、経営・管理、特定活動、そのほかの在留資格では「満足している」が最も高くなっている。

6 健康診断や病院でのことばについて

(31) 定期健康診断の受診状況

Q31. 1年に1回の定期健康診断を受けていますか

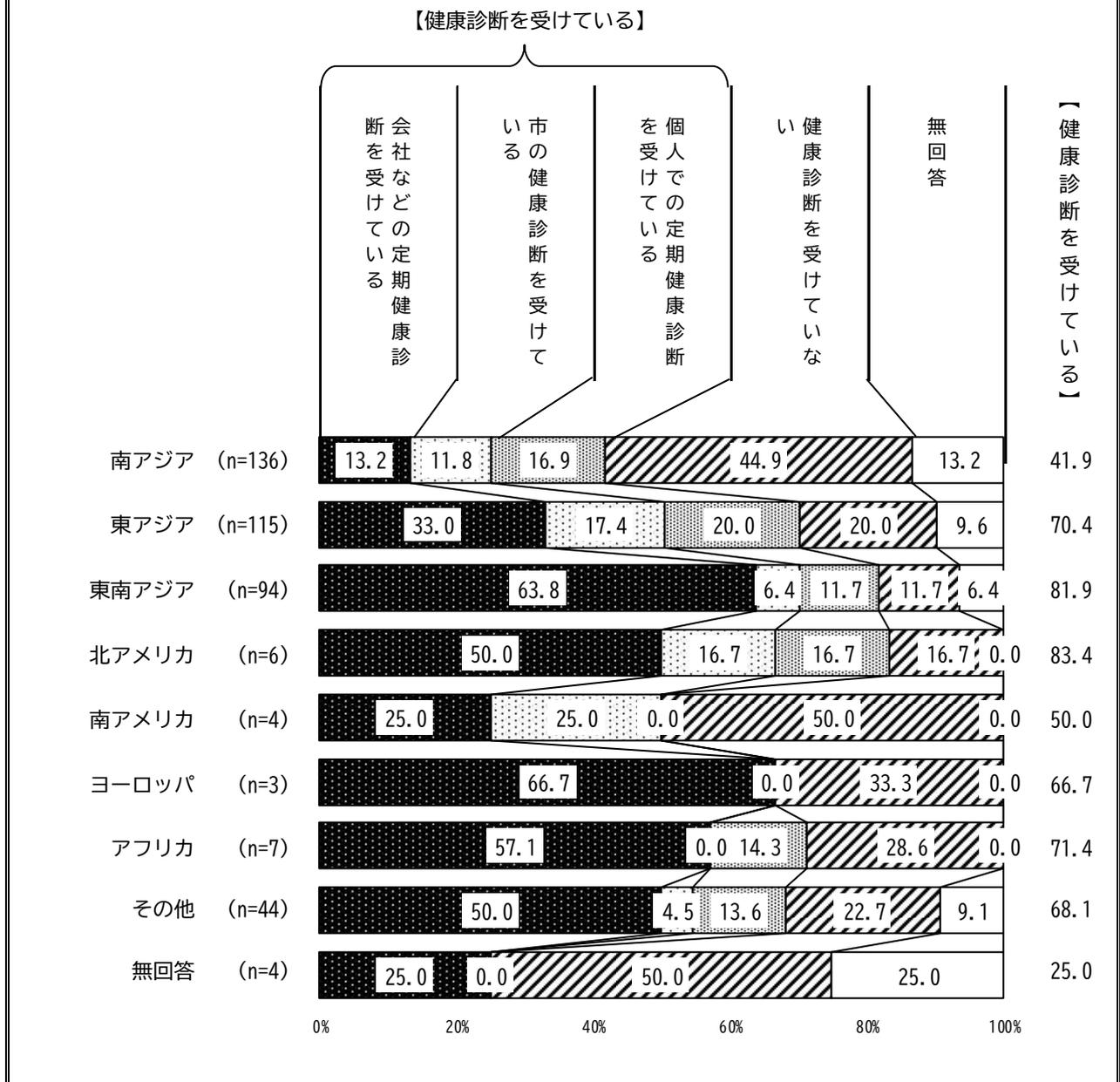
<図表 31-1>



<調査結果>

1年に1回の定期健康診断を受けているか聞いたところ、「会社などの定期健康診断を受けている」(36.1%)が3割半ばで最も高くなっています。次いで「健康診断を受けていない」(27.4%)、「個人での定期健康診断を受けている」(15.7%)となっています。

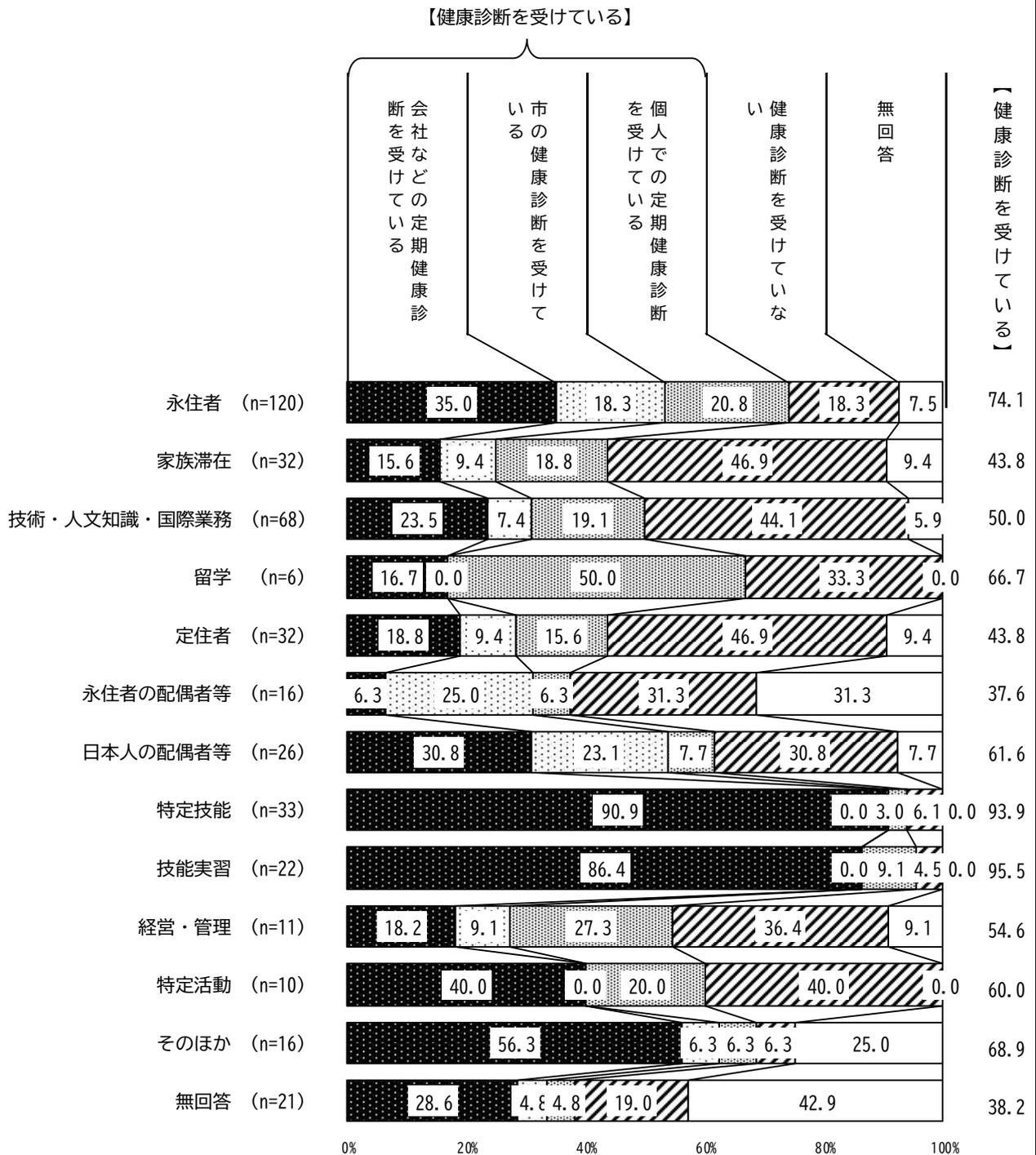
<図表 31 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、南アメリカ出身では受診状況に差はありませんが、南アジア出身では「健康診断を受けていない」が最も高く、それ以外の国籍地域出身では【健康診断を受けている】が高くなっています。

<図表 31 - 3> 在留資格別



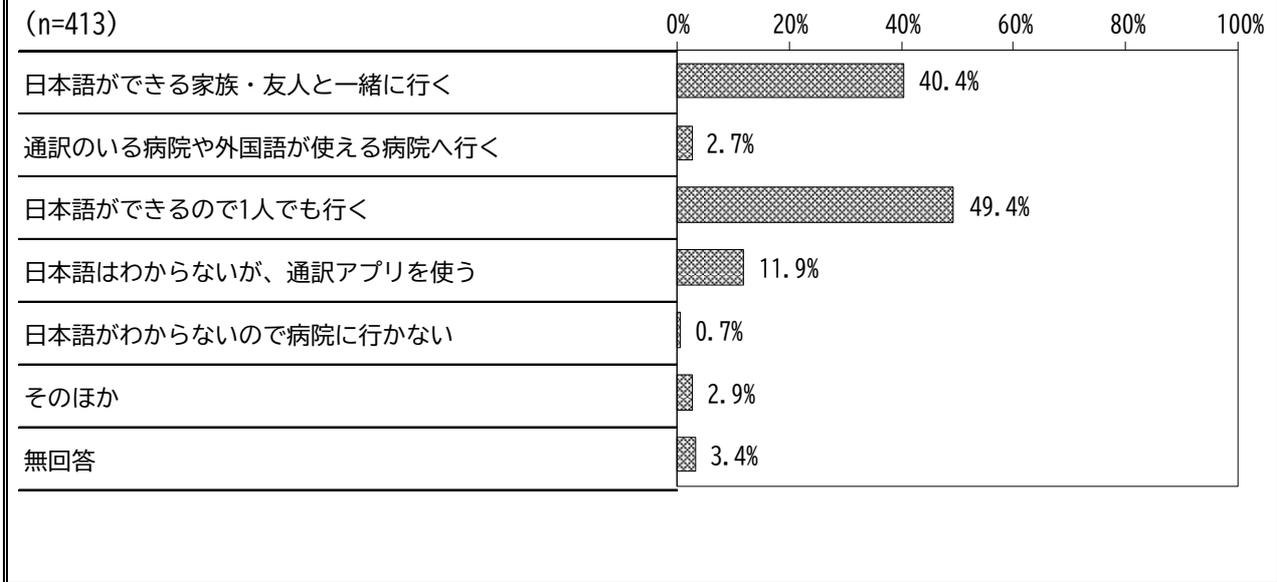
<調査結果>

在留資格別に見ると、家族滞在、定住者では「健康診断を受けていない」が最も高く、それ以外の在留資格では【健康診断を受けている】が最も高くなっています。

(32) 病院に行く場合について

Q32. 病院に行くときはどうしていますか(○はいくつでも)

<図表 32>



<調査結果>

病院に行くときはどうしているか聞いたところ、「日本語ができるので1人でも行く」(49.4%)が約5割で最も高くなっています。次いで、「日本語ができる家族・友人と一緒に行く」(40.4%)、「日本語はわからないが、通訳アプリを使う」(11.9%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ 組合の人と行く
- ・ 会社の人といっしょに行く
- ・ 社長といっしょに行く
- ・ 他の人に電話をかけて通訳してもらう

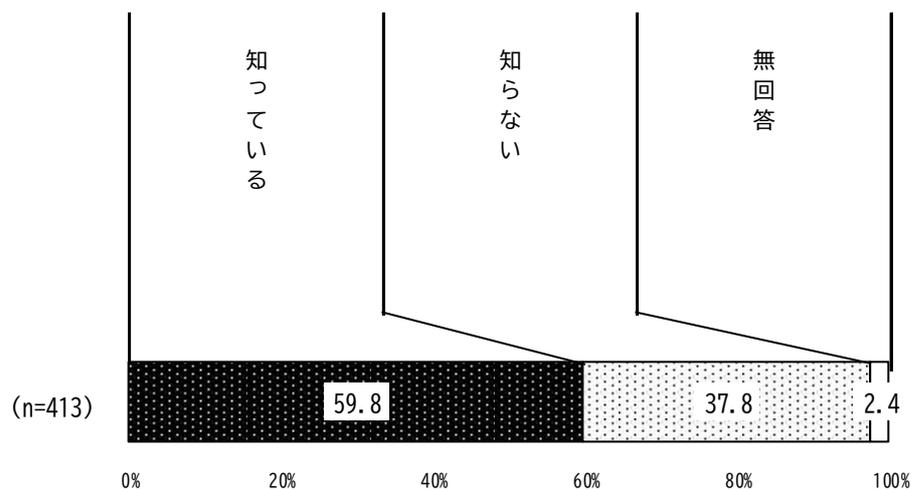
など

7 地震や台風について

(33) 地震や台風のときに逃げるところ

Q33. 地震や台風のときに逃げるところを知っていますか

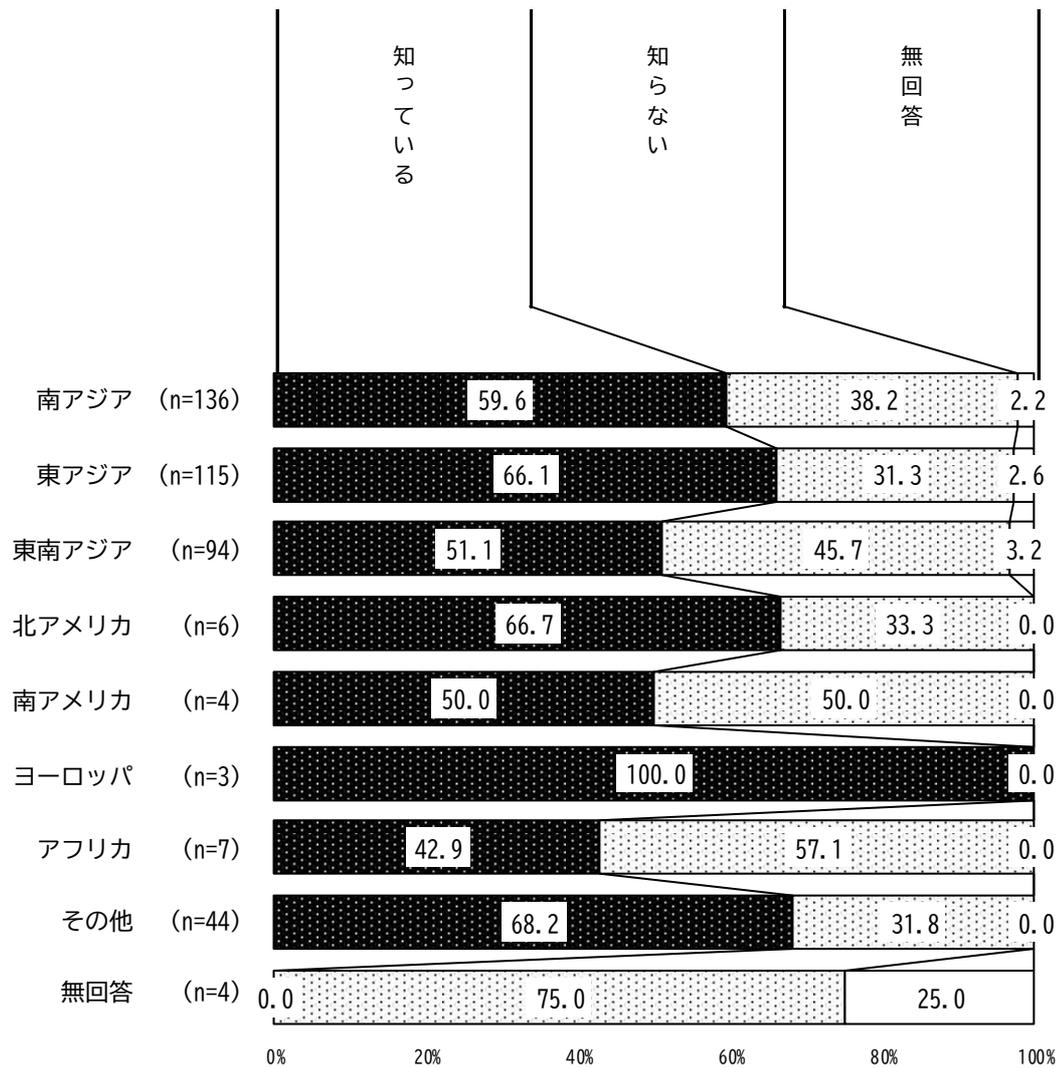
<図表 33-1>



<調査結果>

地震や台風のときに逃げるところを知っているか聞いたところ、「知っている」(59.8%)が約6割で最も高くなっています。

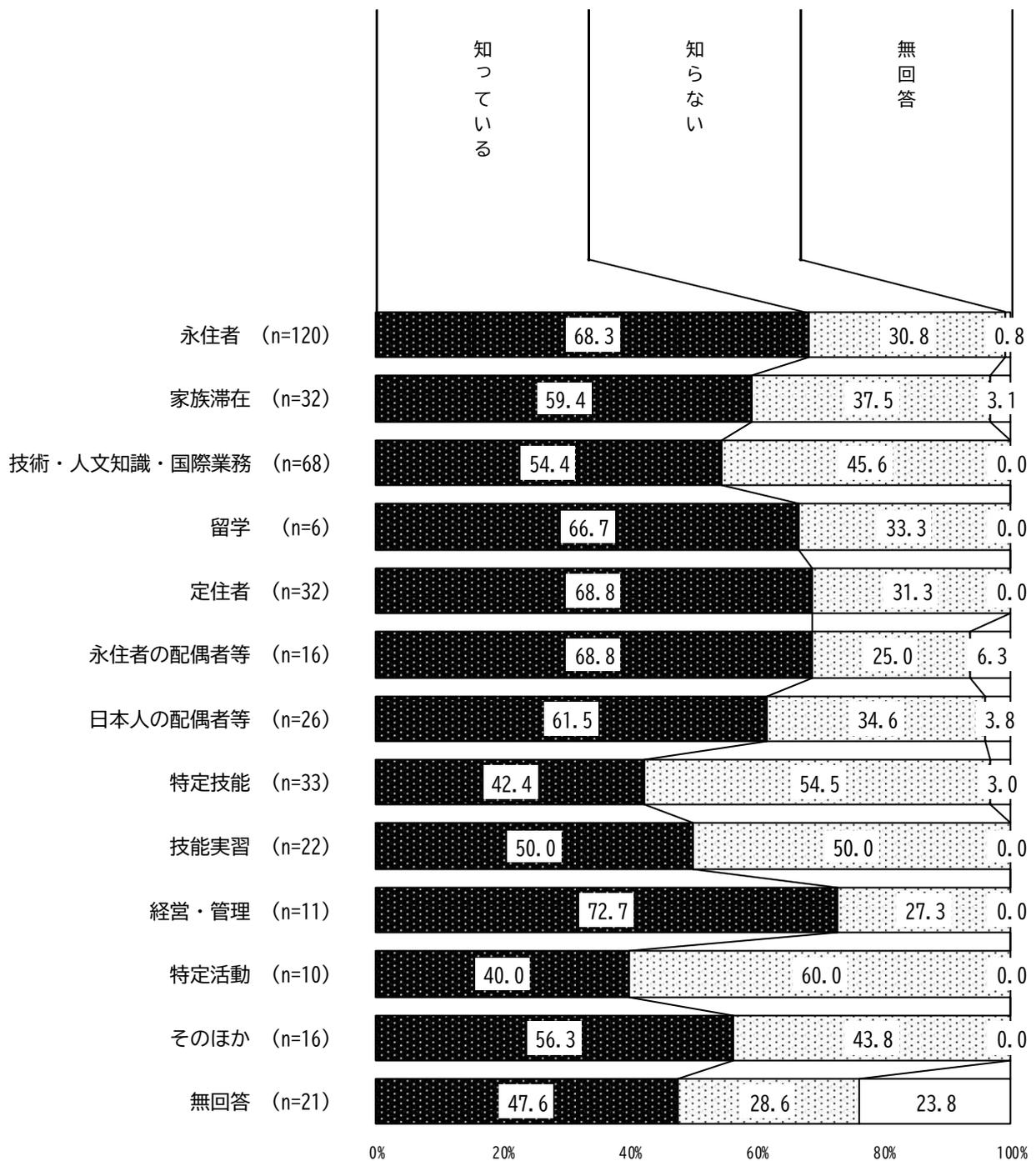
<図表 33 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、南アメリカ出身では回答に差はありませんでしたが、アフリカ出身では「知らない」が最も高く、それ以外の国籍地域出身では「知っている」が最も高くなっています。

<図表 33 - 3> 在留資格別



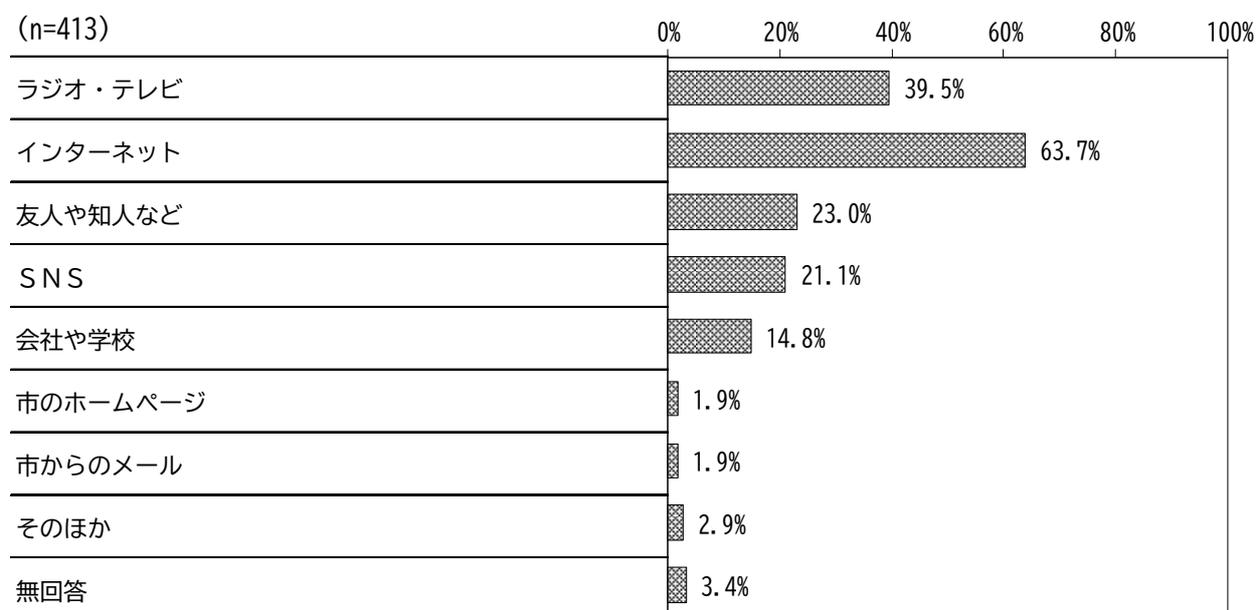
<調査結果>

在留資格別に見ると、技能実習では回答に差はありませんでしたが、特定技能、特定活動では「知らない」が、それ以外の在留資格では「知っている」が最も高くなっています。

(34) 地震や台風のことを知る方法

Q34. 地震や台風のことはどうやって知りますか(○はいくつでも)

<図表 34>



<調査結果>

地震や台風のことはどうやって知るか聞いたところ、「インターネット」(63.7%)が6割を超え最も高くなっています。次いで、「ラジオ・テレビ」(39.5%)、「友人や知人など」(23.0%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・ YouTube
- ・ 家族
- ・ 四街道市の防災速報
- ・ 新聞
- ・ NHK のアプリ

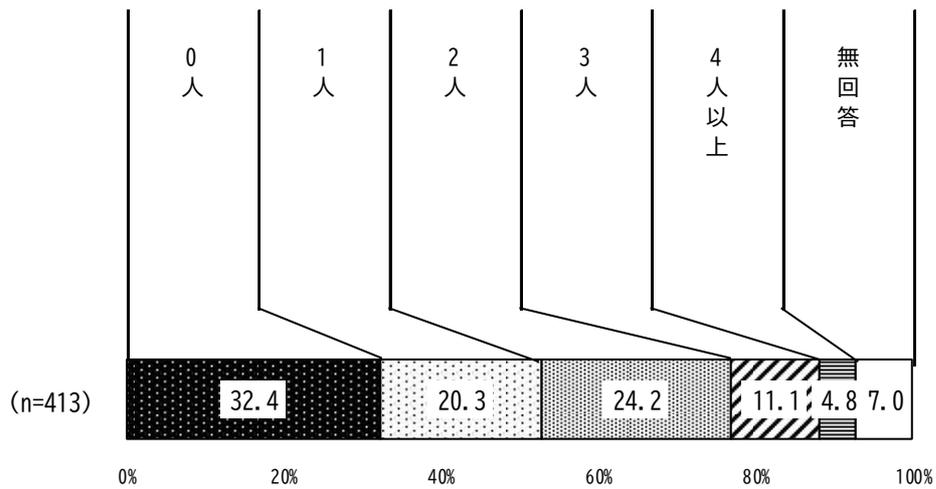
など

8 子どものことについて

(35) 子どもの人数

Q35. 子どもは何人いますか

<図表 35>



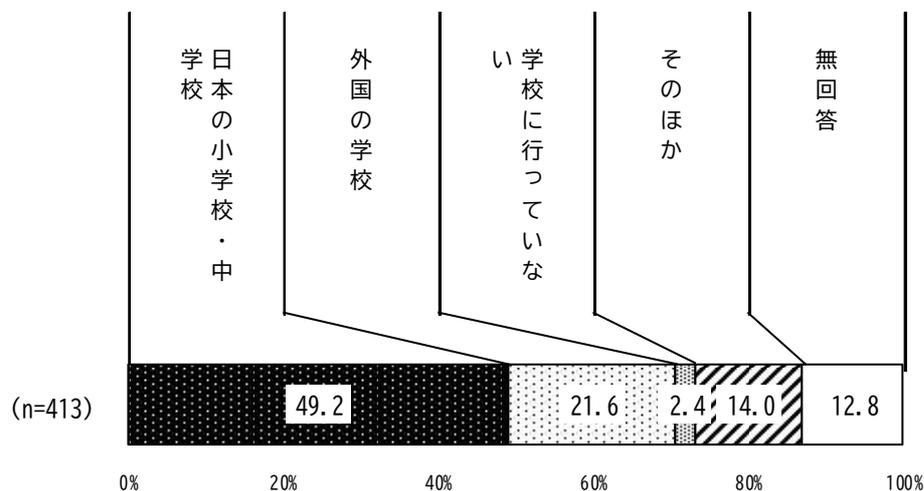
<調査結果>

子ども人数聞いたところ、「0人」(32.4%)が3割を超え最も高くなっています。

(36) 子どもの勉強する場（1人目の子ども）

Q36. 子どもが6歳～15歳のとき、どこで勉強していますか・していましたか
Q35で2～5を選んだ方:1人目の子ども

<図表 36-1>



<調査結果>

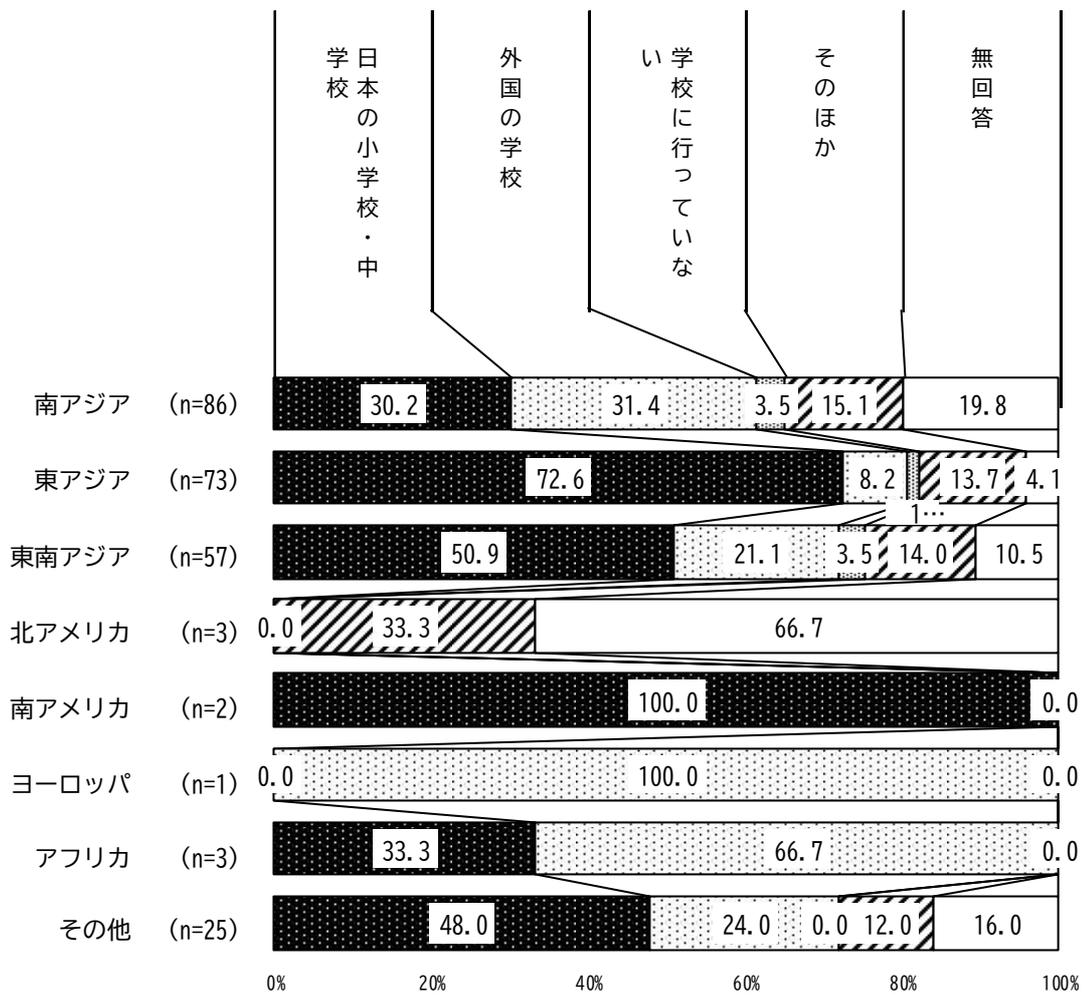
1人目の子どもが6歳～15歳のとき、どこで勉強しているか、またはしていたか聞いたところ、「日本の小学校・中学校」（49.2%）が約5割で最も高くなっています。次いで「外国の学校」（21.6%）、「そのほか」（14.0%）となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

- ・中国の小学校、日本の中学、高校、大学
- ・インターナショナルスクール
- ・台湾の小学校と中学校で学びました
- ・中国で学び、暮らした。

など

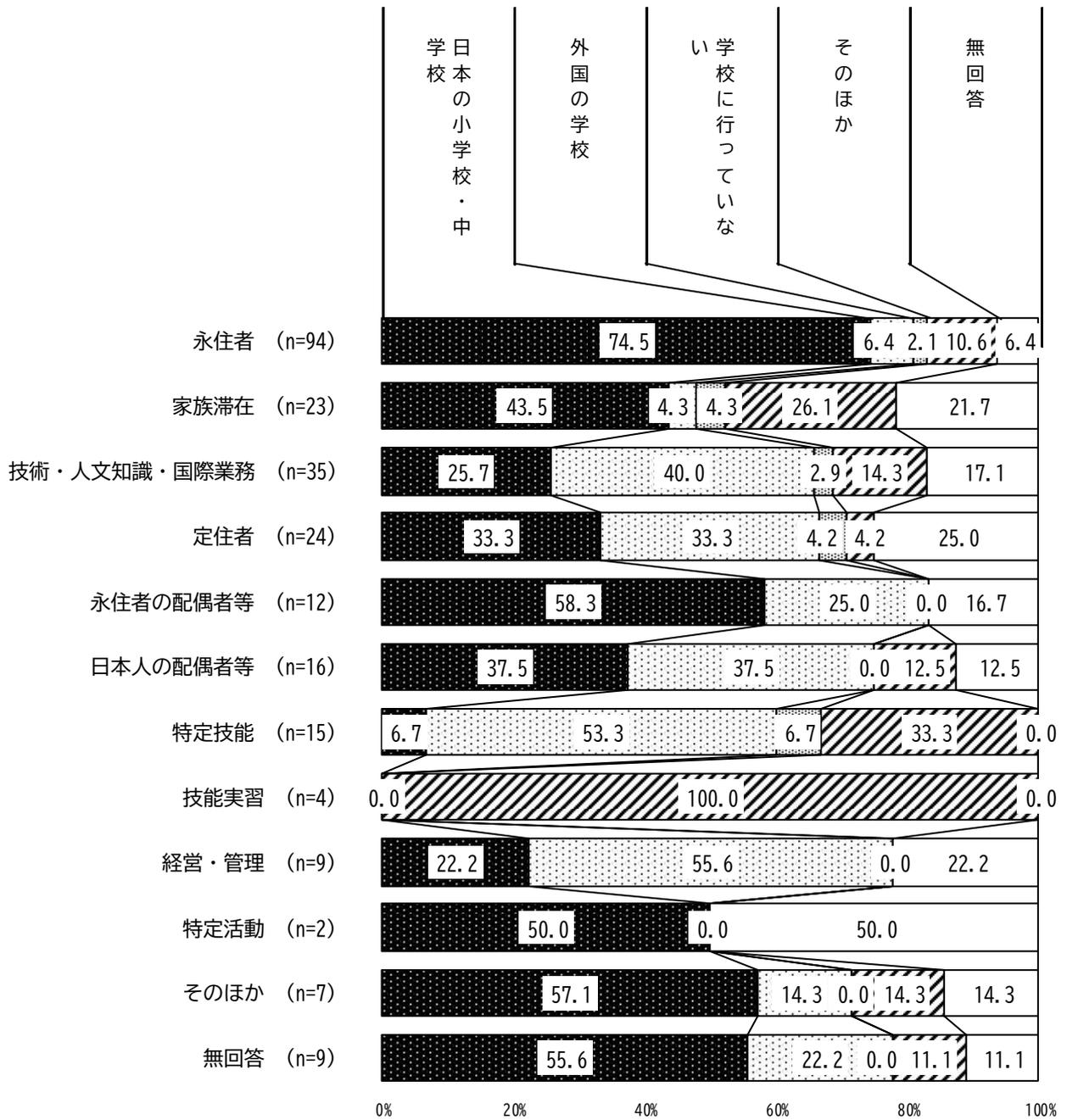
<図表 36 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、東アジア出身、東南アジア出身、南アメリカ出身、その他の国籍地域出身では「日本の小学校・中学校」が最も高くなっており、南アジア出身、ヨーロッパ出身、アフリカ出身では「外国の学校」が最も高くなっています。

<図表 36 - 3> 在留資格別



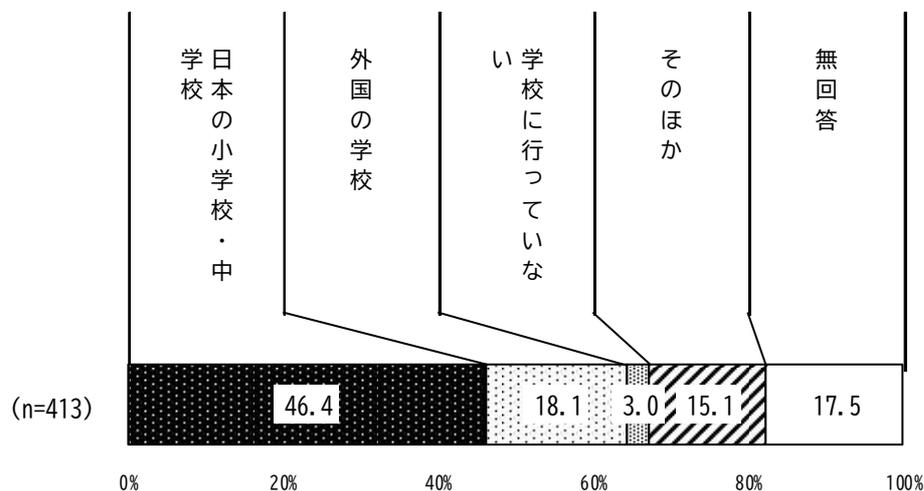
<調査結果>

在留資格別に見ると、永住者、家族滞在、永住者の配偶者等、そのほかの在留資格では「日本の小学校・中学校」が最も高くなっています。

(37) 子どもの勉強する場（2人目の子ども）

Q37. 子どもが6歳～15歳のとき、どこで勉強していますか・していましたか
問35で3～5を選んだ方:2人目の子ども

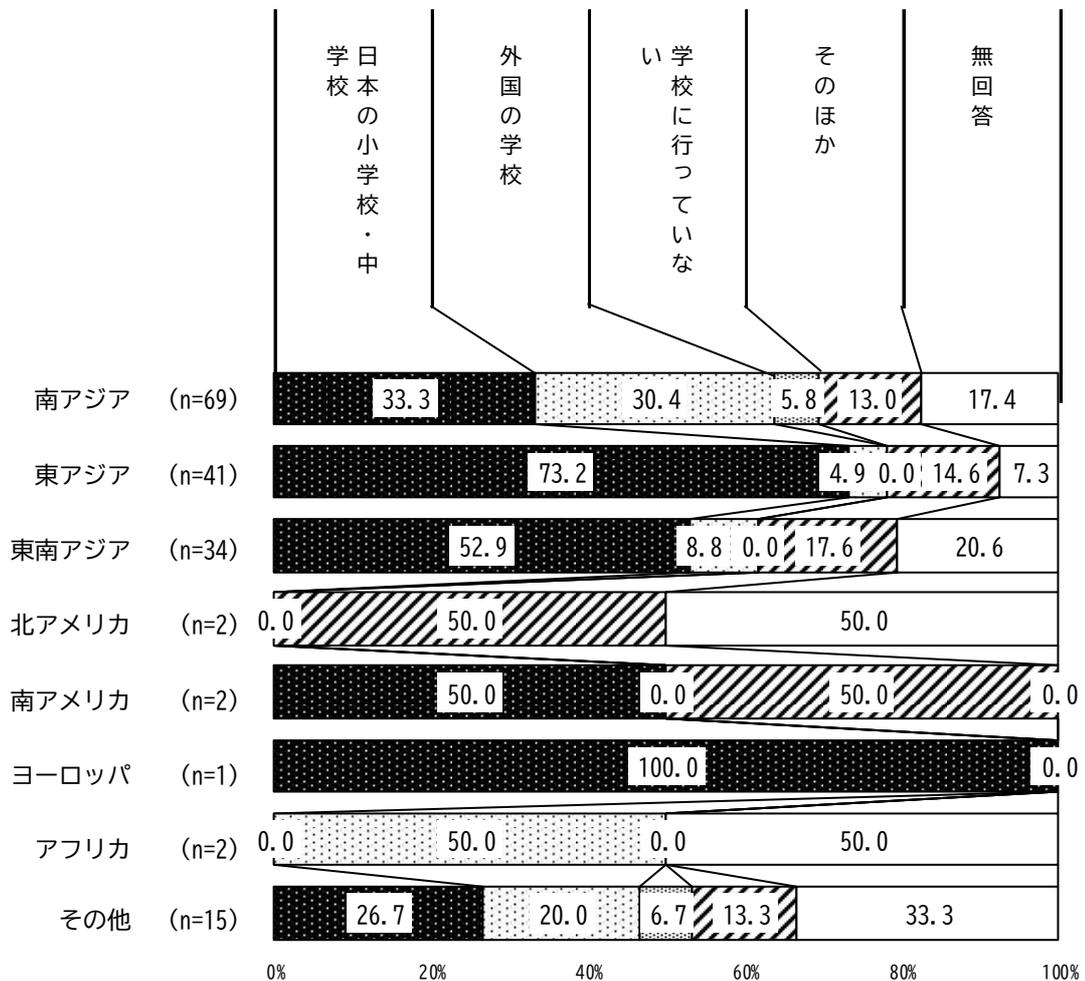
<図表 37-1>



<調査結果>

2人目の子どもが6歳～15歳のとき、どこで勉強しているか、またはしていたか聞いたところ、「日本の小学校・中学校」(46.4%)が5割半ばで最も高くなっています。次いで「外国の学校」(18.1%)、「そのほか」(15.1%)となっています。

<図表 37 - 2> 国籍地域別

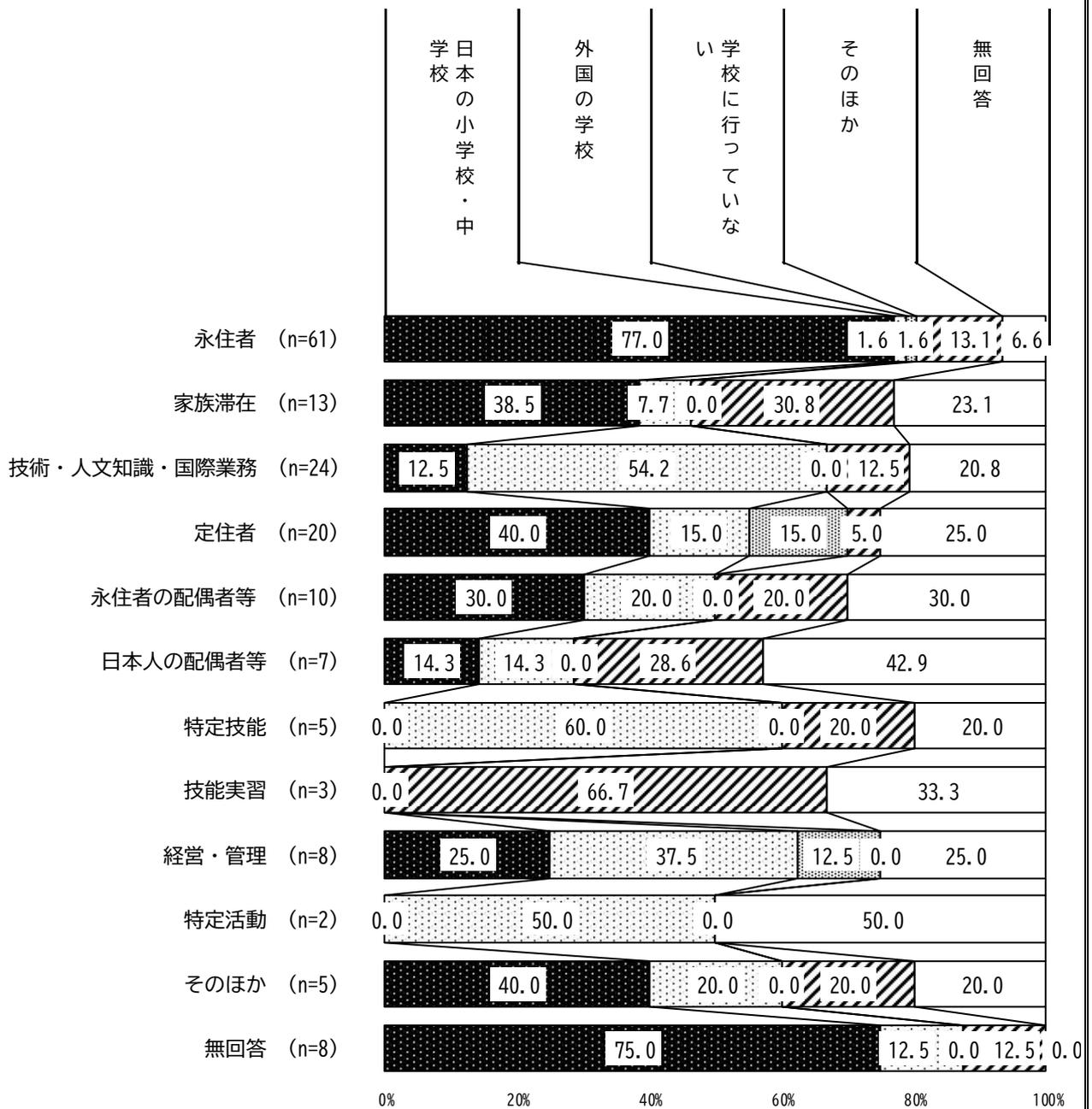


<調査結果>

国籍地域別に見ると、東アジア出身、東南アジア出身、その他の国籍地域出身では「日本の小学校・中学校」が最も高くなっており、南アジア出身では「外国の学校」が最も高くなっています。

北アメリカ出身、南アメリカ出身、アフリカ出身では回答に差がありませんでした。

<図表 37 - 3> 在留資格別



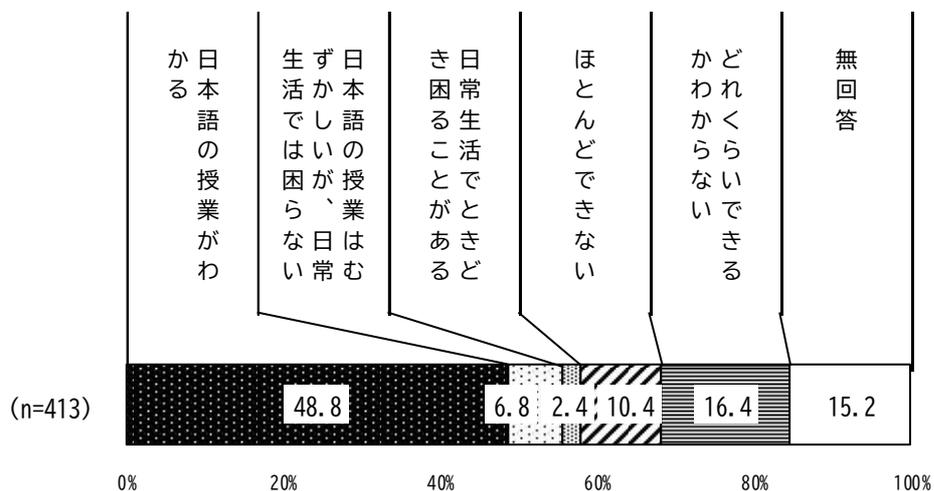
<調査結果>

在留資格別に見ると、永住者、家族滞在、定住者、そのほかの在留資格では「日本の小学校・中学校」が最も高くなっています。

(38) 子どもの日本語について（1人目の子ども）

Q38. あなたの子どもは日本語はどのくらいできますか
問 35 で 2～5 を選んだ方:1人目の子ども

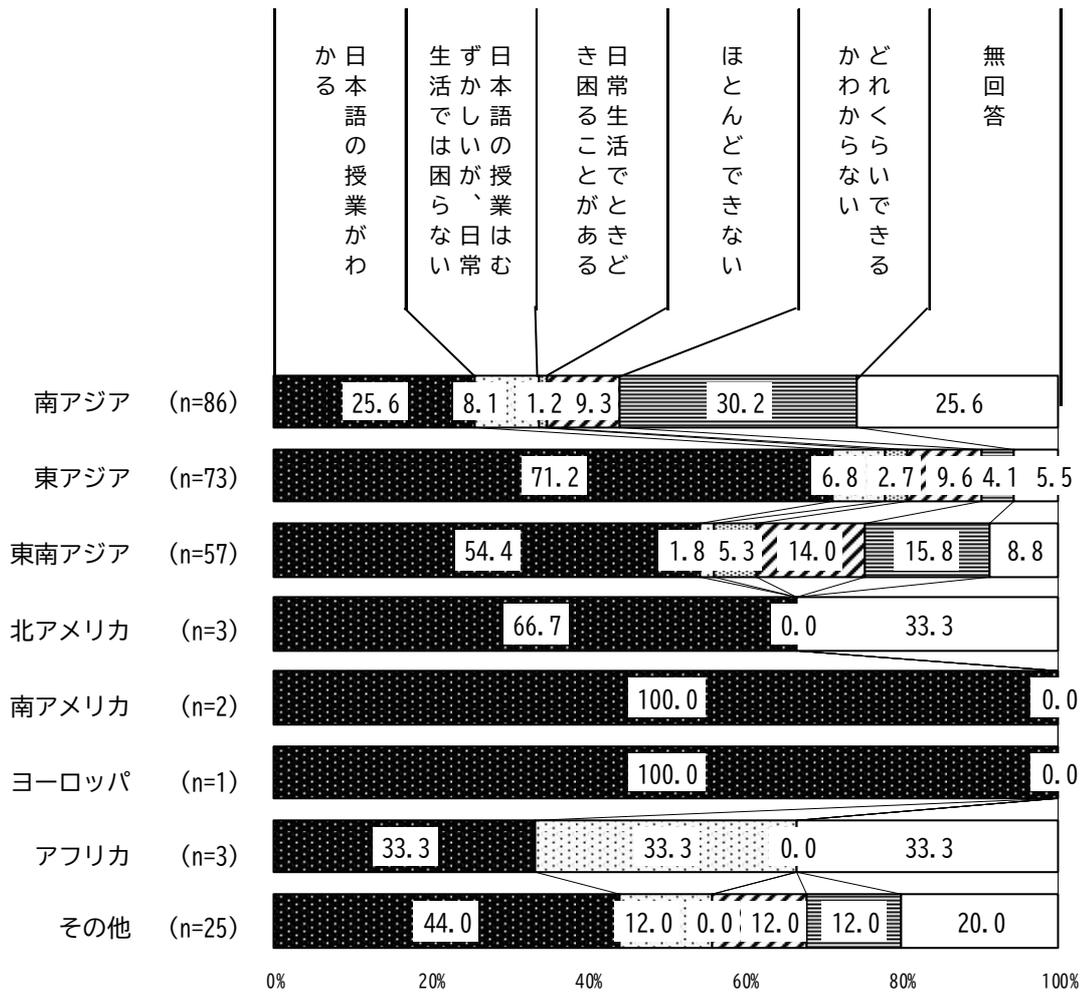
<図表 38-1>



<調査結果>

1人目の子どもの日本語の習熟度を聞いたところ、「日本語の授業がわかる」（48.8%）が5割近くで最も高くなっています。次いで「どれくらいできるかわからない」（16.4%）、「ほとんどできない」（10.4%）となっています。

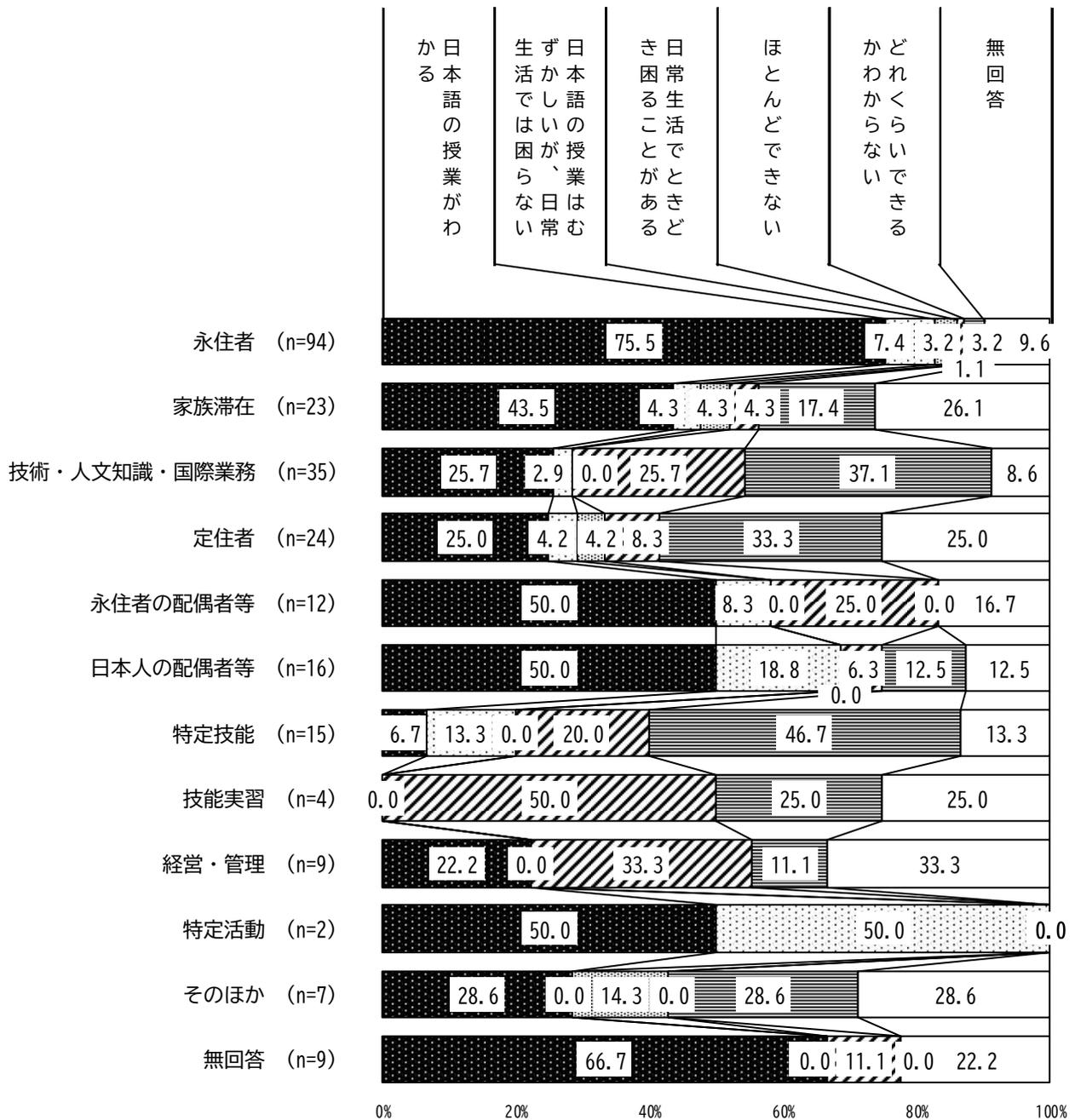
<図表 38 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、南アジア出身では「どれくらいできるかわからない」が最も高くなっており、それ以外の国籍地域出身では「日本語の授業がわかる」が最も高くなっています。なお、アフリカ出身では回答に差がありませんでした。

<図表 38 - 3> 在留資格別



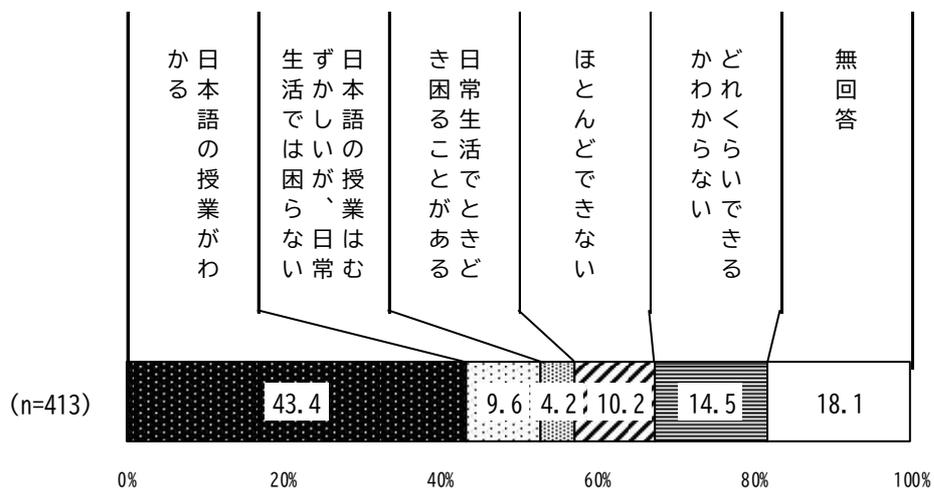
<調査結果>

在留資格別に見ると、永住者、家族滞在、永住者の配偶者等、日本人の配偶者等では「日本語の授業がわかる」が最も高くなっています。

(39) 子どもの日本語について (2人目の子ども)

Q39. あなたの子どもは日本語はどのくらいできますか
問 35 で 3~5 を選んだ方:2人目の子ども

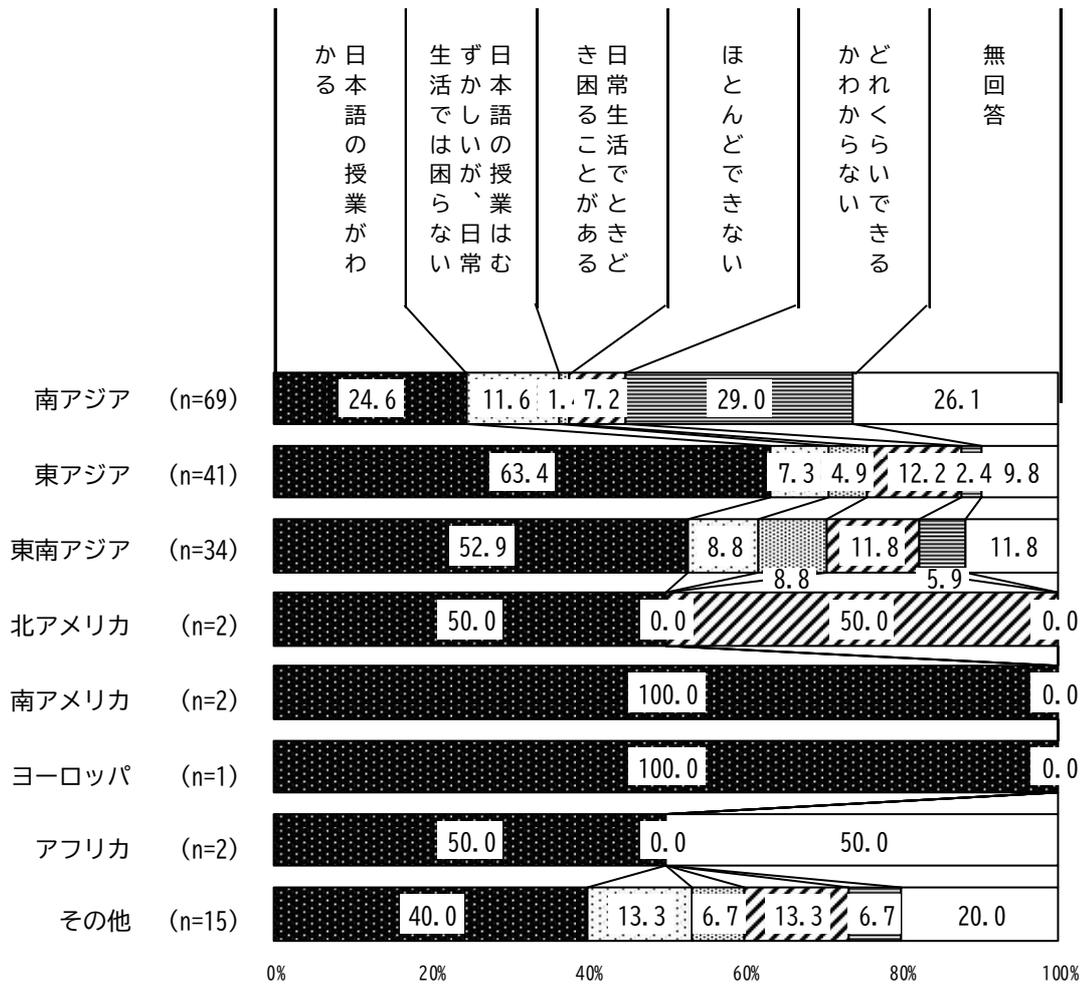
<図表 39-1>



<調査結果>

2人目の子どもの日本語の習熟度を聞いたところ、「日本語の授業がわかる」(43.4%)が4割を超え最も高くなっています。次いで「どれくらいできるかわからない」(14.5%)、「ほとんどできない」(10.2%)となっています。

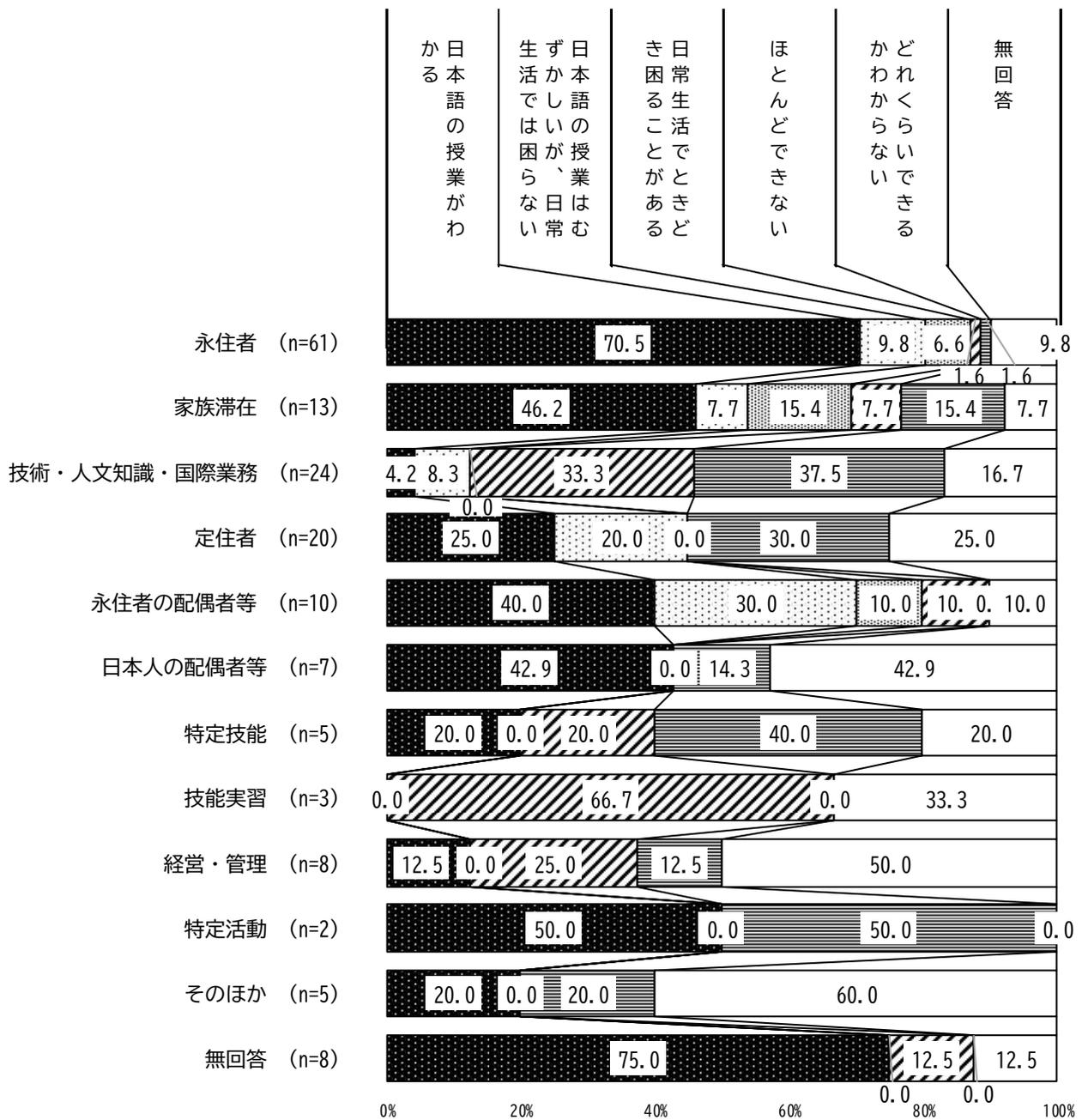
<図表 39 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、南アジア出身では「どれくらいできるかわからない」が最も高くなっており、それ以外の国籍地域出身では「日本語の授業がわかる」が最も高くなっています。なお、北アメリカ出身とアフリカ出身では回答に差がありませんでした。

<図表 39 - 3> 在留資格別



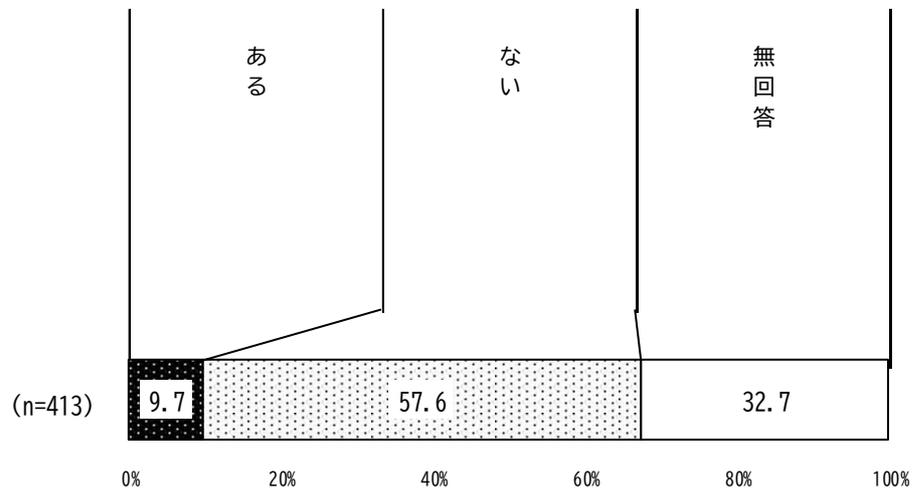
<調査結果>

在留資格別に見ると、永住者、家族滞在、永住者の配偶者等では「日本語の授業がわかる」が最も高くなっています。

(40) 家族の中での言葉の問題

Q40. 家族の中で、ことばのもんだいを感じたことはありますか

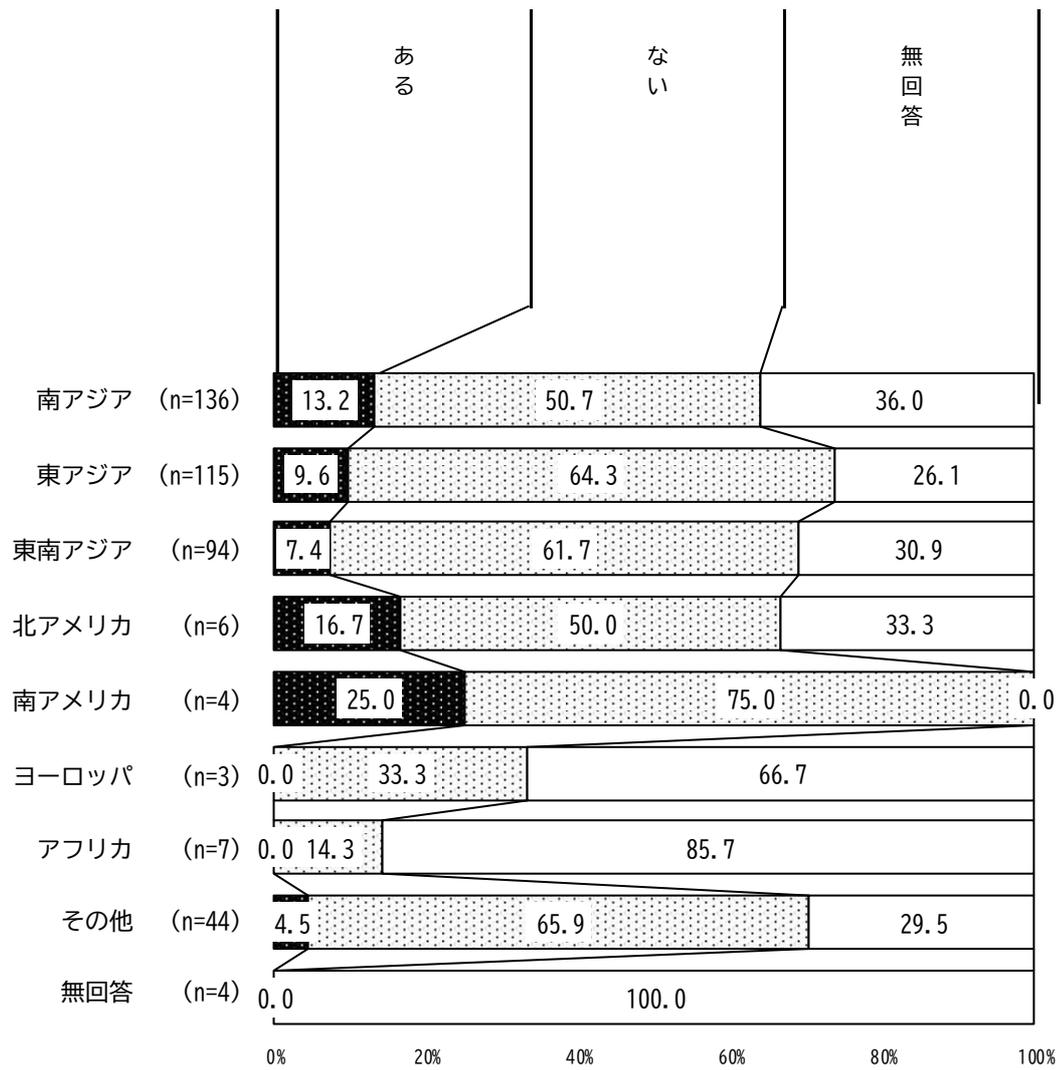
<図表 40-1>



<調査結果>

家族の中で、言葉の問題を感じたことはあるか聞いたところ、「ない」(57.6%)が5割半ばを超え最も高くなっています。

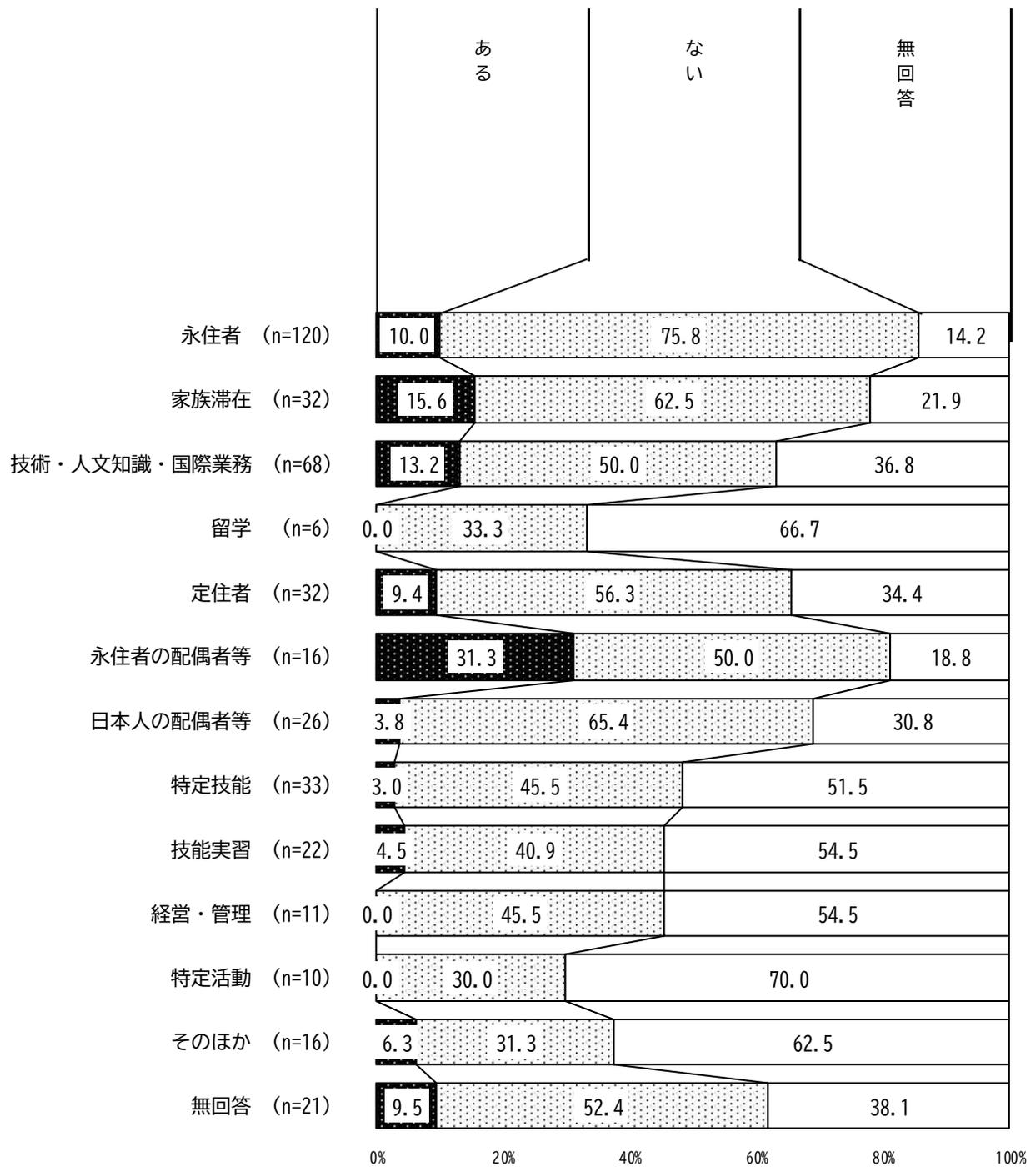
<図表 40 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、すべての国籍地域で「ない」が最も高くなっています。

<図表 40 - 3> 在留資格別



<調査結果>

在留資格別に見ると、すべての在留資格では「ない」が最も高くなっています。

(41) 家族の中での言葉の問題の具体的な内容

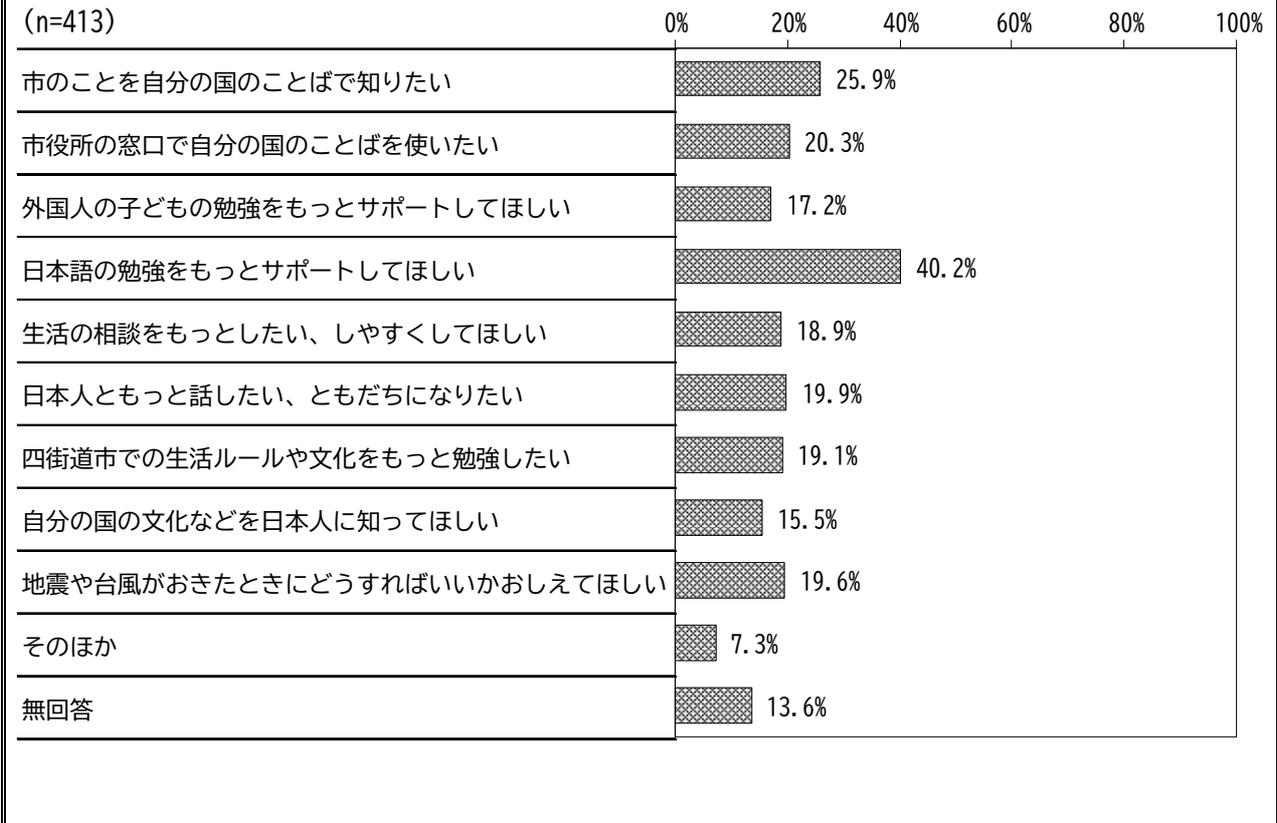
- ・今では子供は日本語と中国語を話します、一番上手。
- ・私たちは相手が理解するまで優しくゆっくり話してコミュニケーションを取ります。
- ・日本語にはわからない言葉がたくさんあります。例えば病院とか市役所で記入する書類のようなものです。でも一日の終わりに私は（家族から日本語の）助けを得ることができました。家族は私が日本語が苦手であることをわかっていても助けてくれようとしています。私はこのアンケートが私のような他の外国人が生活しやすくなるために役立つことを願っています。また、ふりがなや連絡先の電話番号、英語で話すことができる補助（員）があればより助けになるでしょう。英語は世界中で使われているからです。私のメッセージを読んでくださりありがとうございました。頑張ってください。
- ・私が難しい日本語がわからないときは、いつも娘が意味を教えてください。
- ・難しい日本語があるときは、理解するように最善をつくします。グーグル翻訳で訳したり、友達助けを求めたり、インターネットで検索したりします。
- ・子供は来日したばかりなので日本語が未だ聞き取れない。
- ・家族は海外にいます。
- ・家族は海外に住んでいるからです。
- ・病院、市役所、学校。
- ・どこにでも問題があります。私は日本語を話せないし、子供が小さいからです。
- ・日本語を話すのが難しいです。
- ・日本に住んでいても他の国にすんでいても、その国の言葉を学ぶのは大切なことです。
- ・時々産婦人科の診察と問診で。

9 行政サービス、市のサービスについて

(42) 四街道市に望むサービス

Q42. どのようなサービスがほしいですか(○はいくつでも)

<図表 42>



<調査結果>

四街道市に望むサービスを聞いたところ、「日本語の勉強をもっとサポートしてほしい」(40.2%)が約4割で最も高くなっています。次いで、「市のことを自分の国のことばで知りたい」(25.9%)、「市役所の窓口で自分の国のことばを使いたい」(20.3%)となっています。

「そのほか」の内容には、以下のものがありました。

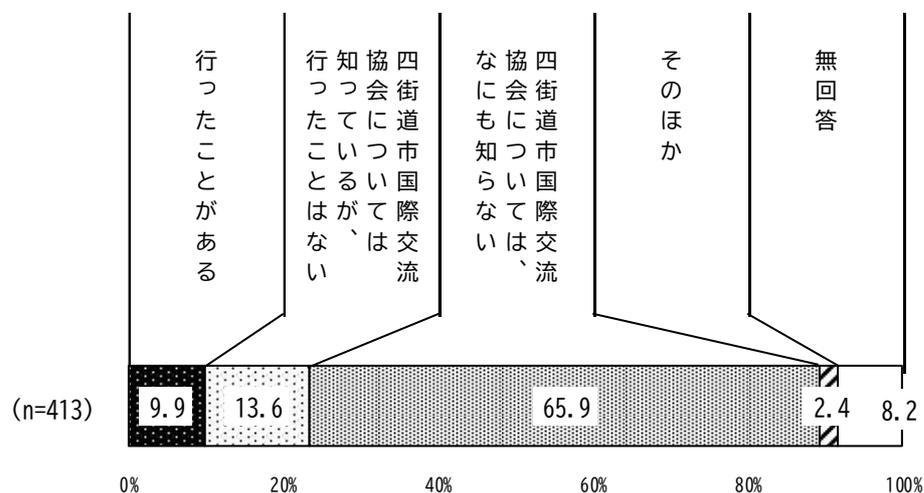
- ・外国人向けのサービスを提供できるダリー語や英語を話せる人。
- ・日本人の配偶者が永住者の申請をするための手助けについて。
- ・学校で子供たちにハラル給食を提供すること。
- ・子供たちが夜中に病気になったとき、どうすればよいか、誰に電話すればよいか。

など

(43) 四街道市国際交流協会 (YOCCA) の認知度

Q43. 四街道市国際交流協会(YOCCA)を知っていますか

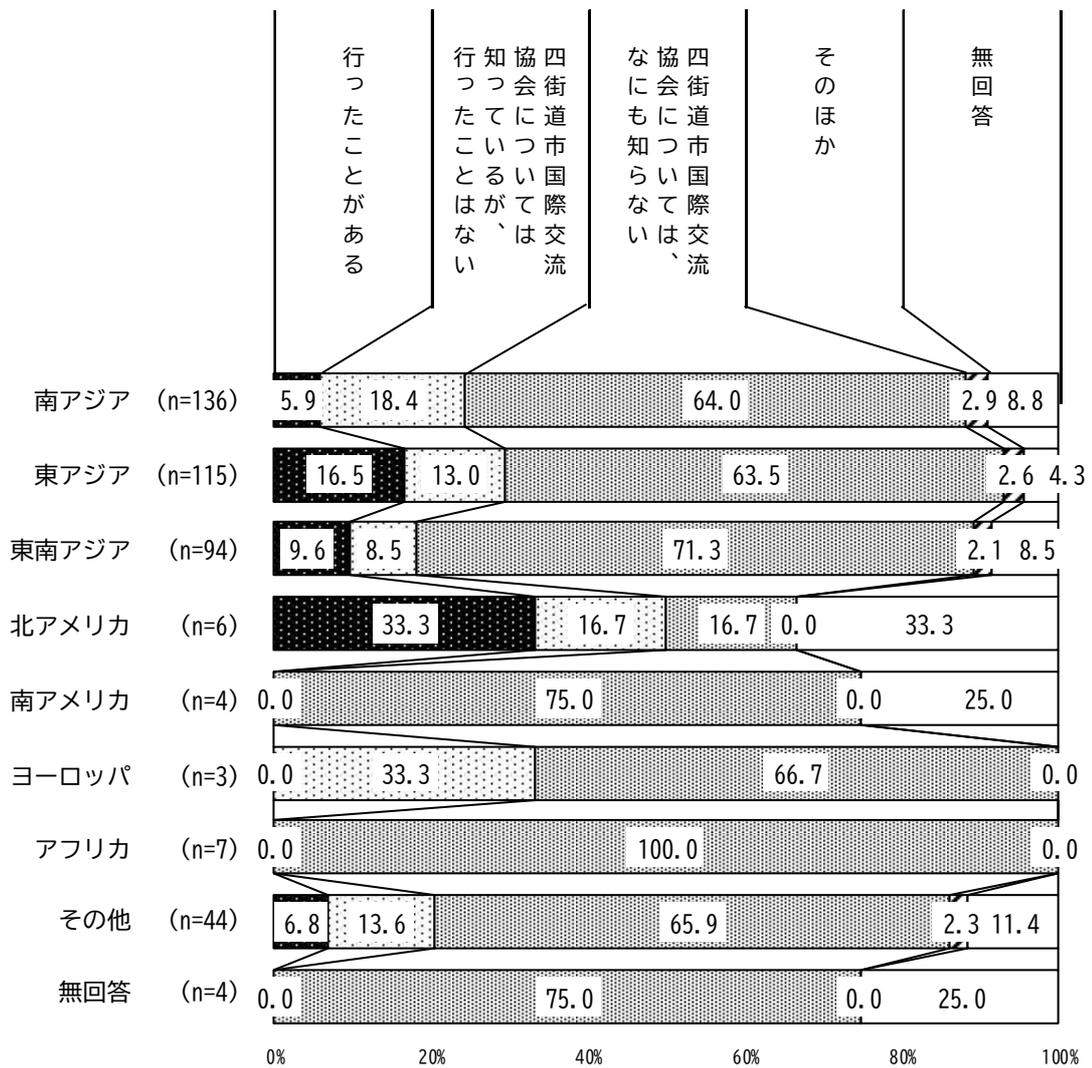
<図表 43-1>



<調査結果>

四街道市国際交流協会 (YOCCA) を知っているか聞いたところ、「四街道市国際交流協会については、なにも知らない」(65.9%) が6割半ばで最も高くなっています。次いで「四街道市国際交流協会については知っているが、行ったことはない」(13.6%)、「行ったことがある」(9.9%) となっています。

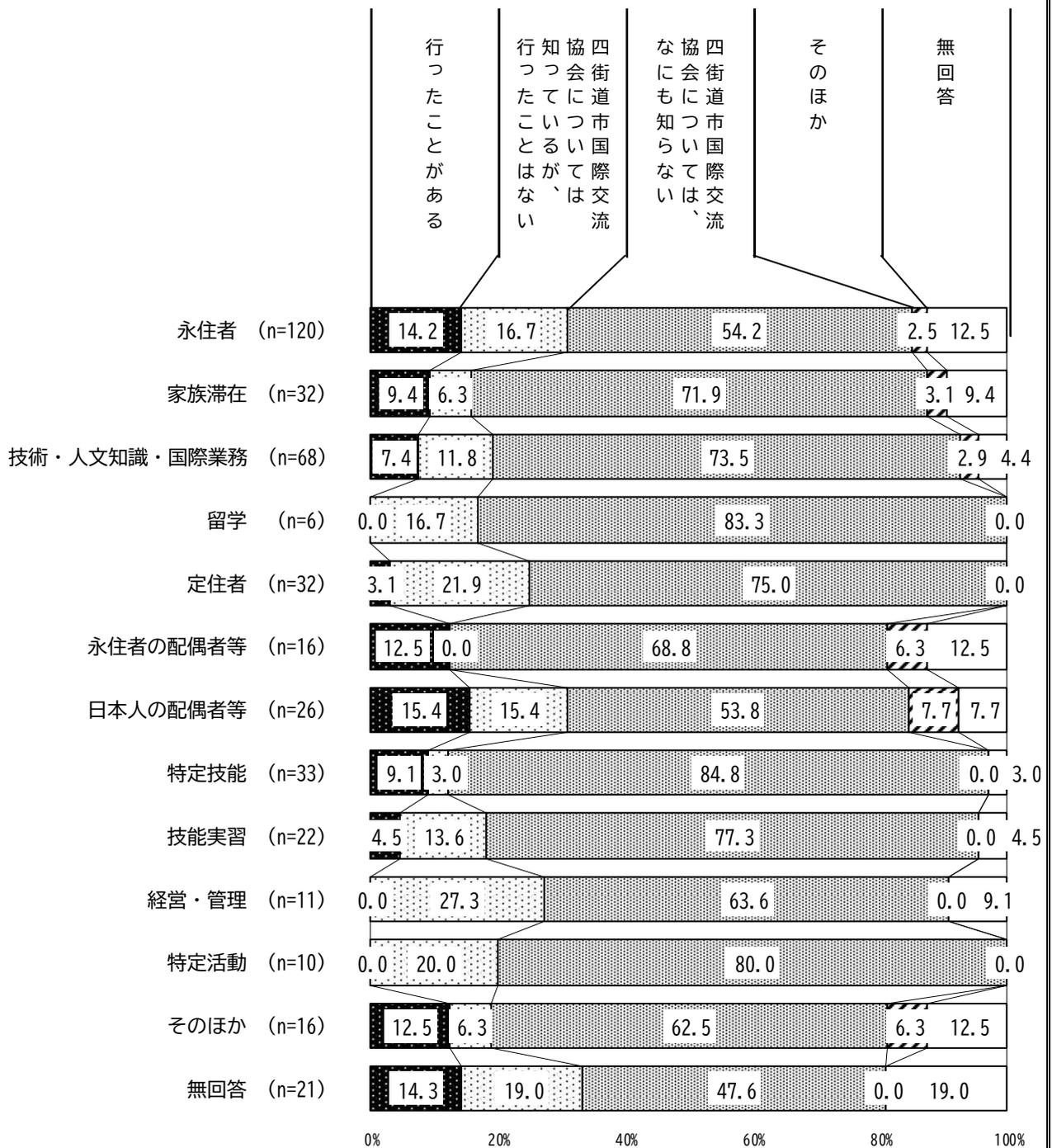
<図表 43 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、北アメリカ出身では「行ったことがある」が最も高くなっており、それ以外の国籍地域出身では「四街道市国際交流協会については、なにも知らない」が最も高くなっています。

<図表 43 - 3> 在留資格別



<調査結果>

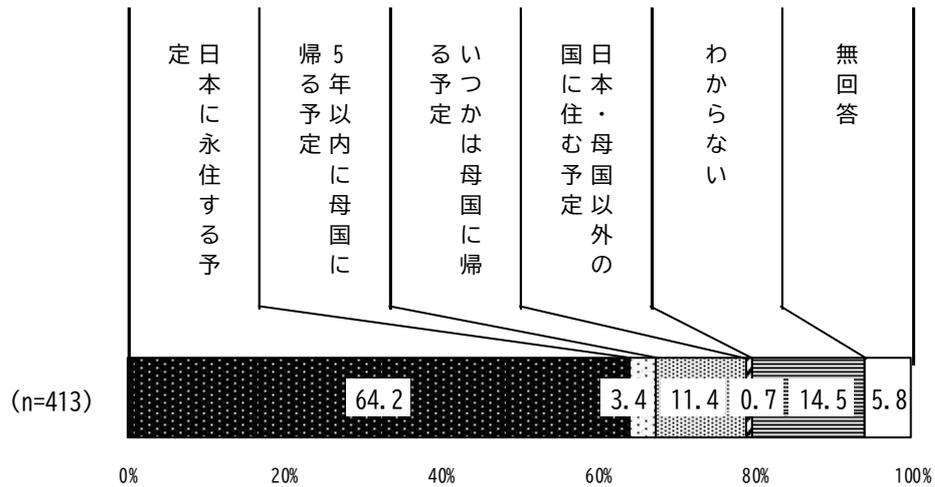
在留資格別に見ると、すべての在留資格で「四街道市国際交流協会については、なにも知らない」が最も高くなっています。

10 そのほか

(44) これからの日本での予定

Q44. これからの日本での予定を教えてください

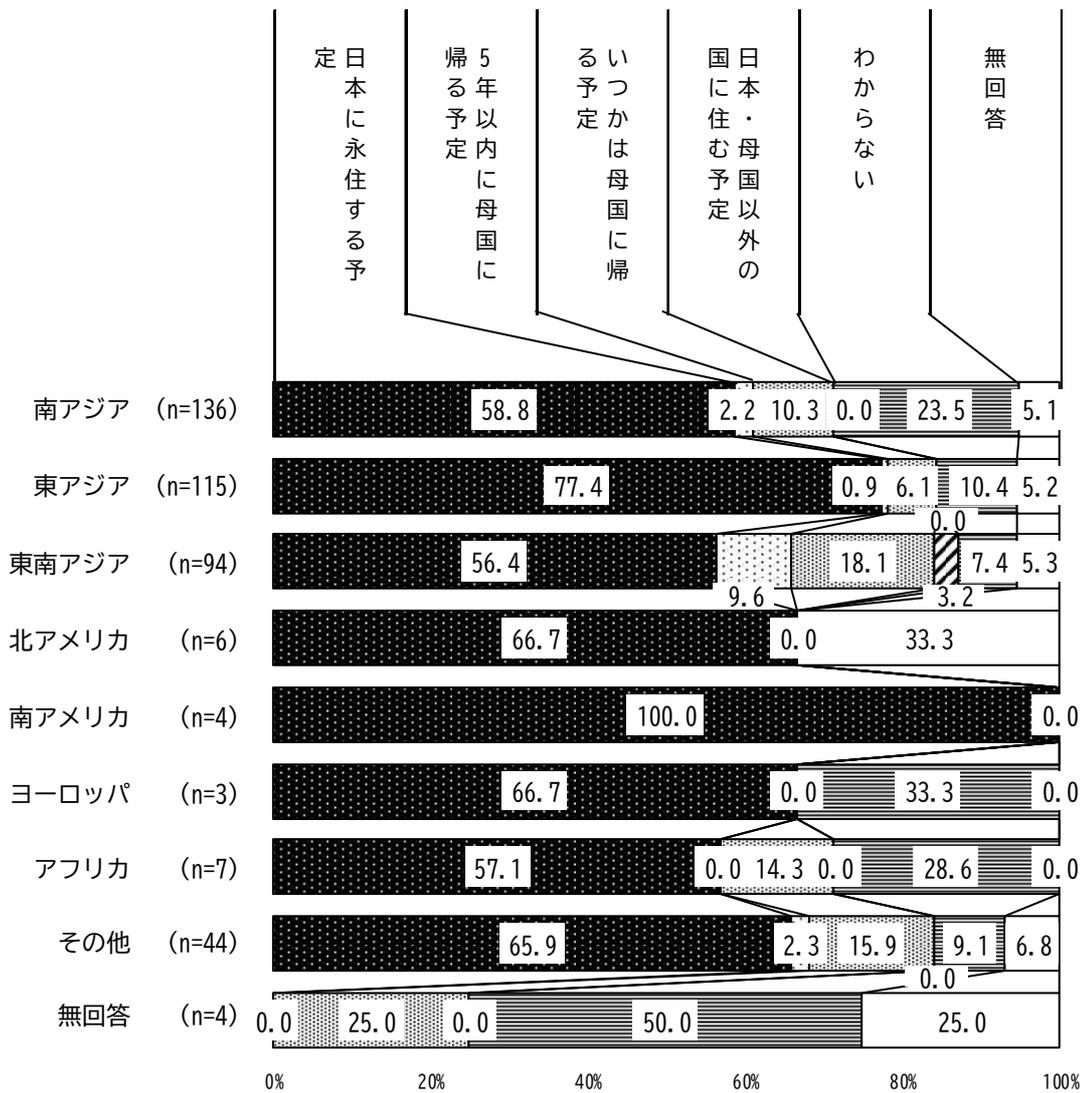
<図表 44-1>



<調査結果>

これからの日本での予定を聞いたところ、「日本に永住する予定」(64.2%)が6割半ばで最も高くなっています。次いで、「わからない」(14.5%)、「いつかは母国に帰る予定」(11.4%)が1割超えとなっています。

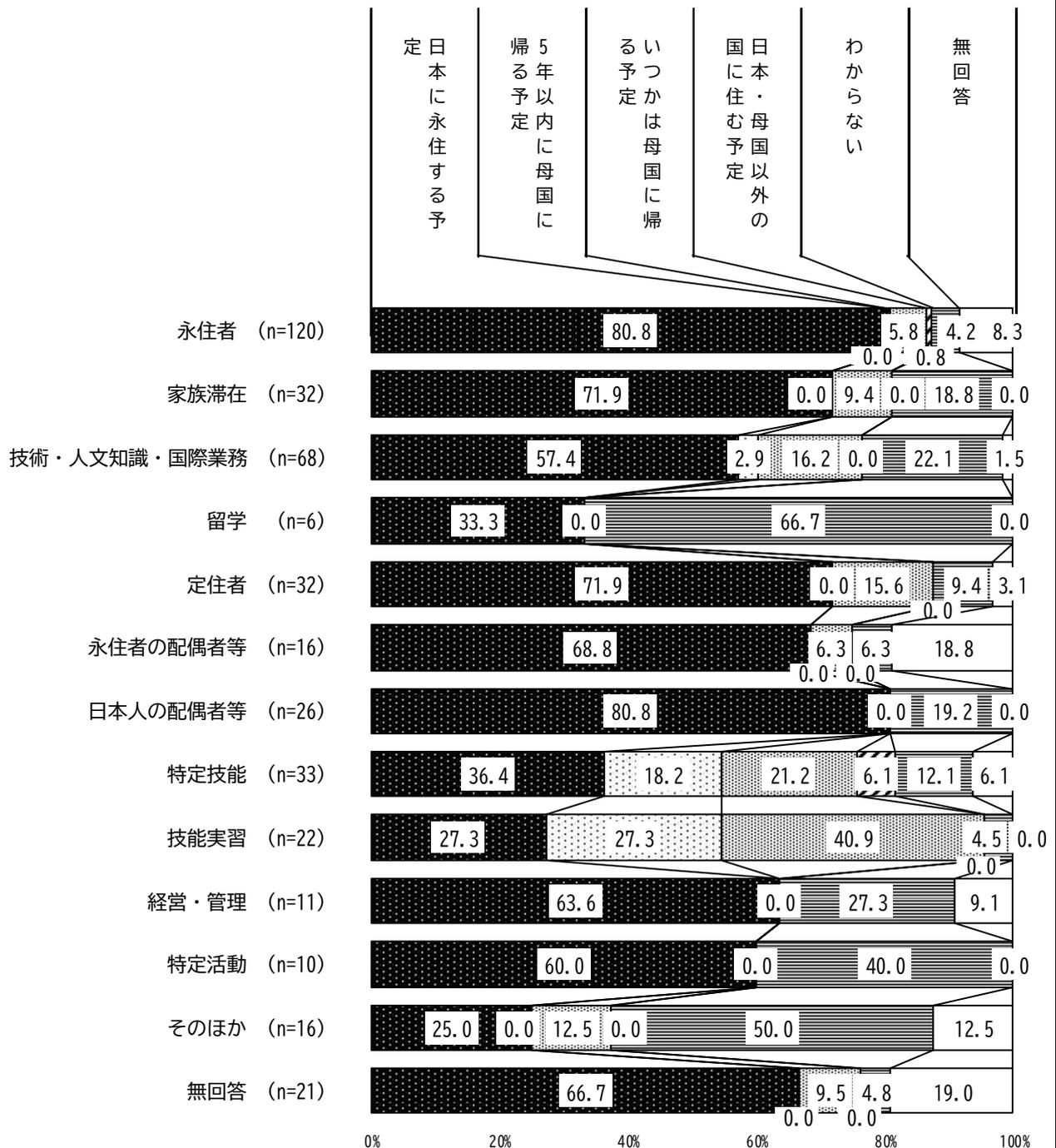
<図表 44 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、すべての国籍地域で「日本に永住する予定」が最も高くなっています。

<図表 44 - 3> 在留資格別



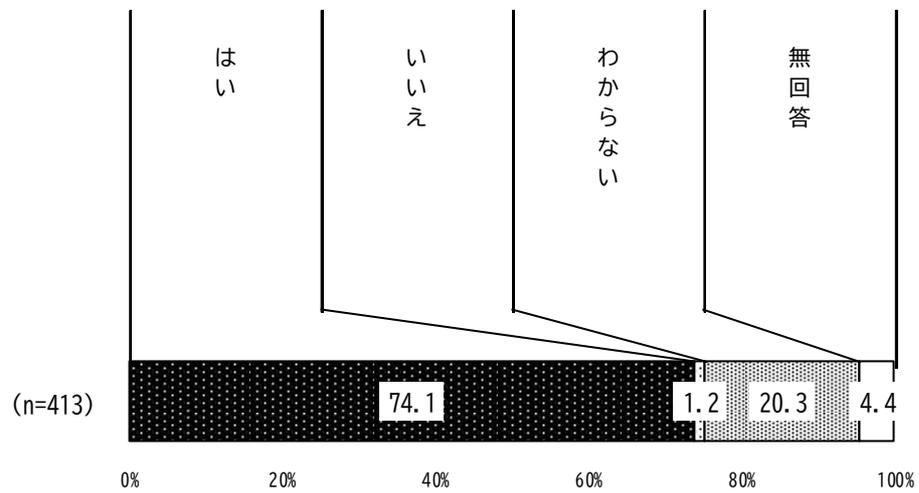
<調査結果>

在留資格別に見ると、留学、そのほかの在留資格では「わからない」が、技能実習では「いつかは母国に帰る予定」が、それ以外の在留資格では「日本に永住する予定」が最も高くなっています。

(45) 四街道市への定住意向

Q45. これからも四街道市に住み続けたいですか

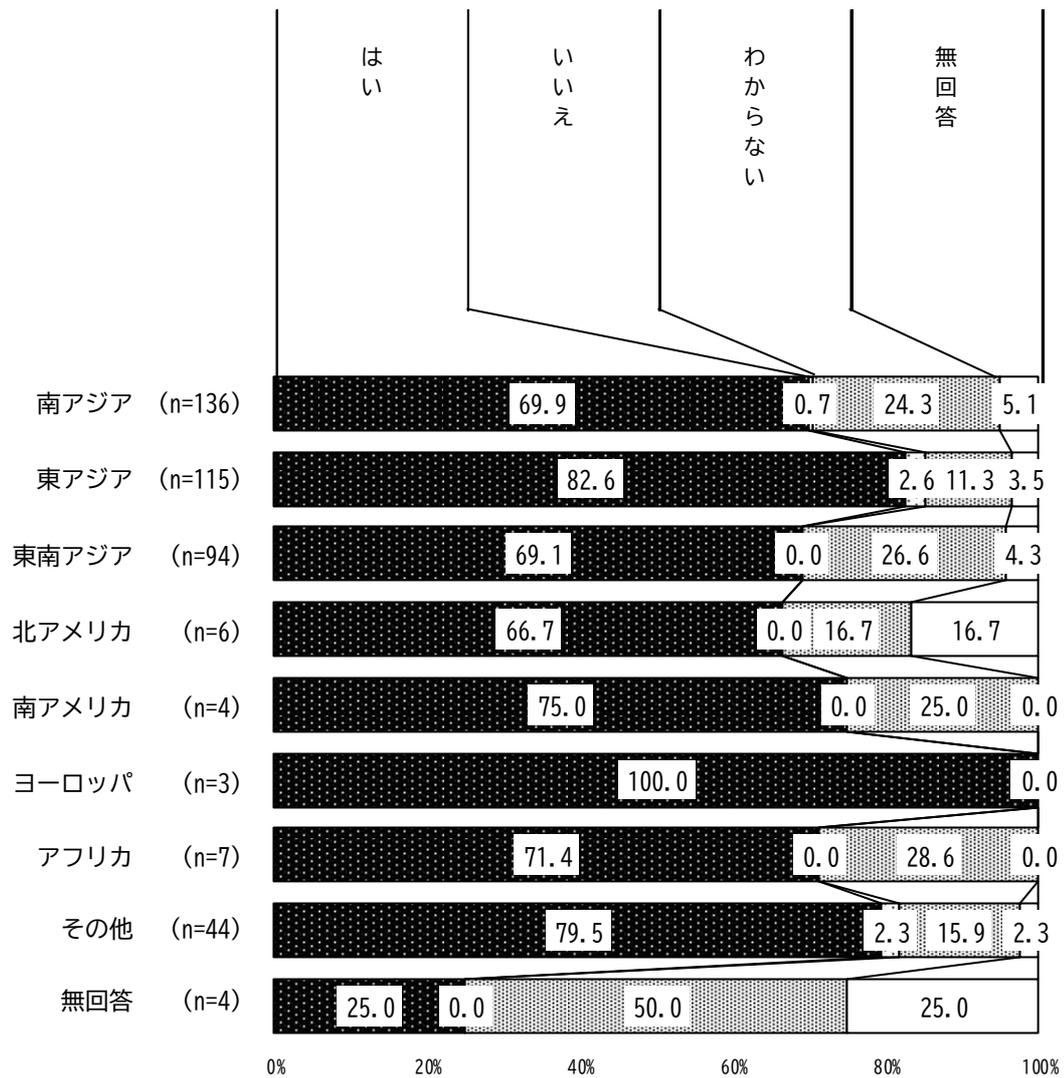
<図表 45-1>



<調査結果>

これからも四街道市に住み続けたいか聞いたところ、「はい」(74.1%)が7割半ばで最も高くなっています。

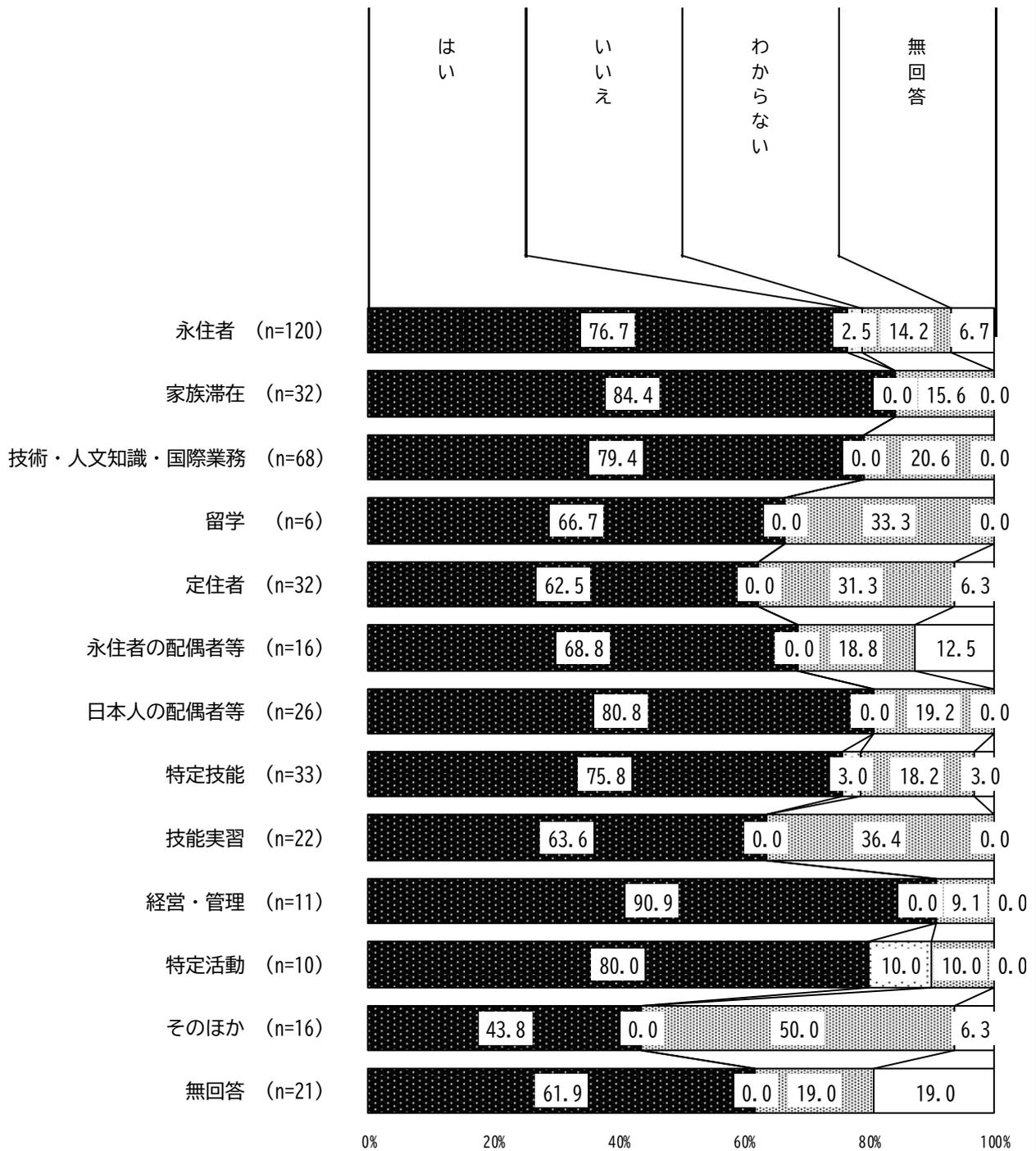
<図表 45 - 2> 国籍地域別



<調査結果>

国籍地域別に見ると、すべての国籍地域で「はい」が最も高くなっています。

<図表 45 - 3> 在留資格別



<調査結果>

在留資格別に見ると、そのほかの在留資格では「いいえ」が若干上回っていますが、それ以外の在留資格では「はい」が最も高くなっています。

四街道市 多文化共生市民意識調査 調査報告書

令和7年3月発行

発 行

四街道市役所 地域共創部 みんなで課

所在地：〒284-8555

千葉県四街道市鹿渡無番地

TEL：043-421-2111（代表）

URL：<https://www.city.yotsukaido.chiba.jp/>